

男女共同参画に関する
市民意識調査報告書

令和3年7月
佐賀県小城市

目 次

I	調査概要	3
1.	調査の目的	3
2.	調査の実施方法	3
3.	報告書利用上の注意	3
II	調査結果	5
1.	回答者の属性	5
2.	家庭生活について	11
3.	教育・子育てについて	17
4.	働くことについて	29
5.	夫婦や恋人同士などの暴力について	33
6.	男女共同参画社会について	53
7.	自由意見	103
	参考資料	111
	○調査票	111

I 調查概要

I 調査概要

1. 調査の目的

本調査は、小城市における男女共同参画に関する意識と実態を把握し、今後の男女共同参画社会の実現に向けた施策の基礎資料とする。

2. 調査の実施方法

(1) 調査方法 調査票による郵送調査

(2) 調査期間 令和3年2月2日～令和3年2月22日

(3) 調査対象者 小城市内に居住する満19歳以上の市民

(4) 標本抽出方法 住民基本台帳からの無作為抽出

(5) 回収結果

調査対象者数	有効回答数	有効回答率
2,000人	733人	36.65%

(6) 調査項目

1. 回答者の属性
2. 家庭生活について
3. 教育・子育て・介護について
4. 働くことについて
5. 夫婦や恋人同士などの暴力について
6. 男女共同参画について
7. 自由意見

3. 報告書利用上の注意

- 端数処理の関係上、構成比(%)の計が100%とならないことがあります。
- 図表の構成比(%)は小数第2位以下を四捨五入したものです。
- 複数回答の設問は、すべての構成比(%)を合計すると100%を超える場合があります。
- 図表の「H22」は平成22年度、「H27」は平成27年度、「R2」は令和2年度を表しています。

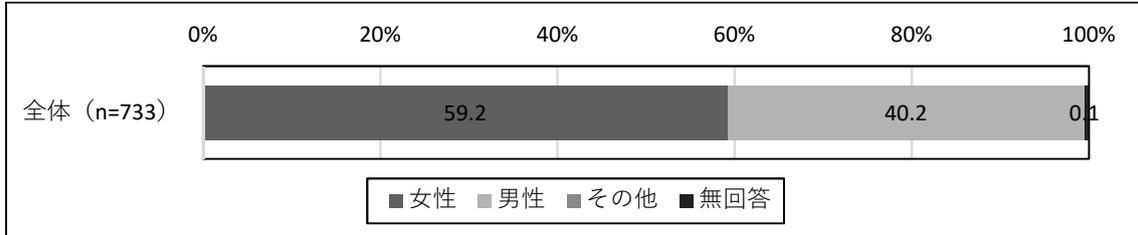
Ⅱ 調查結果

Ⅱ 調査結果

1. 回答者の属性

(1) 性別

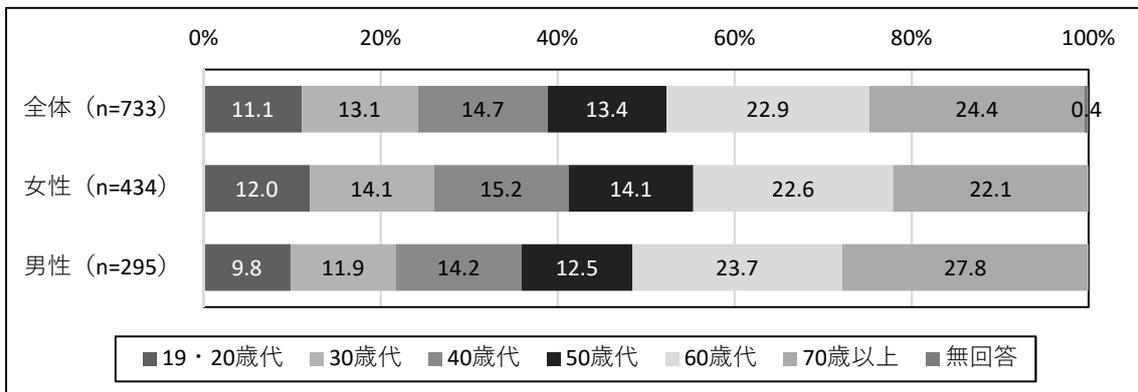
「女性」が59.2%、「男性」が40.2%となっています。



(2) 年代

「70歳代」が24.4%で最も高く、次いで「60歳以上」22.9%、「40歳代」14.7%の順となっています。

性別で見ると、「50歳代以下」では、女性が男性より回答した割合が高く、「70歳以上」では、男性（27.8%）が女性（22.1%）より5.7%高くなっています。

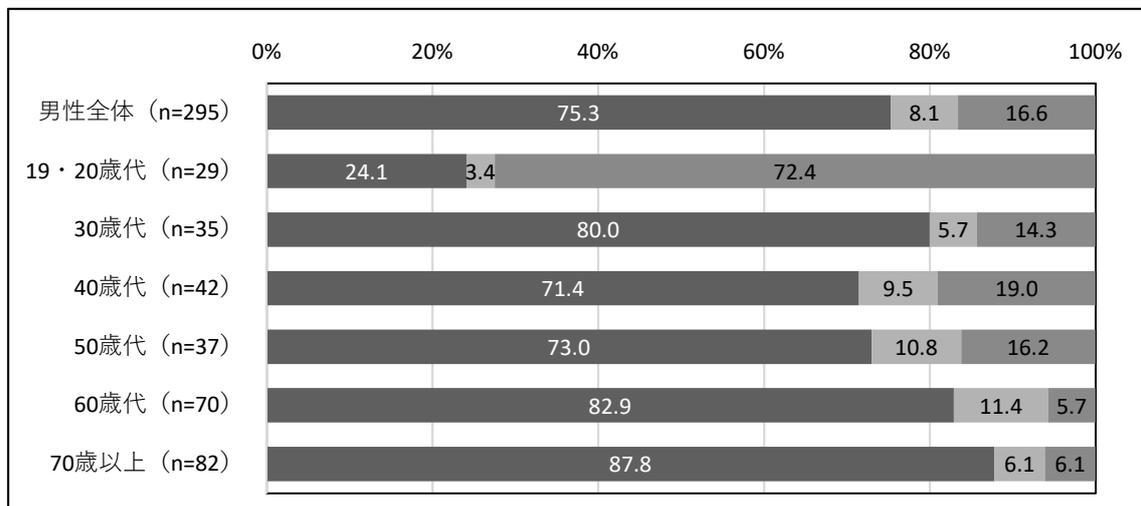
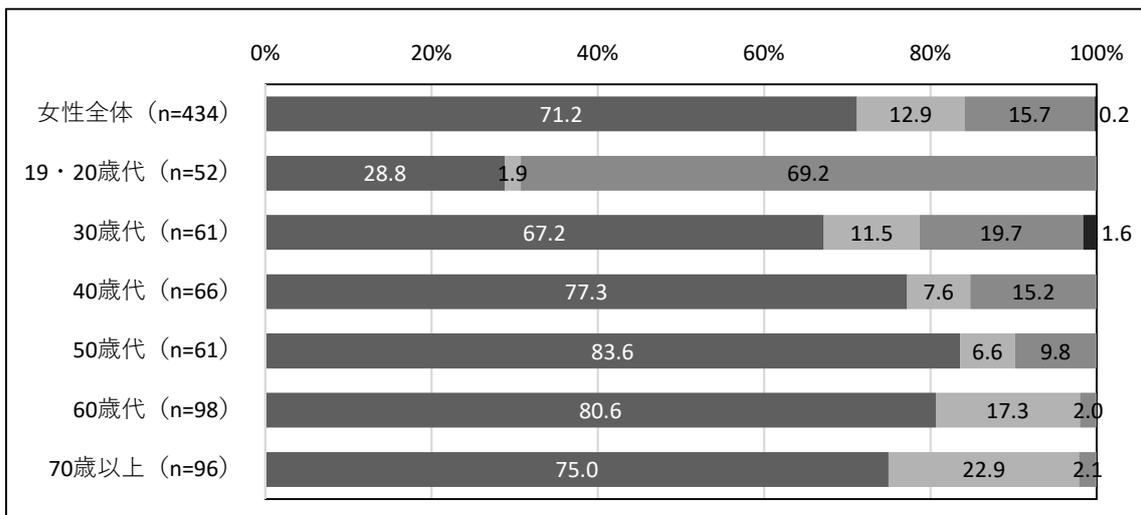
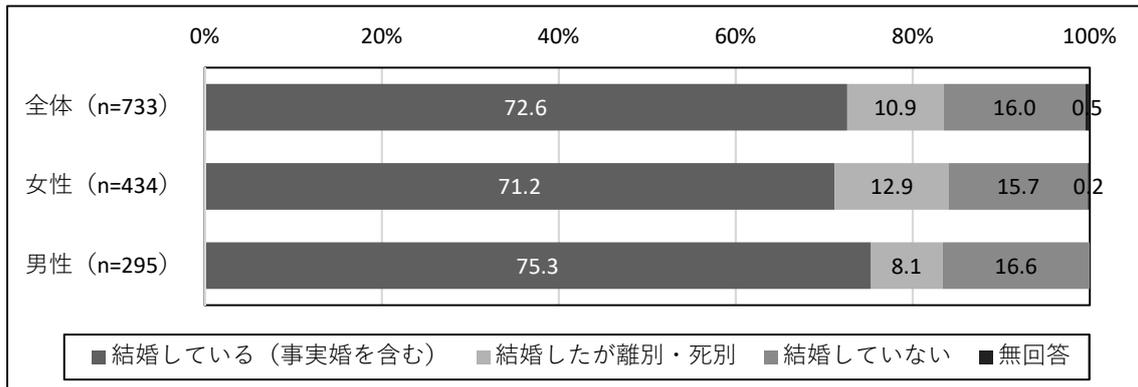


(3) 結婚の状況

「結婚している（事実婚を含む）」が72.6%で最も高く、次いで「結婚していない」16.0%、「結婚したが離別・死別」10.9%の順となっています。

性別で見ると、「結婚したが離別・死別」と回答した割合は、女性（12.9%）が男性（8.1%）より4.8%高く、「結婚している（事実婚を含む）」と回答した割合は、男性（75.3%）が女性（71.2%）より4.1%高くなっています。

性別・年代別で見ると、「結婚している（事実婚を含む）」と回答した割合は、女性の「50歳代」83.6%、男性の「70歳代」87.8%が最も高くなっています。また、「結婚したが離別・死別」と回答した割合は、女性の「70歳以上」22.9%、男性の「60歳代」11.4%で高くなっています。



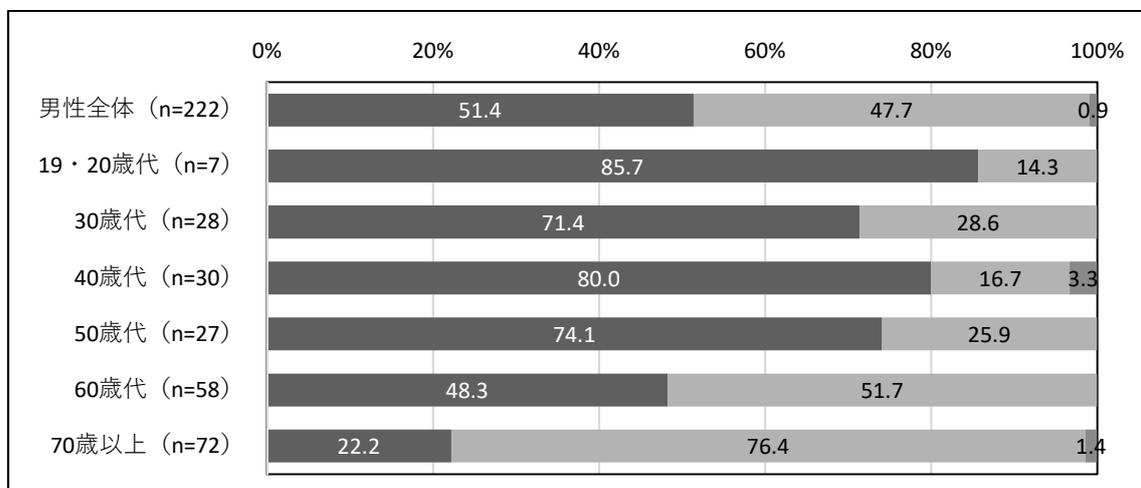
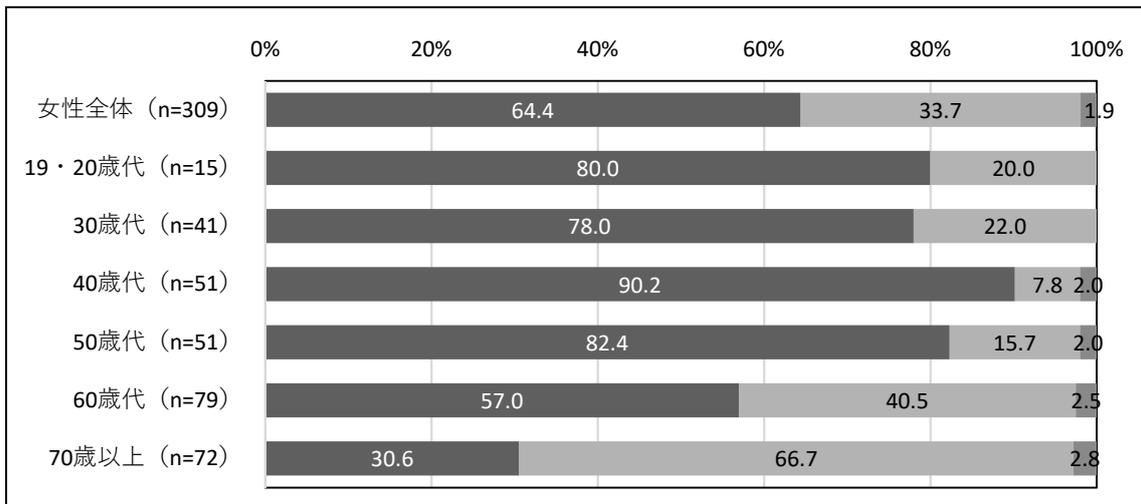
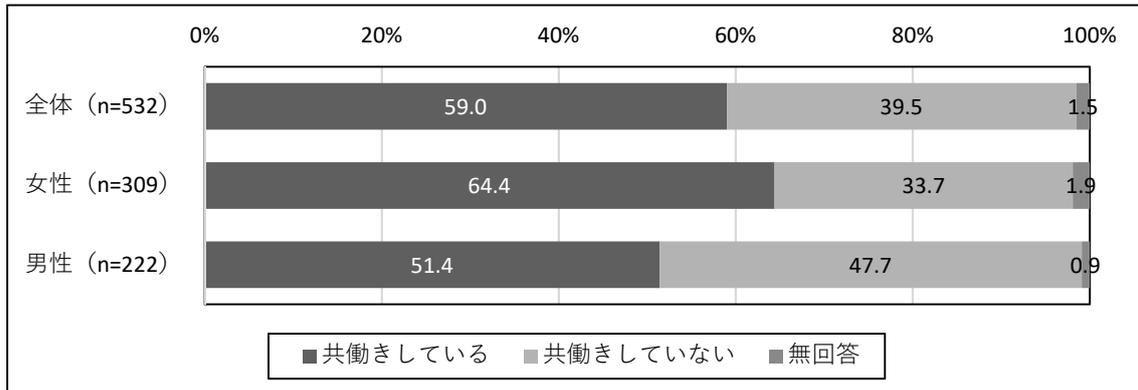
(3) で「結婚している（事実婚を含む）」と回答した方におうかがいします。

(4) 共働きの状況

「共働きしている」が59.0%、「共働きしていない」39.5%となっています。

性別で見ると、「共働きしている」と回答した割合は、女性（64.4%）が男性（51.4%）より13.0%高く、「共働きしていない」と回答した割合は、男性（47.7%）が女性（33.7%）より14.0%高くなっています。

性別・年代別で見ると、「共働きしている」と回答した割合は、女性の「40歳代」90.2%、男性の「19・20歳代」85.7%で高くなっています。

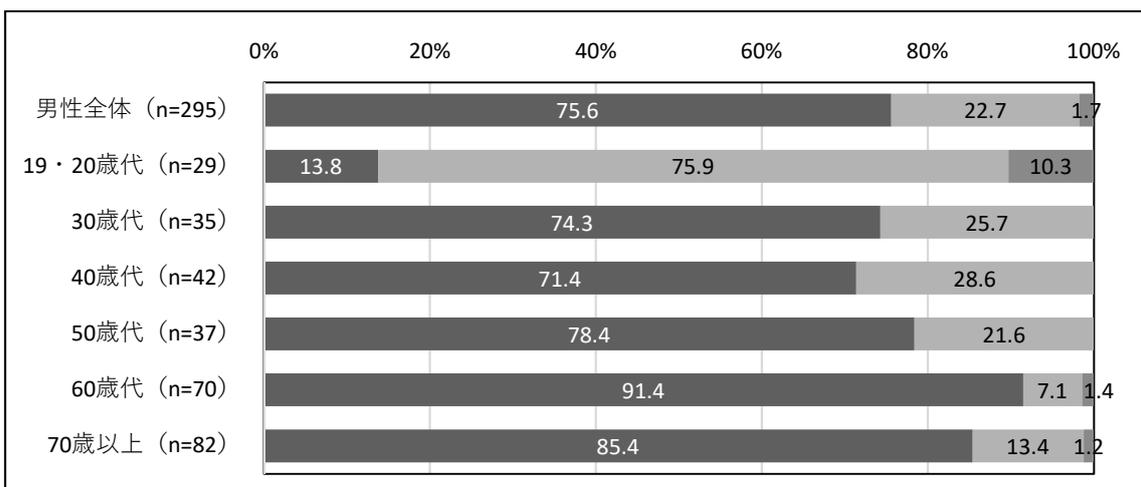
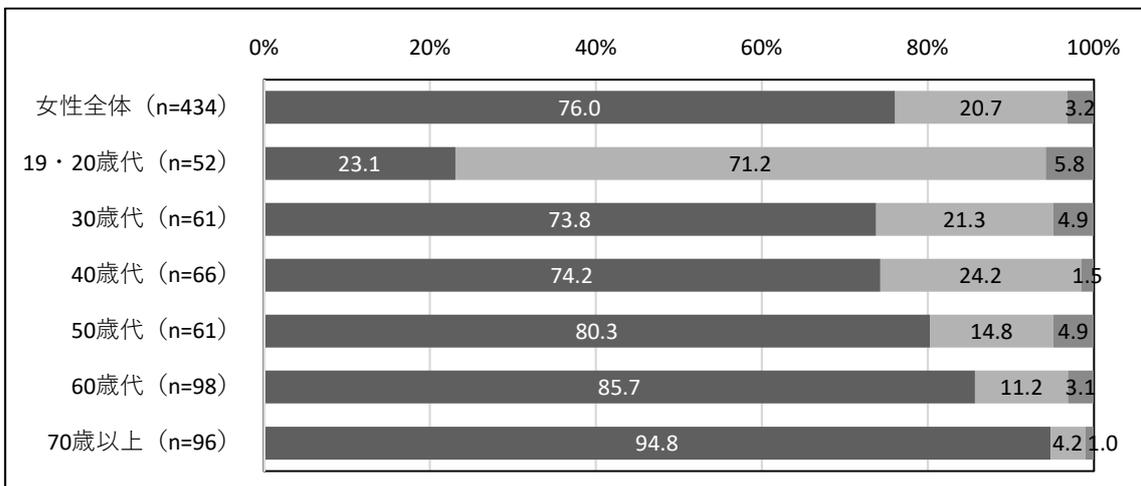
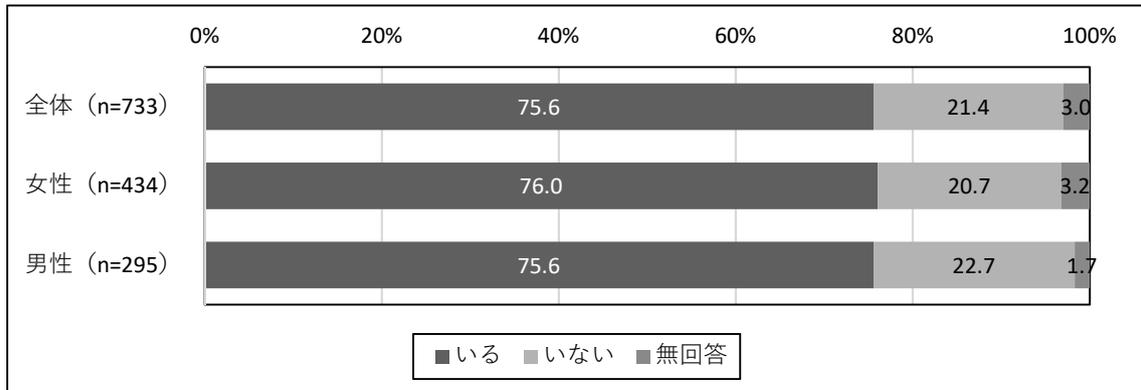


(5) 子どもの状況

「いる」が75.6%、「いない」が21.4%となっています。

性別による大きな差異は見られません。

性別・年代別で見ると、「いる」と回答した割合は、女性・男性ともに「30歳以上」で70%以上となっています。

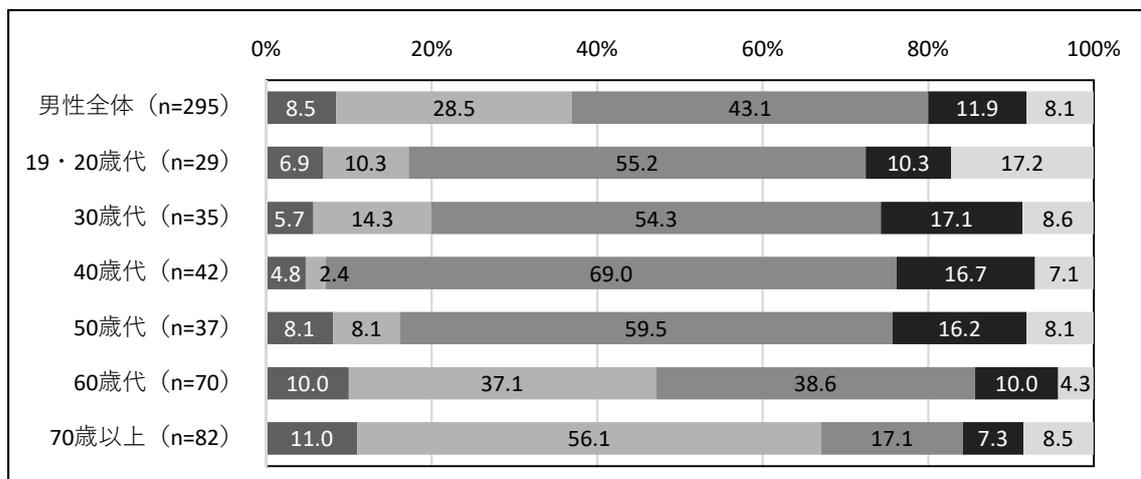
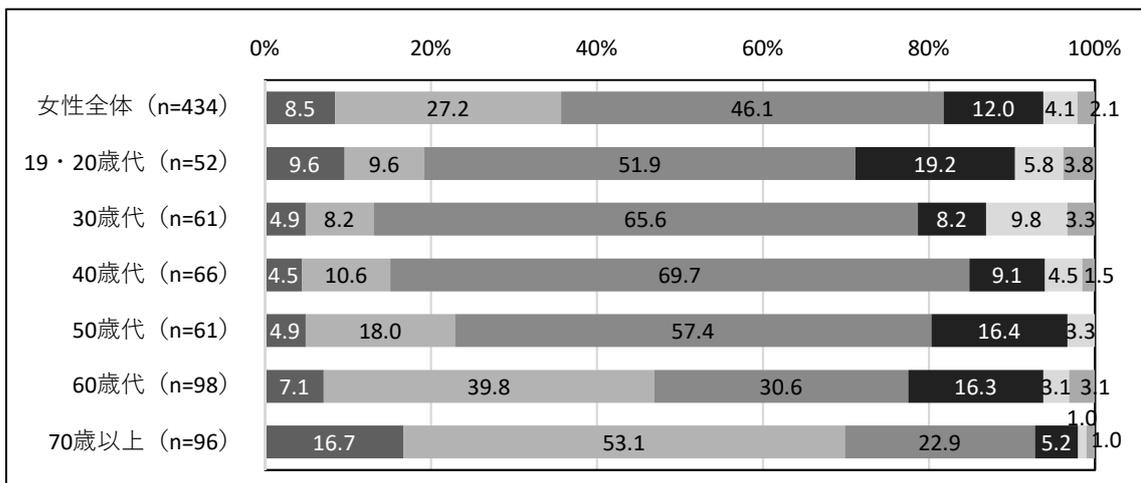
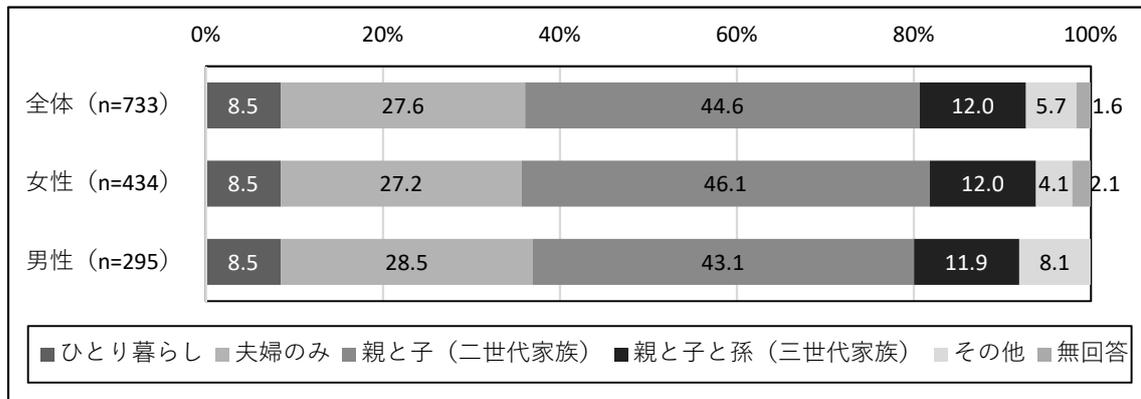


(6) 家族構成

「親と子（二世世代家族）」が44.6%で最も高く、次いで「夫婦のみ」27.6%、「親と子と孫（三世世代家族）」12.0%の順となっています。

性別による大きな差異は見られません。

性別・年代別で見ると、「親と子（二世世代家族）」と回答した割合は、女性・男性ともに「40歳代」が69%台で最も高くなっています。また、「夫婦のみ」と回答した割合は、女性・男性ともに「70歳以上」で50%以上を占めています。

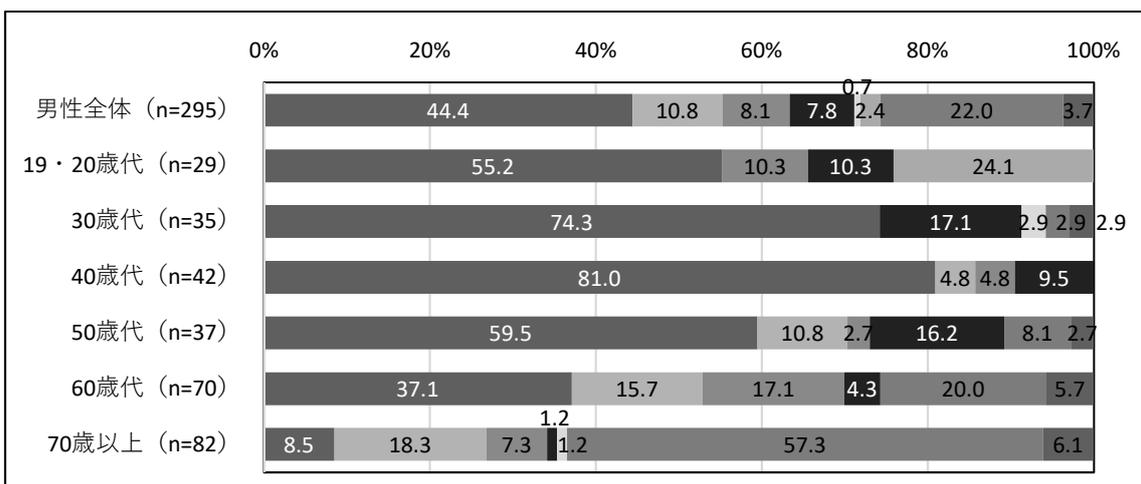
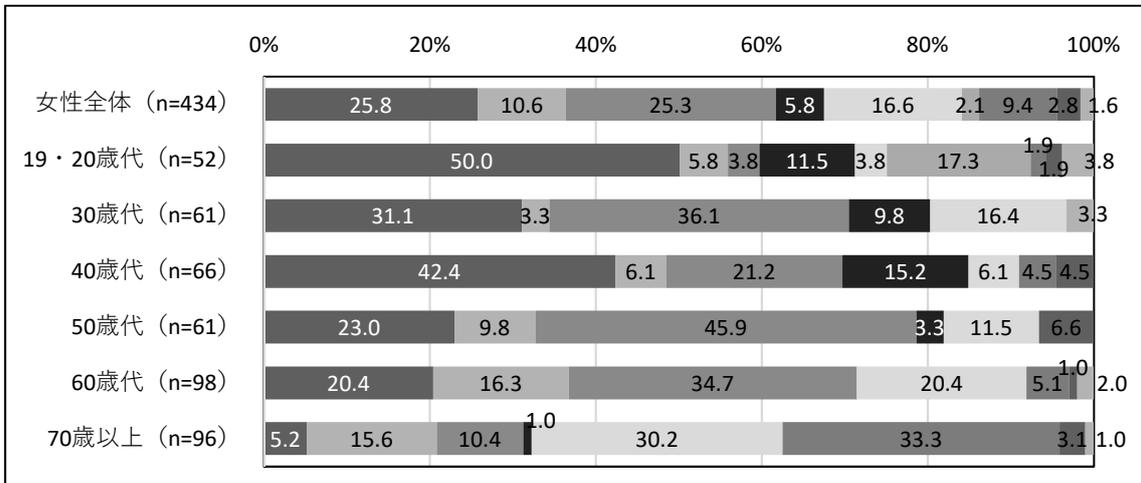
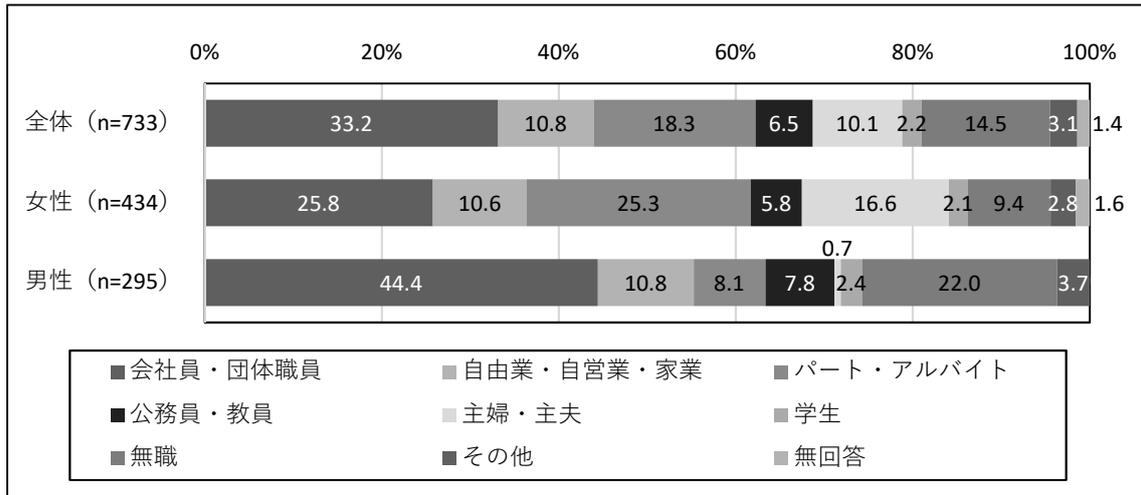


(7) 主な職業

「会社員・団体職員」が33.2%で最も高く、次いで「パート・アルバイト」18.3%、「無職」14.5%の順となっています。

性別で見ると、「会社員・団体職員」と回答した割合は、男性（44.4%）が女性（25.8%）より18.6%高く、「主婦・主夫」と回答した割合は、女性（16.6%）が男性（0.7%）より15.9%高くなっています。

性別・年代別で見ると、「パート・アルバイト」と回答した割合は、女性の「30歳代」及び「50歳～60歳代」で30%以上と高くなっており、「会社員・団体職員」と回答した割合は、男性の「19・20歳～50歳代」で50%以上と高くなっています。



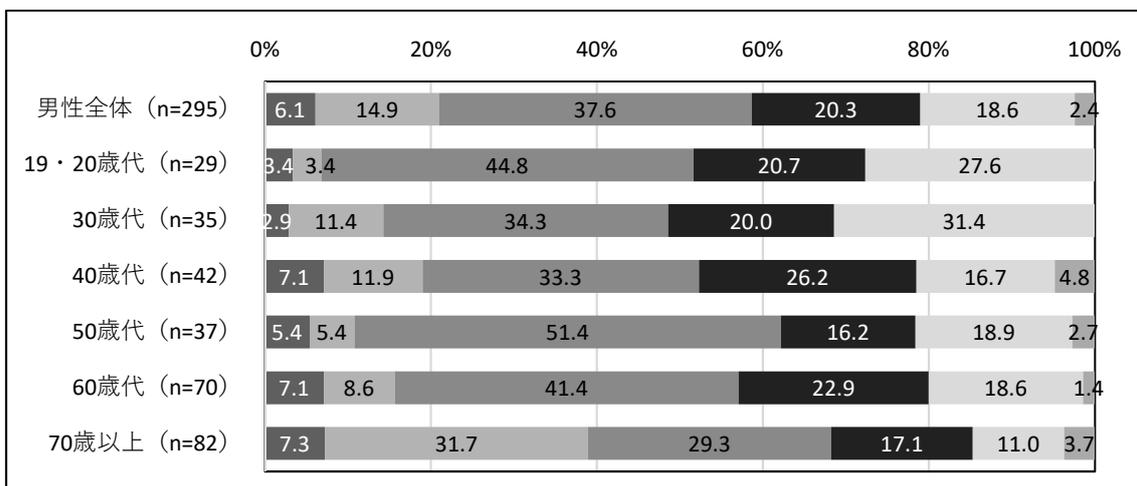
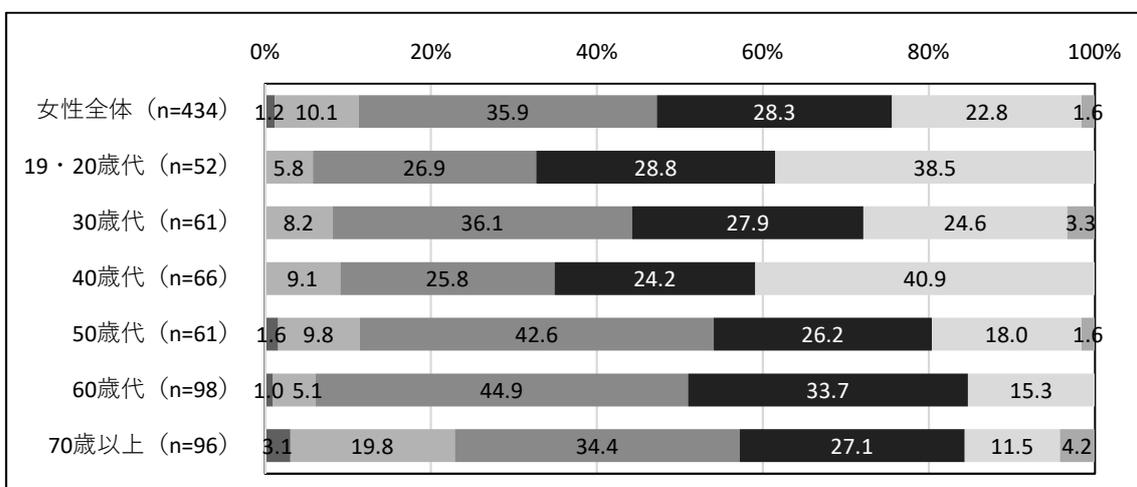
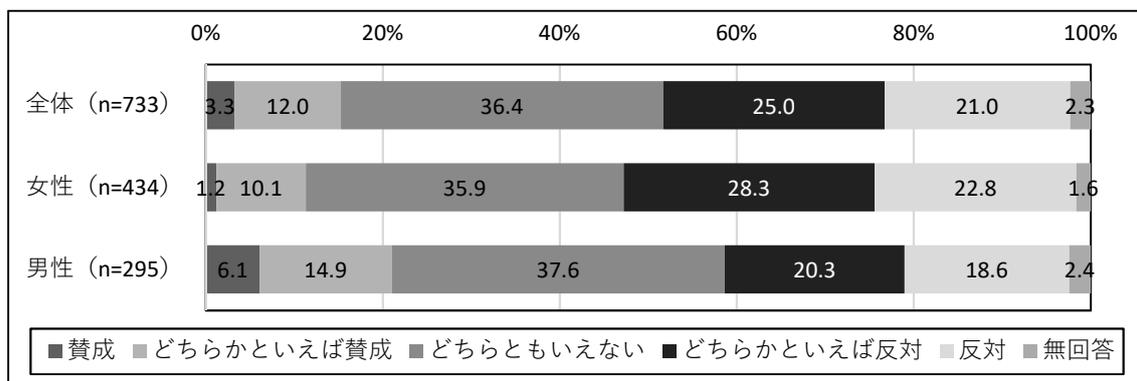
2. 家庭生活について

(8)「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、あなたの考えに近いものを1つ選んでください。

「どちらともいえない」が36.4%で、『反対』（「反対」+「どちらかといえば反対」）46.0%、『賛成』（「賛成」+「どちらかといえば賛成」）15.3%となっています。

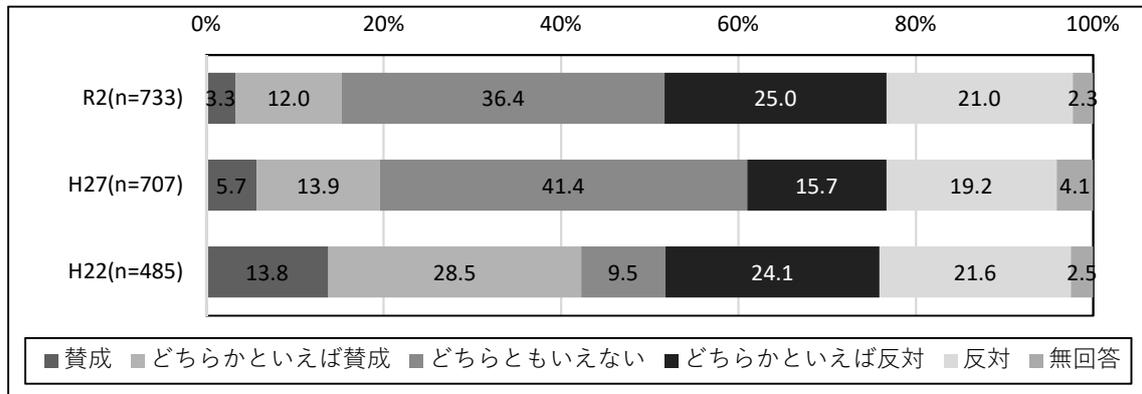
性別で見ると、『賛成』と回答した割合は、男性（21.0%）が女性（11.3%）より9.7%高くなっています。

性別・年代別で見ると、『反対』と回答した割合は、女性の「19・20歳代」で50%以上と高くなっており、男性の「30歳代」で51.4%と高くなっています。一方、『賛成』と回答した割合は、女性・男性ともに「70歳以上」で20%以上、特に男性は39.0%と高くなっています。



H22 と R2 の調査を比較すると、『賛成』と回答した割合は、R2 (15.3%) が H22 (42.3%) より 27%低くなっています。

H27 と R2 の調査を比較すると、『反対』と回答した割合は、R2 (46.0%) が H27 (34.9%) より 11.1%高くなっています。



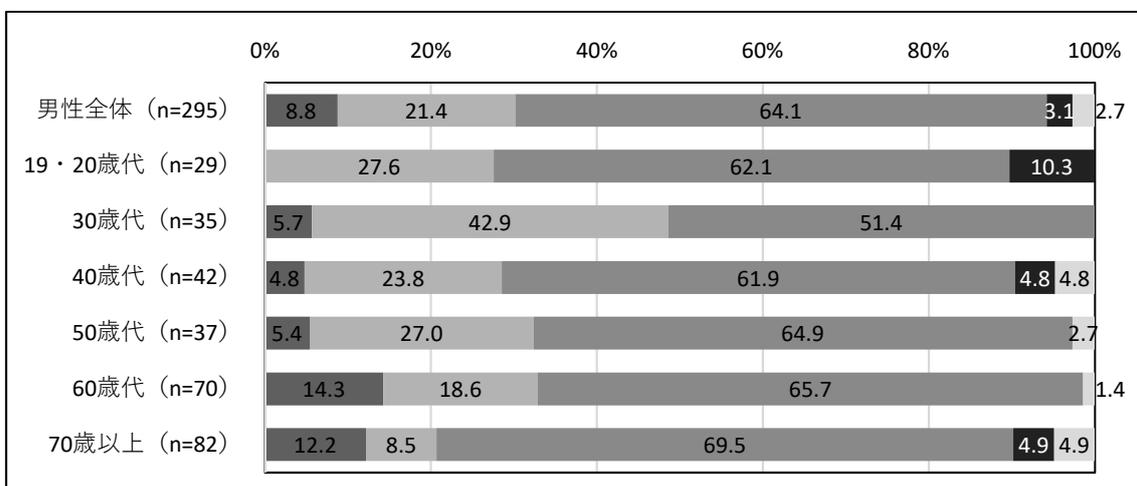
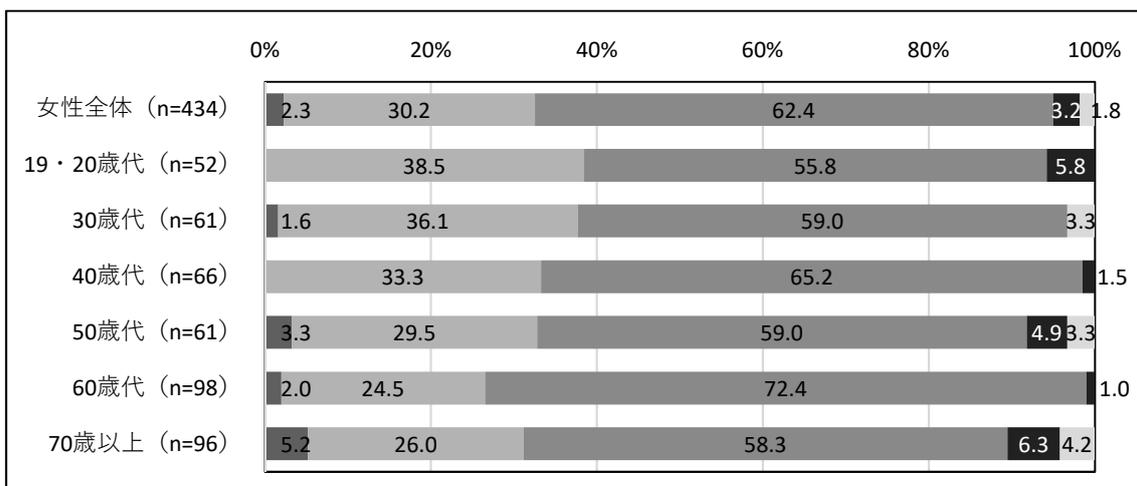
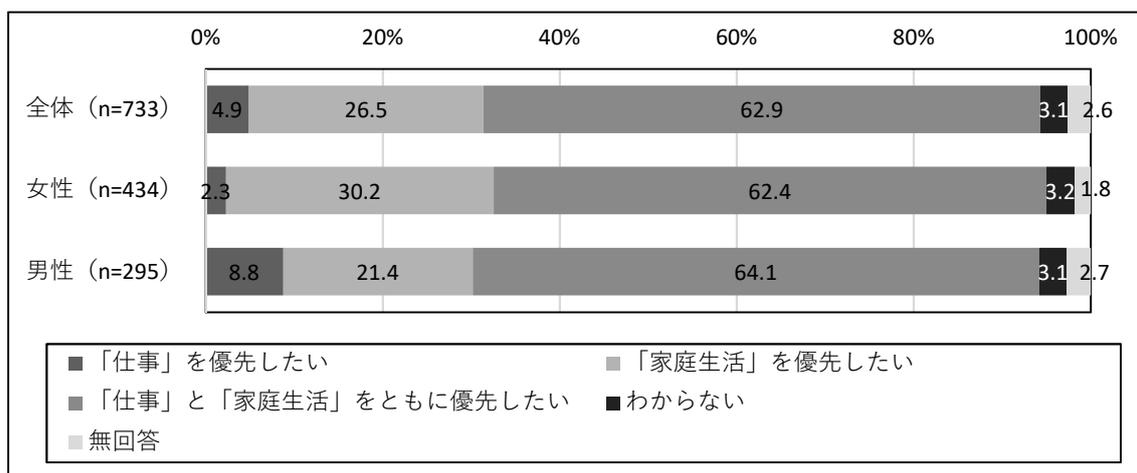
※H22 の調査では、「どちらともいえない」ではなく「わからない」で集計しているため、グラフ中の「どちらともいえない」の割合は、「わからない」と回答した人の割合を使用しています。

(9) 仕事と生活について、あなたの考えに近いものを1つ選んでください。

『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が62.9%で最も高く、次いで『家庭生活』を優先したい」26.5%、『仕事』を優先したい」4.9%の順となっています。

性別で見ると、『家庭生活』を優先したい」と回答した割合は、女性(30.2%)が男性(21.4%)より8.8%高く、『仕事』を優先したい」と回答した割合は、男性(8.8%)が女性(2.3%)より6.5%高くなっています。

性別・年代別で見ると、『家庭生活』を優先したい」と回答した割合は、男性の「30歳代」42.9%で最も高くなっています。

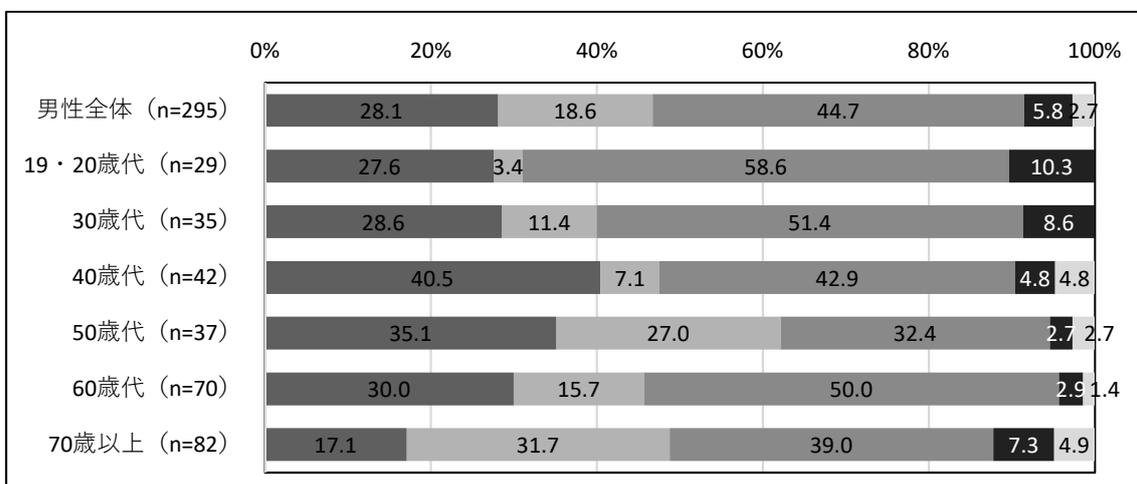
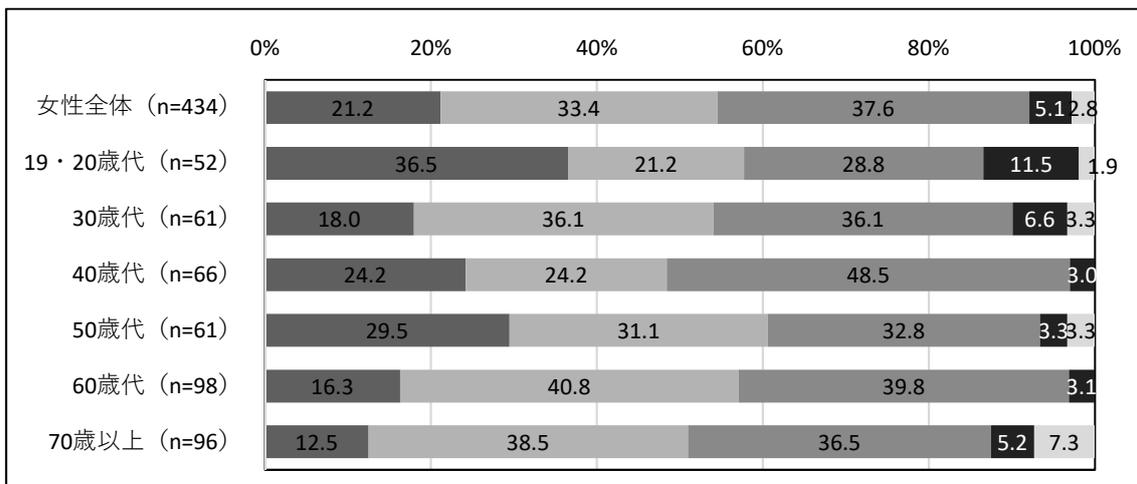
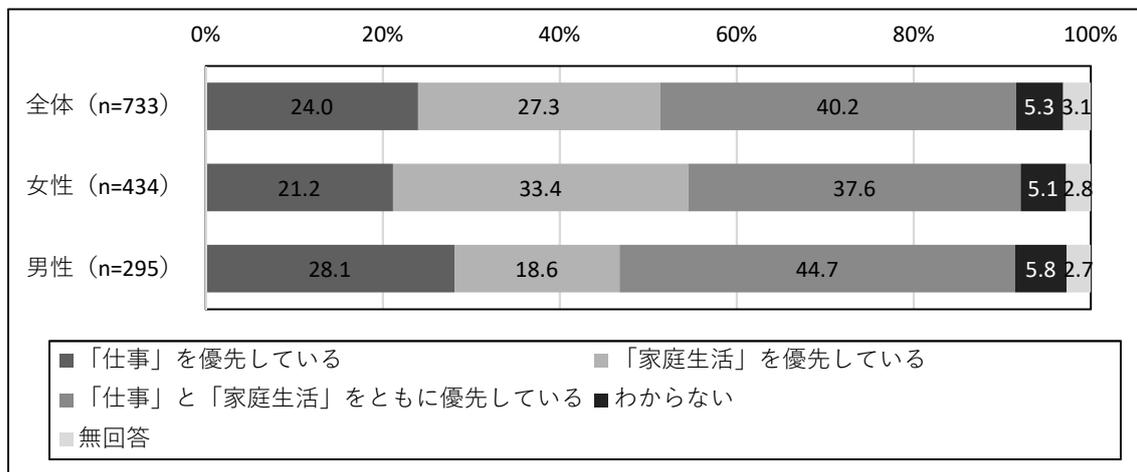


(10) 仕事と生活について、あなたの現実（現状）に近いものを1つ選んでください。

『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が40.2%で最も高く、次いで「『家庭生活』を優先している」27.3%、「『仕事』を優先している」24.0%の順となっています。

性別で見ると、「『家庭生活』を優先している」と回答した割合は、女性(33.4%)が男性(18.6%)より14.8%高く、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」と回答した割合は、男性(44.7%)が女性(37.6%)より7.1%高くなっています。

性別・年代別で見ると、「『仕事』を優先している」と回答した割合は、女性の「19・20歳代」36.5%、「50歳代」29.5%、男性の「40歳代」40.5%で高くなっています。



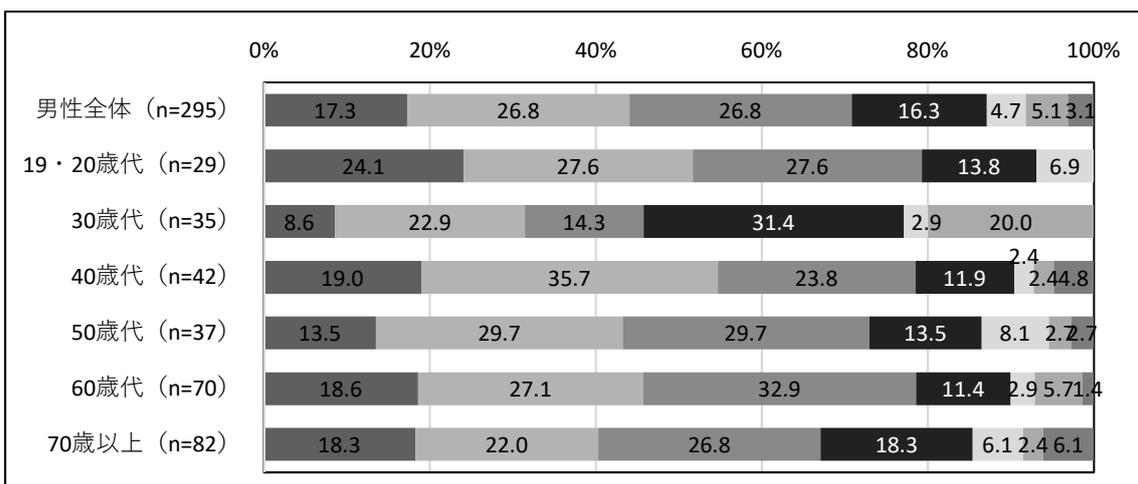
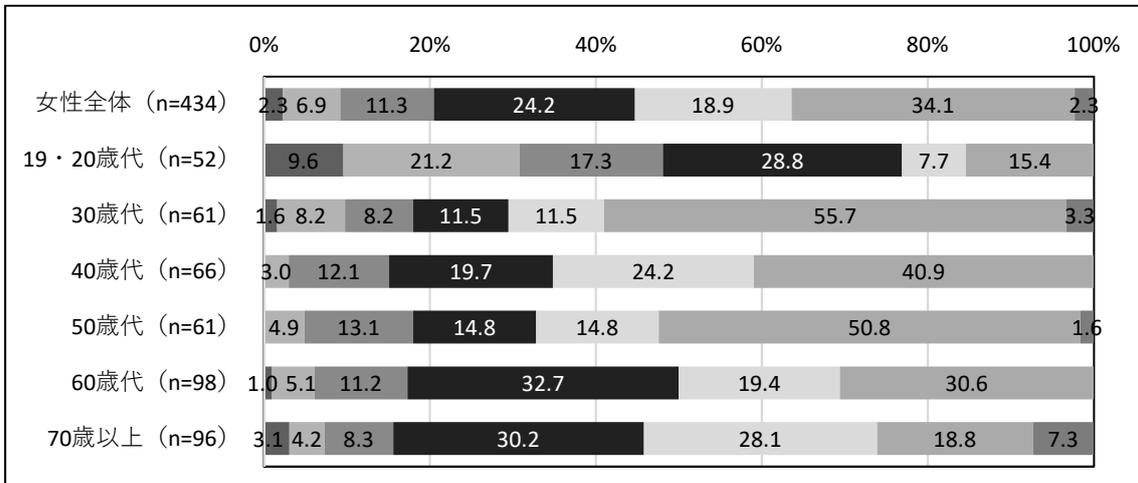
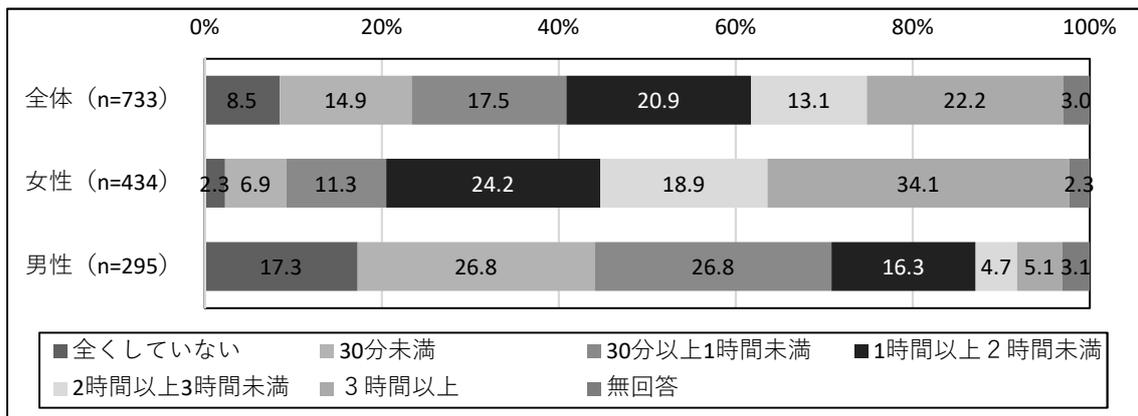
(11) あなたは、1日に平均してどれくらいの時間を家事（育児・介護を含む）にかけていますか。

①平日

「3時間以上」が22.2%で最も高く、次いで「1時間以上2時間未満」20.9%、「30分以上1時間未満」17.5%の順となっています。

性別で見ると、「3時間以上」と回答した割合は、女性（34.1%）が男性（5.1%）より29%高く、「全くしていない」と回答した割合は、男性（17.3%）が女性（2.3%）より15%高くなっています。

性別・年代別で見ると、「3時間以上」と回答した割合は、女性の「30歳代」55.7%が最も高くなっています。また、「1時間以上」と回答した割合は、男性の「30歳代」54.3%と高くなっています。

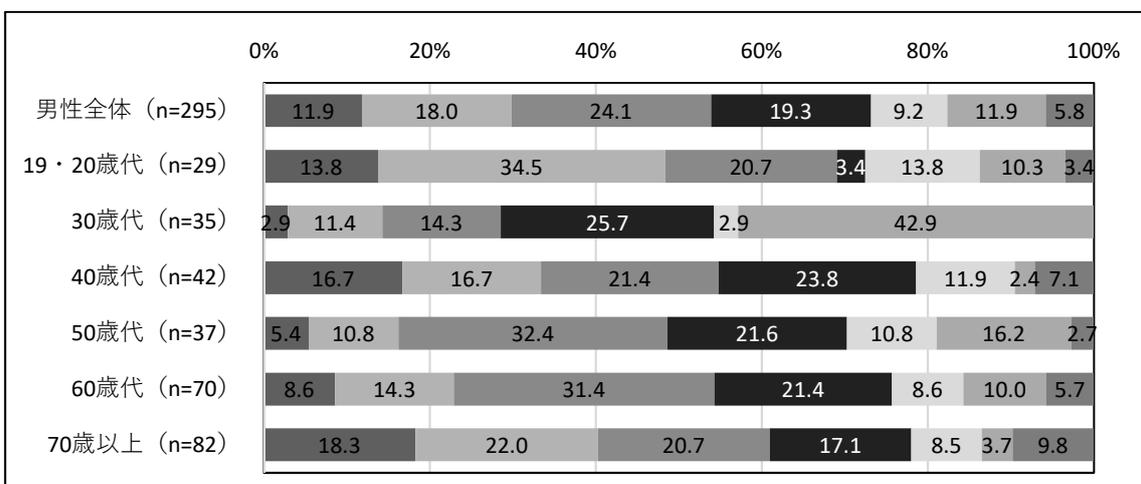
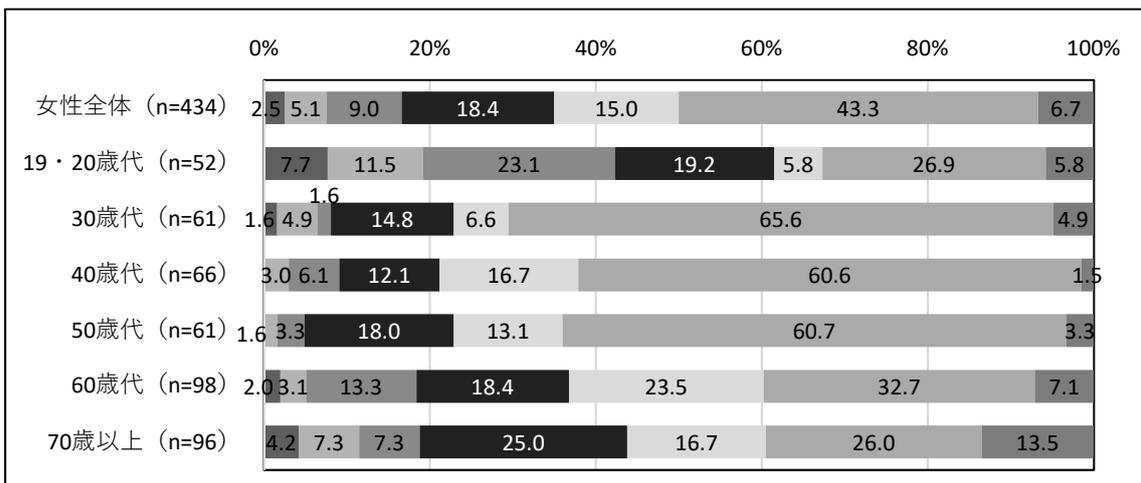
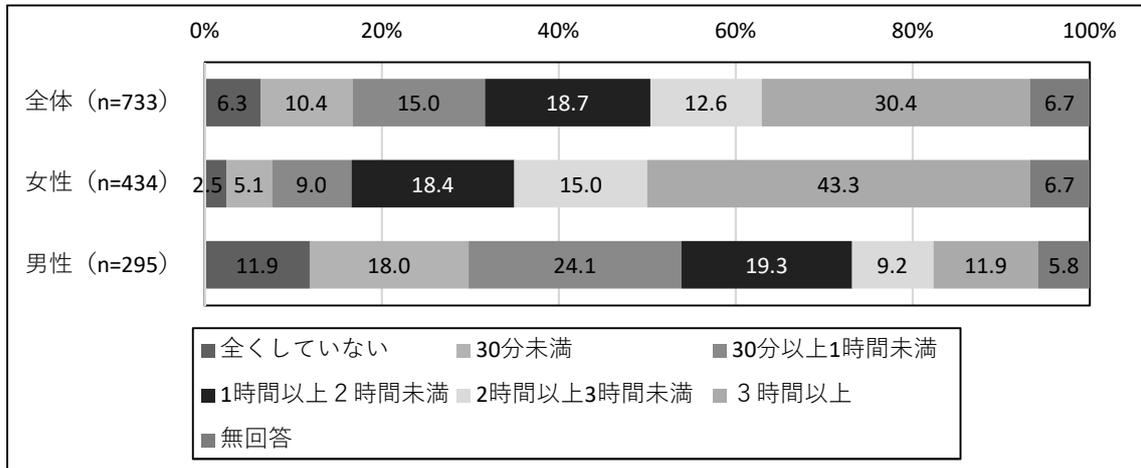


②休日

「3時間以上」が30.4%で最も高く、次いで「1時間以上2時間未満」18.7%、「30分以上1時間未満」15.0%の順となっています。

性別で見ると、「3時間以上」と回答した割合は、女性（43.3%）が男性（11.9%）より31.4%高く、男性で「1時間未満」と回答した割合は、54.0%と半分を占めています。

性別・年代別で見ると、「3時間以上」と回答した割合は、女性の「30歳～50歳代」で60%以上と高くなっており、男性の「30歳代」でも42.9%と高くなっています。



3. 教育・子育てについて

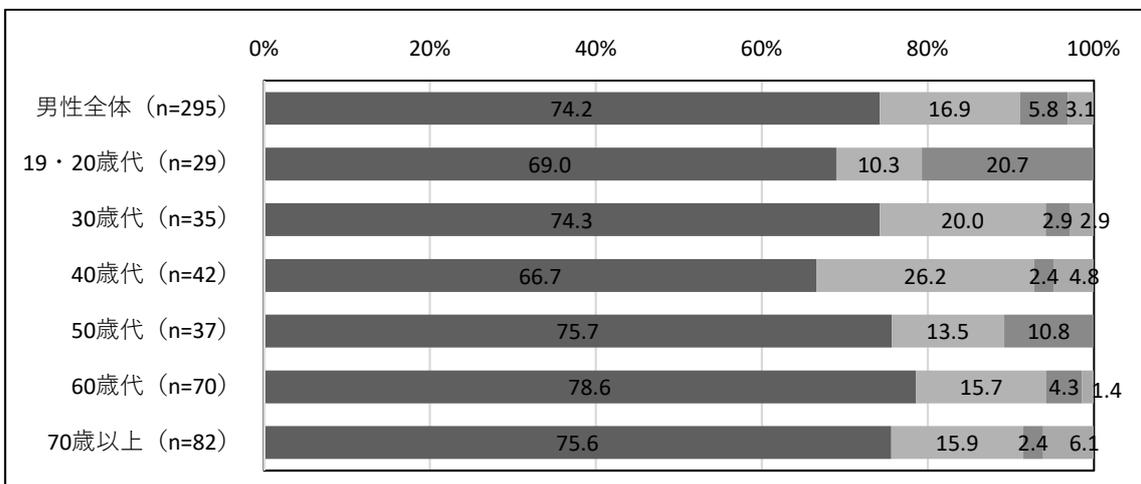
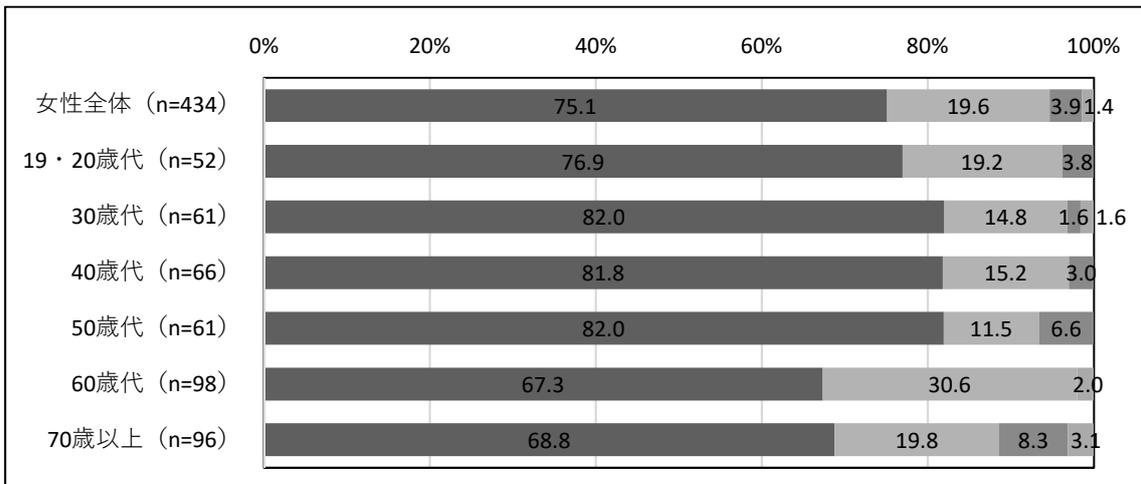
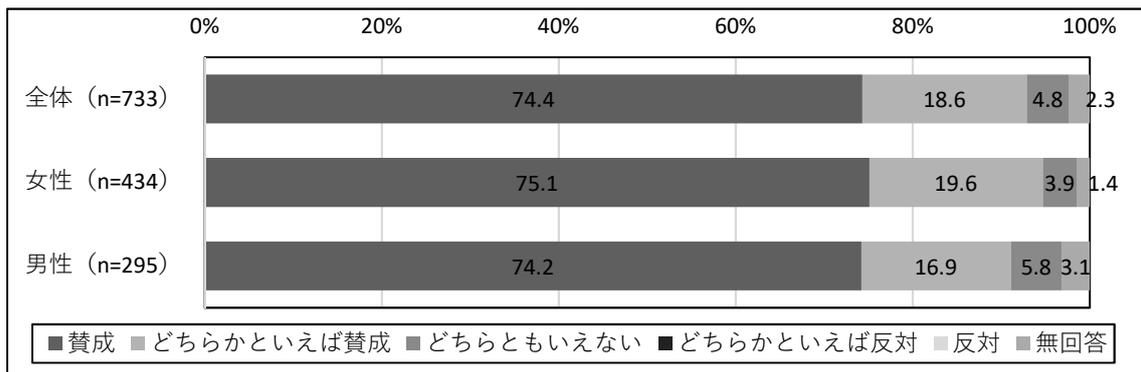
(12) あなたは、子どもの育て方について、どのように考えますか。

①男女を問わず、経済的に自立できるように育てた方がよい

『賛成』（「賛成」+「どちらかといえば賛成」）が93.0%、「どちらともいえない」4.8%、『反対』（「反対」+「どちらかといえば反対」）0.0%となっています。

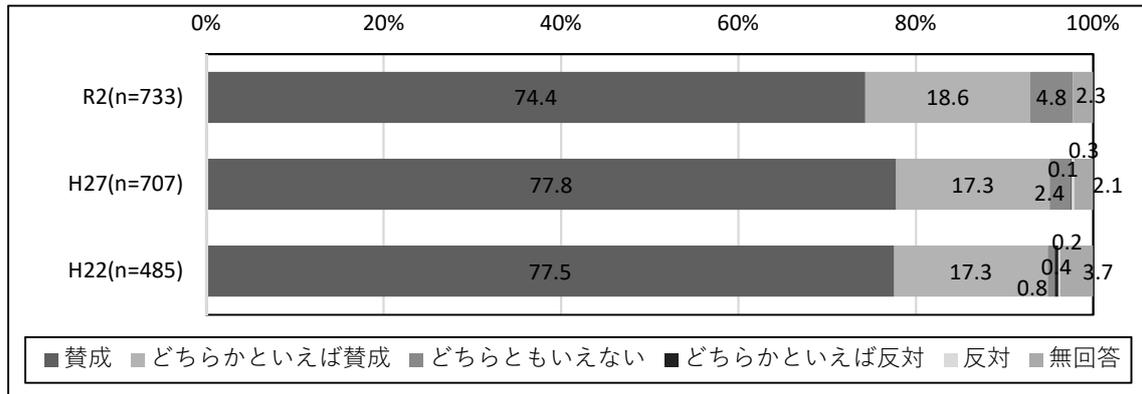
性別で見ると、『賛成』と回答した割合は、女性・男性ともに90%以上となり、性別による大きな差異は見られません。

性別・年代別で見ると、『賛成』と回答した割合は、女性・男性ともにほとんどの年代において90%以上と高くなっています。また、「どちらともいえない」と回答した割合は、男性の「19・20歳代」で20.7%と高くなっています。



H27 と R2 を比較すると、『賛成』と回答した割合は、R2（93.0%）が H27（95.1%）より 2.1%低くなっています。

H22 と R2 を比較すると、「どちらともいえない」と回答した割合は、R2（4.8%）が H22（0.8%）より 4.0%高くなっています。

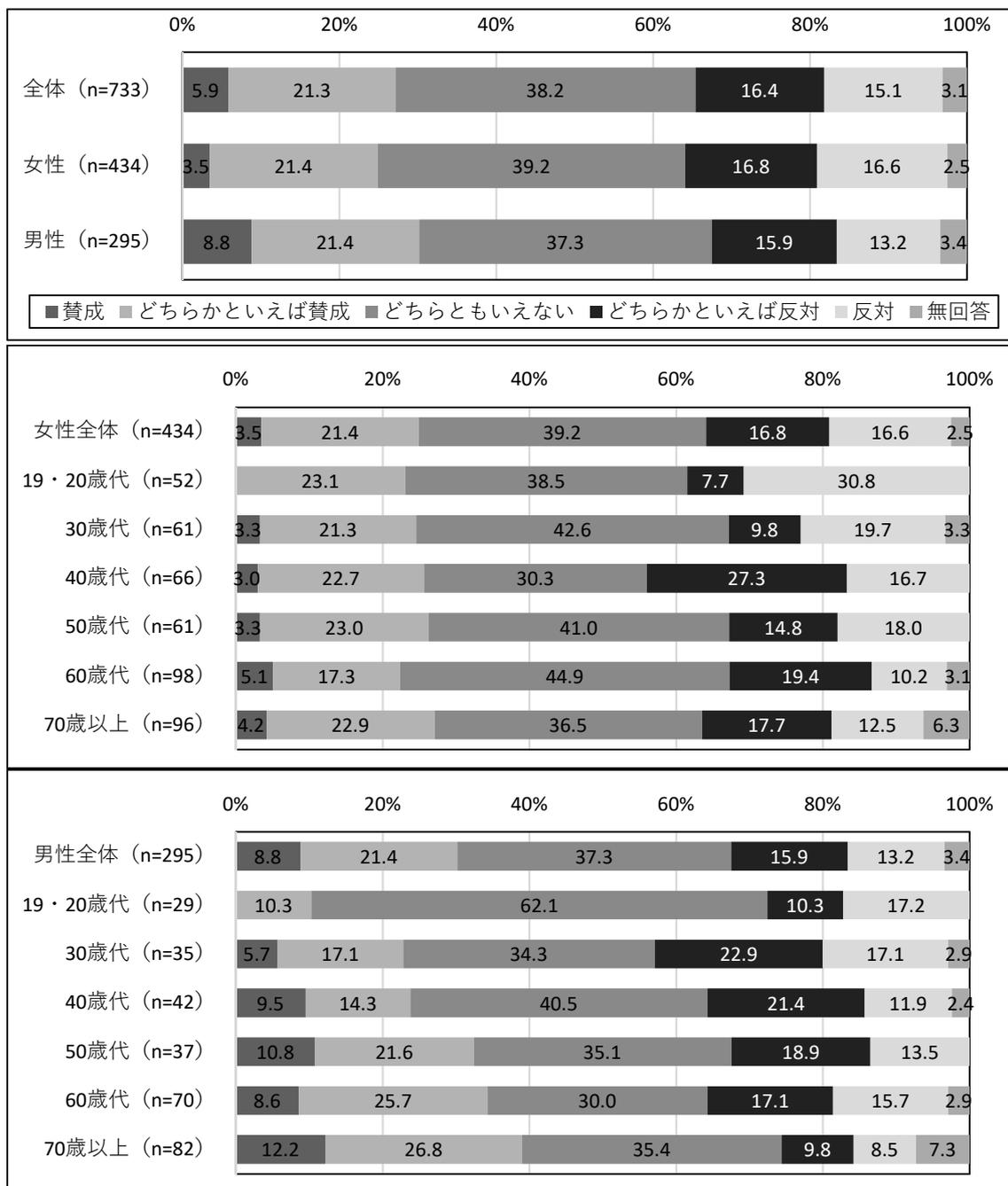


②男性はたくましく、女性は家庭的であると好まれる傾向もあるので、そのように育てた方がよい

『賛成』が27.2%、「どちらともいえない」38.2%、『反対』31.5%となっています。

性別で見ると、『賛成』と回答した割合は、男性（30.2%）が女性（24.9%）より5.3%高くなっています。

性別・年代別で見ると、『反対』と回答した割合は、女性の「40歳代」で44.0%、男性の「30歳代」で40.0%と高くなっています。

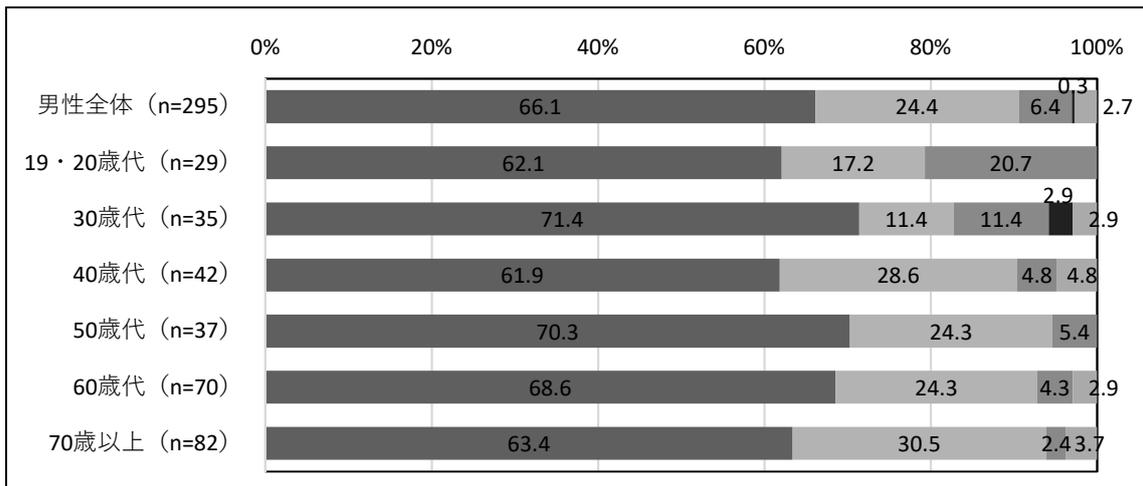
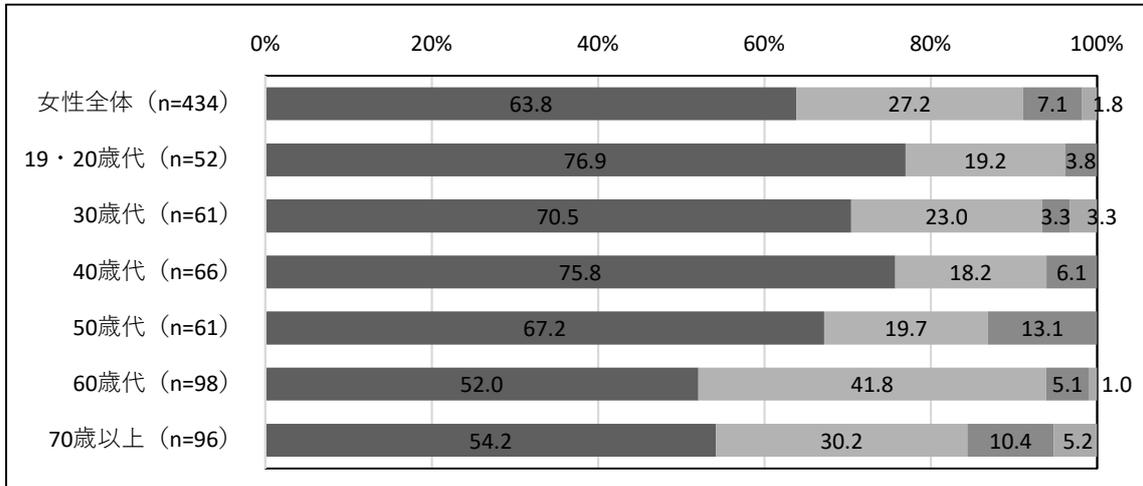
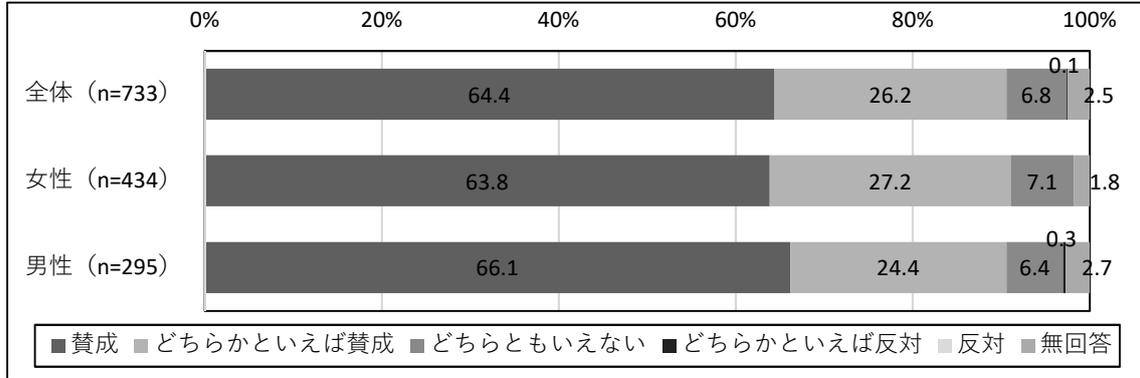


③男女を問わず、生まれ持った個性・才能を可能な限り活かして育てた方がよい

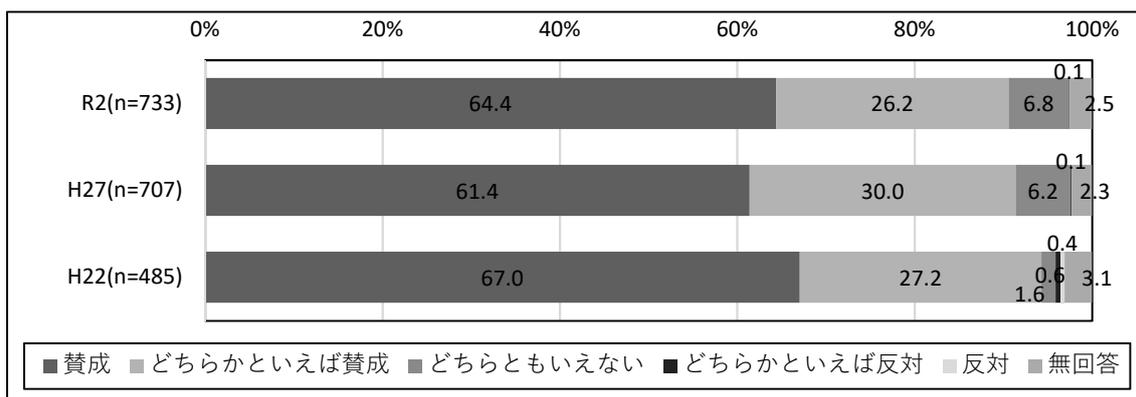
『賛成』が90.6%、「どちらともいえない」が6.8%、『反対』0.1%となっています。

性別で見ると、『賛成』と回答した割合は、女性・男性ともに90%以上となり、性別による大きな差異は見られません。

性別・年代別で見ると、『賛成』と回答した割合は、女性の「19・20歳代」と「60歳代」、男性の「40歳以上」で90%以上と高くなっています。



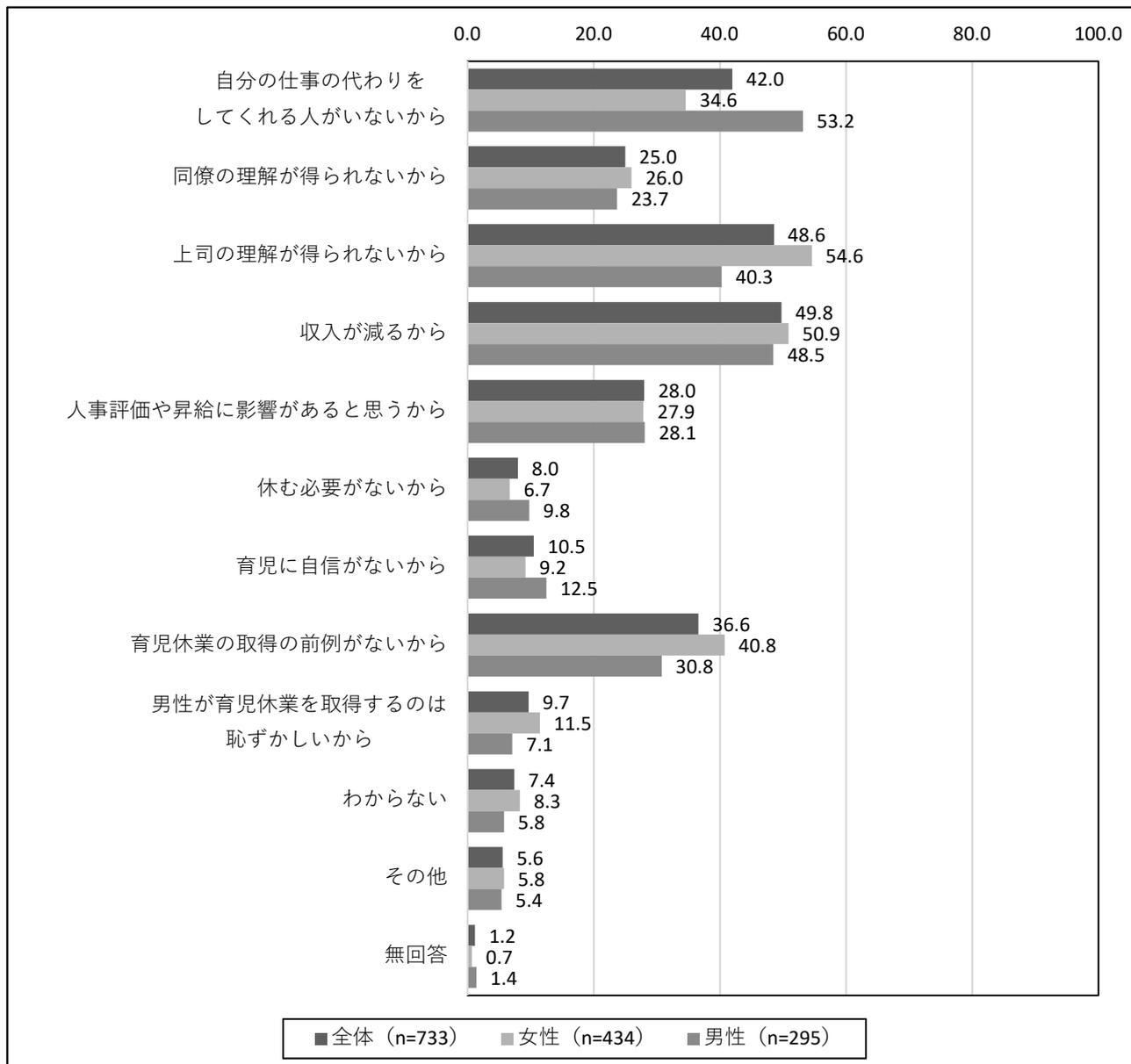
H22とH27、R2の調査を比較すると、『賛成』と回答した割合は、H22（94.2%）、H27（91.4%）、R2（90.6%）と若干低くなってきています。また、「どちらともいえない」と回答した割合は、H22（1.6%）、H27（6.2%）、R2（6.8%）と若干高くなってきています。



(13) あなたは、男性の育児休業の取得が進まない理由は何だと思えますか。(〇は3つまで)

「収入が減るから」が49.8%で最も高く、次いで「上司の理解が得られないから」48.6%、「自分の仕事の代わりにしてくれる人がいないから」42.0%の順となっています。

性別で見ると、「上司の理解が得られないから」と回答した割合は、女性(54.6%)が男性(40.3%)より14.3%高く、「自分の仕事の代わりにしてくれる人がいないから」と回答した割合は、男性(53.2%)が女性(34.6%)より18.6%高くなっています。



性別	年代	その他
女性	19・20 歳代	女性側(妻)や男性の親が取得に積極的ではないのでは？慣習にとらわれている？
女性	19・20 歳代	休む必要性を理解していないから
女性	30 歳代	そもそも取得しようと思わないから
女性	30 歳代	子どもの世話をできないから
女性	30 歳代	男性自身が育児に無関心
女性	30 歳代	上司と同僚の理解が得られないから
女性	30 歳代	日本全体的に、まだまだ「子どもを育てるのは母親の仕事」という考え方が根付いているからだと思います。 また、必要な時間帯だけいてくれればよい。1日中いても産後のママにとって何もしないパパがいるより、手伝ってくれる時間をしっかり手伝ってほしい。
女性	40 歳代	結局妻が育児をし、男性は協力しないイメージがある
女性	40 歳代	授乳など男性では担えないこともあるから
女性	40 歳代	いまだに男性中心で社会が作られているから
女性	40 歳代	変なプライド(男の)
女性	40 歳代	男性自身に「育児をする」意識がない。女性の役割と思われている。
女性	40 歳代	日本社会の良妻賢母論への固執があるから。 育児は女性がすべきという社会的同調圧力の強さ。 男女平等の教育が徹底されていない。 年配世代への意識改革がなされていない。
女性	40 歳代	仕事に責任を持っていないと思われそうなので
女性	40 歳代	男性に育児をする気がないから
女性	60 歳代	まだまだ昔の慣習が残って意識が少ない
女性	60 歳代	社会全体での理解度が低いから
女性	60 歳代	めんどくさいから奥様に頼りすぎ！！
女性	70 歳以上	休んだ後の復帰が不安
女性	70 歳以上	自営業につき(わからない)
男性	30 歳代	まだまだ考えが古い人間(年配)がいて、自分の時代と比べて物を言うからみんなとりづらい。
男性	30 歳代	会社の理解が少ない
男性	30 歳代	夫婦間での事情が有ったり、親に見てもらおうケースが有るから。
男性	40 歳代	会社の理解が得られない
男性	40 歳代	育児休業＝女性という考えが根強く残っているから
男性	40 歳代	母乳が出ない
男性	50 歳代	会社・企業のトップの理解がない為、率先して行わない為、男性の育児休業を強制的に行う
男性	50 歳代	慣習的？体制が社会的に根付いていない為？
男性	50 歳代	女性に比べて男性の取得環境が整っていない
男性	50 歳代	今の会社では、みとめてくれないではないでしょうか
男性	60 歳代	社会の理解がないから
男性	60 歳代	職場に人的余裕がない
男性	60 歳代	国政の法整備がないから(経済的支援)
男性	60 歳代	アルバイトは人間あつかいされていない
男性	70 歳以上	育児休業にあったことがないからわからない

性別・年代別で見ると、「収入が減るから」と回答した割合は、女性・男性ともにほとんどの年代で高くなっていますが、女性・男性ともに「70歳以上」で他の年代より15%程度低くなっています。また、「育児休業の取得の前例がないから」と回答した割合は、女性の「19・20歳代」50.0%、男性の「30歳代」40.0%で高くなっています。

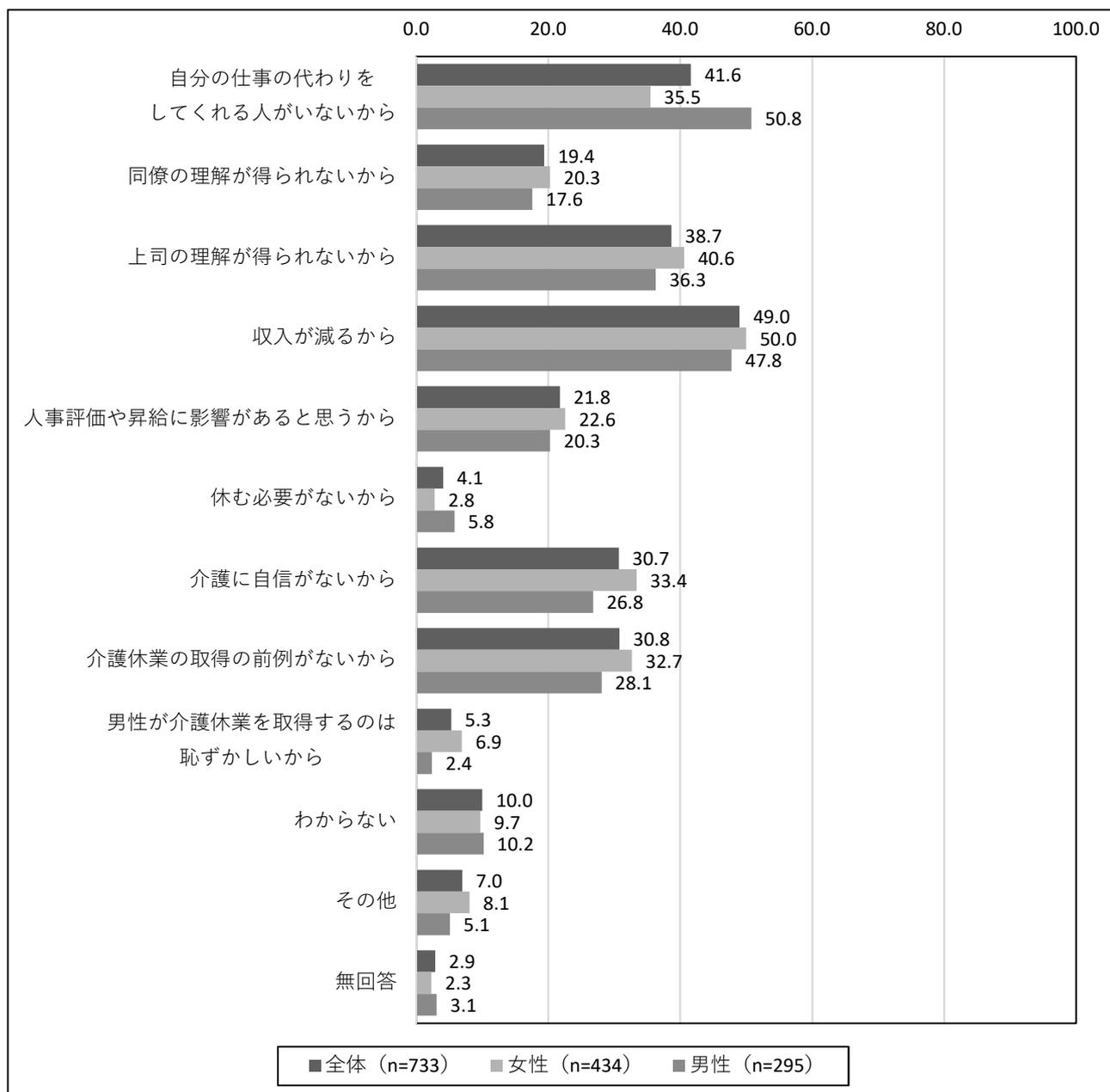
選択項目	女性全体 (n=434)	19・20歳代 (n=52)	30歳代 (n=61)	40歳代 (n=66)	50歳代 (n=61)	60歳代 (n=98)	70歳以上 (n=96)
自分の仕事の代わりにしてくれる人がいないから	34.6	26.9	27.9	25.8	47.5	37.8	37.5
同僚の理解が得られないから	26.0	42.3	26.2	24.2	19.7	24.5	24.0
上司の理解が得られないから	54.6	82.7	57.4	59.1	59.0	49.0	37.5
収入が減るから	50.9	44.2	57.4	51.5	60.7	59.2	35.4
人事評価や昇給に影響があると思うから	27.9	25.0	27.9	42.4	19.7	28.6	24.0
休む必要がないから	6.7	1.9	4.9	6.1	9.8	6.1	9.4
育児に自信がないから	9.2	1.9	11.5	10.6	9.8	10.2	9.4
育児休業の取得の前例がないから	40.8	50.0	49.2	30.3	36.1	45.9	35.4
男性が育児休業を取得するのは恥ずかしいから	11.5	15.4	11.5	15.2	16.4	7.1	8.3
わからない	8.3	0.0	1.6	3.0	4.9	9.2	21.9
その他	5.8	3.8	8.2	13.6	1.6	3.1	5.2
無回答	0.7	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	2.1

選択項目	男性全体 (n=295)	19・20歳代 (n=29)	30歳代 (n=35)	40歳代 (n=42)	50歳代 (n=37)	60歳代 (n=70)	70歳以上 (n=82)
自分の仕事の代わりにしてくれる人がいないから	53.2	41.4	48.6	59.5	54.1	54.3	54.9
同僚の理解が得られないから	23.7	20.7	25.7	9.5	29.7	21.4	30.5
上司の理解が得られないから	40.3	58.6	37.1	33.3	48.6	40.0	35.4
収入が減るから	48.5	37.9	68.6	66.7	48.6	47.1	35.4
人事評価や昇給に影響があると思うから	28.1	34.5	22.9	21.4	24.3	28.6	32.9
休む必要がないから	9.8	6.9	5.7	2.4	5.4	7.1	20.7
育児に自信がないから	12.5	3.4	8.6	9.5	10.8	20.0	13.4
育児休業の取得の前例がないから	30.8	34.5	40.0	35.7	32.4	28.6	24.4
男性が育児休業を取得するのは恥ずかしいから	7.1	3.4	0.0	7.1	5.4	14.3	6.1
わからない	5.8	10.3	5.7	0.0	2.7	4.3	9.8
その他	5.4	0.0	8.6	7.1	10.8	5.7	2.4
無回答	1.4	0.0	2.9	2.4	0.0	0.0	2.4

(14) あなたは、男性の介護休業の取得が進まない理由は何だと思いますか。(〇は3つまで)

「収入が減るから」が49.0%で最も高く、次いで「自分の仕事の代わりにしてくれる人がいないから」41.6%、「上司の理解が得られないから」38.7%、の順となっています。

性別で見ると、「介護に自信がないから」と回答した割合は、女性(33.4%)が男性(26.8%)より6.6%高く、「自分の仕事の代わりにしてくれる人がいないから」と回答した割合は、男性(50.8%)が女性(35.5%)より15.3%高くなっています。



性別	年代	その他
女性	19・20 歳代	介護は女性がするものという慣習が根強いから？
女性	19・20 歳代	介護をしようと思わないから
女性	19・20 歳代	女性が介護するという考えが残っているから
女性	30 歳代	妻がその役割を担うものという暗黙の了解があると思う
女性	30 歳代	女性の仕事だと思っている人が多いから
女性	30 歳代	男性の意識が低いから
女性	30 歳代	介護に対して無関心
女性	30 歳代	男性が働いた方が収入が良いから
女性	30 歳代	上司と同僚の理解が得られないから
女性	30 歳代	女性が介護すべしという考え方の方が多い
女性	30 歳代	自分の親の介護を配偶者に任せて、自分は親孝行したつもりになっているだけだからと思います。なので、なぜ進まないのかと問われてもわからない。
女性	30 歳代	やりたくないから。妻や他の人に任せるから
女性	40 歳代	経験上、会社の理解が得られませんでした
女性	40 歳代	配偶者が代わりにしてくれるから
女性	40 歳代	介護をしたくない男性が多いから
女性	40 歳代	介護しようとする意識がない
女性	40 歳代	男性自身に「介護をやる」意識がない。女性の役割とされている。
女性	40 歳代	男性が母親(女性)の介護をするのは難しい
女性	40 歳代	介護をするものだと思っていない
女性	40 歳代	介護に関しても、女性がすべきという社会的同調圧力が強いから。そもそも、育児や介護を社会全体で担うという意識が低い。
女性	40 歳代	介護は女性がするものだと思込みがあるから
女性	50 歳代	男性が介護をしようと思わないから
女性	60 歳代	介護をする意識がない
女性	60 歳代	思込み？女性がすべきと疑わない。男がすべきものではないと勝手に決めている。
女性	60 歳代	社会的理解が低いから
女性	60 歳代	施設を利用するとか入所する事が出来るから
女性	60 歳代	奥様に頼りすぎ！！
女性	60 歳代	介護は女性の仕事という社会的意識が根強い
女性	60 歳代	介護は男がやるものではないと思っている人が多く、しないでできないと思っている
女性	70 歳以上	時代の違い。身内は送ってしまいました。
女性	70 歳以上	多様性を認める社会、会社になっていないから
女性	70 歳以上	いつまでと言う先がみえない
男性	19・20 歳代	施設に預ければいいと思う(親・子ともにそう望む家庭が多そう)
男性	30 歳代	介護休暇が何日とれるかは不明だが、介護職である自分としては一時的に休みが取れても、支援は毎日続けなければならないので休業より退職を選ばれることも多いかと思います。
男性	30 歳代	この制度を知らなかった
男性	30 歳代	まあ、夫が稼いでどっちかという妻が介護するという考えが一般的な家庭に多いと思う。だいたい家庭は夫の方が収入が多いからじゃないですかね。考え方はその家庭それぞれではあるが夫の手伝いが必要な家庭もあると思うから、そこは職場が気を遣って休みやすい環境にすべきだと思う
男性	30 歳代	介護をしたくないから
男性	40 歳代	社会資源を利用しているから
男性	40 歳代	仕事として収入を得て、代金を支払って介護をやってもらうという考え方が多いから(プロに任せる)
男性	40 歳代	老人ホームが多いから
男性	50 歳代	会社・企業のトップの理解(介護休暇について)不足
男性	50 歳代	男性は逃げてしまう
男性	50 歳代	経済的なサポートが十分ではない
男性	50 歳代	母を介護する場合、女兄弟や妻の方がよいと母自身が考えているから

性別	年代	その他
男性	60 歳代	社会の理解がないから
男性	60 歳代	法整備の遅れ
男性	60 歳代	介護事業に願います

性別・年代別で見ると、「収入が減るから」と回答した割合は、女性・男性ともにほとんどの年代で高くなっていますが、女性・男性ともに「70歳以上」で他の年代より15%程度低くなっています。また、「介護休業の取得の前例がないから」と回答した割合は、女性の「50歳代」47.5%、男性の「30歳代」34.3%で高くなっており、「介護に自信がないから」と回答した割合は、女性・男性ともに「60歳代」で40%以上と高くなっています。

選択項目	女性全体 (n=434)	19・20歳代 (n=52)	30歳代 (n=61)	40歳代 (n=66)	50歳代 (n=61)	60歳代 (n=98)	70歳以上 (n=96)
自分の仕事の代わりにしてくれる人がいないから	35.5	30.8	31.1	31.8	42.6	37.8	36.5
同僚の理解が得られないから	20.3	30.8	21.3	19.7	9.8	21.4	19.8
上司の理解が得られないから	40.6	59.6	50.8	50.0	41.0	27.6	30.2
収入が減るから	50.0	44.2	54.1	51.5	57.4	57.1	37.5
人事評価や昇給に影響があると思うから	22.6	25.0	19.7	34.8	11.5	19.4	25.0
休む必要がないから	2.8	1.9	1.6	0.0	4.9	2.0	5.2
介護に自信がないから	33.4	23.1	29.5	31.8	36.1	49.0	25.0
介護休業の取得の前例がないから	32.7	44.2	29.5	28.8	47.5	31.6	22.9
男性が介護休業を取得するのは恥ずかしいから	6.9	9.6	8.2	6.1	9.8	7.1	3.1
わからない	9.7	1.9	6.6	6.1	3.3	11.2	20.8
その他	8.1	7.7	14.8	15.2	3.3	6.1	4.2
無回答	2.3	1.9	1.6	0.0	3.3	1.0	5.2

選択項目	男性全体 (n=295)	19・20歳代 (n=29)	30歳代 (n=35)	40歳代 (n=42)	50歳代 (n=37)	60歳代 (n=70)	70歳以上 (n=82)
自分の仕事の代わりにしてくれる人がいないから	50.8	37.9	51.4	61.9	48.6	50.0	51.2
同僚の理解が得られないから	17.6	13.8	22.9	9.5	18.9	12.9	24.4
上司の理解が得られないから	36.3	41.4	34.3	23.8	40.5	38.6	37.8
収入が減るから	47.8	41.4	62.9	61.9	48.6	48.6	35.4
人事評価や昇給に影響があると思うから	20.3	20.7	25.7	14.3	18.9	17.1	24.4
休む必要がないから	5.8	3.4	0.0	2.4	2.7	5.7	12.2
介護に自信がないから	26.8	6.9	20.0	23.8	21.6	40.0	29.3
介護休業の取得の前例がないから	28.1	20.7	34.3	33.3	27.0	30.0	24.4
男性が介護休業を取得するのは恥ずかしいから	2.4	0.0	0.0	2.4	5.4	4.3	1.2
わからない	10.2	20.7	11.4	7.1	5.4	5.7	13.4
その他	5.1	3.4	11.4	7.1	10.8	4.3	0.0
無回答	3.1	0.0	0.0	4.8	8.1	0.0	4.9

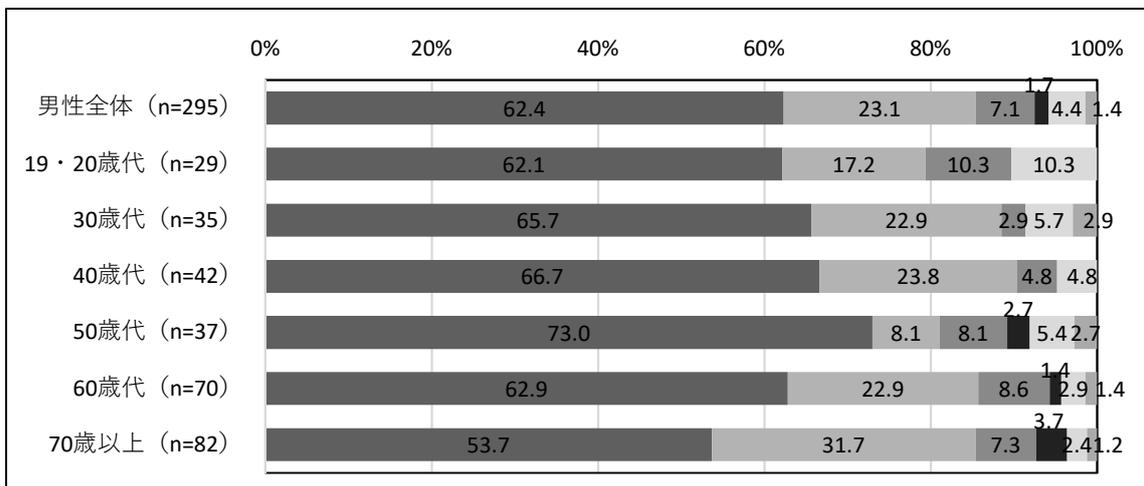
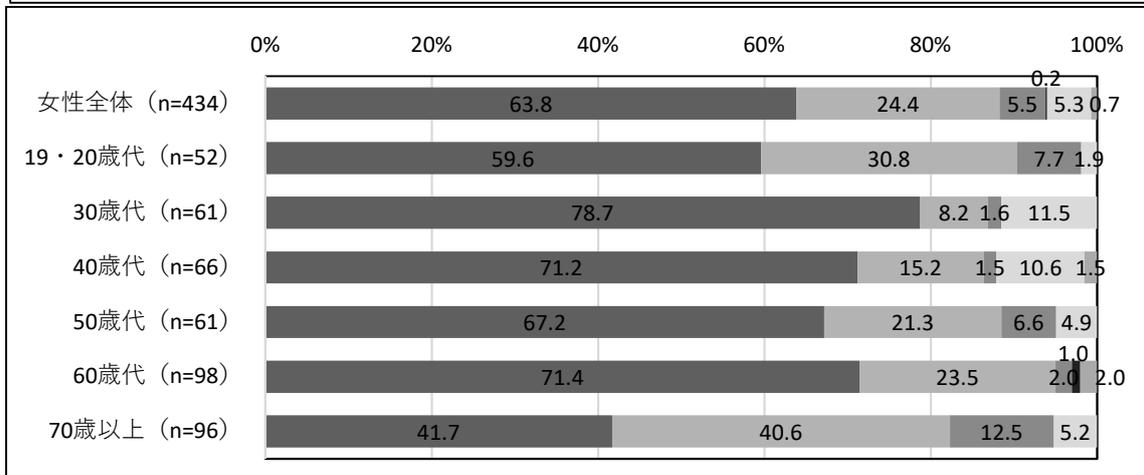
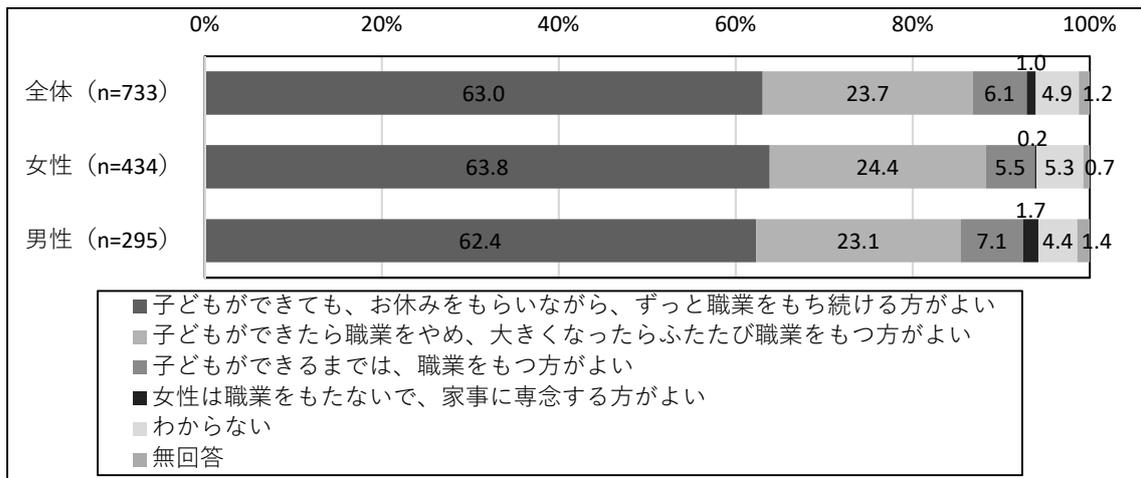
4. 働くことについて

(15) あなたは、女性が職業を持つことについて、どのように考えますか。

「子どもができて、お休みをもらいながら、ずっと職業をもち続ける方がよい」が63.0%で最も高く、次いで「子どもができたら職業をやめ、大きくなったらふたたび職業をもつ方がよい」23.7%、「子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」6.1%の順となっています。

性別による大きな差異は見られません。

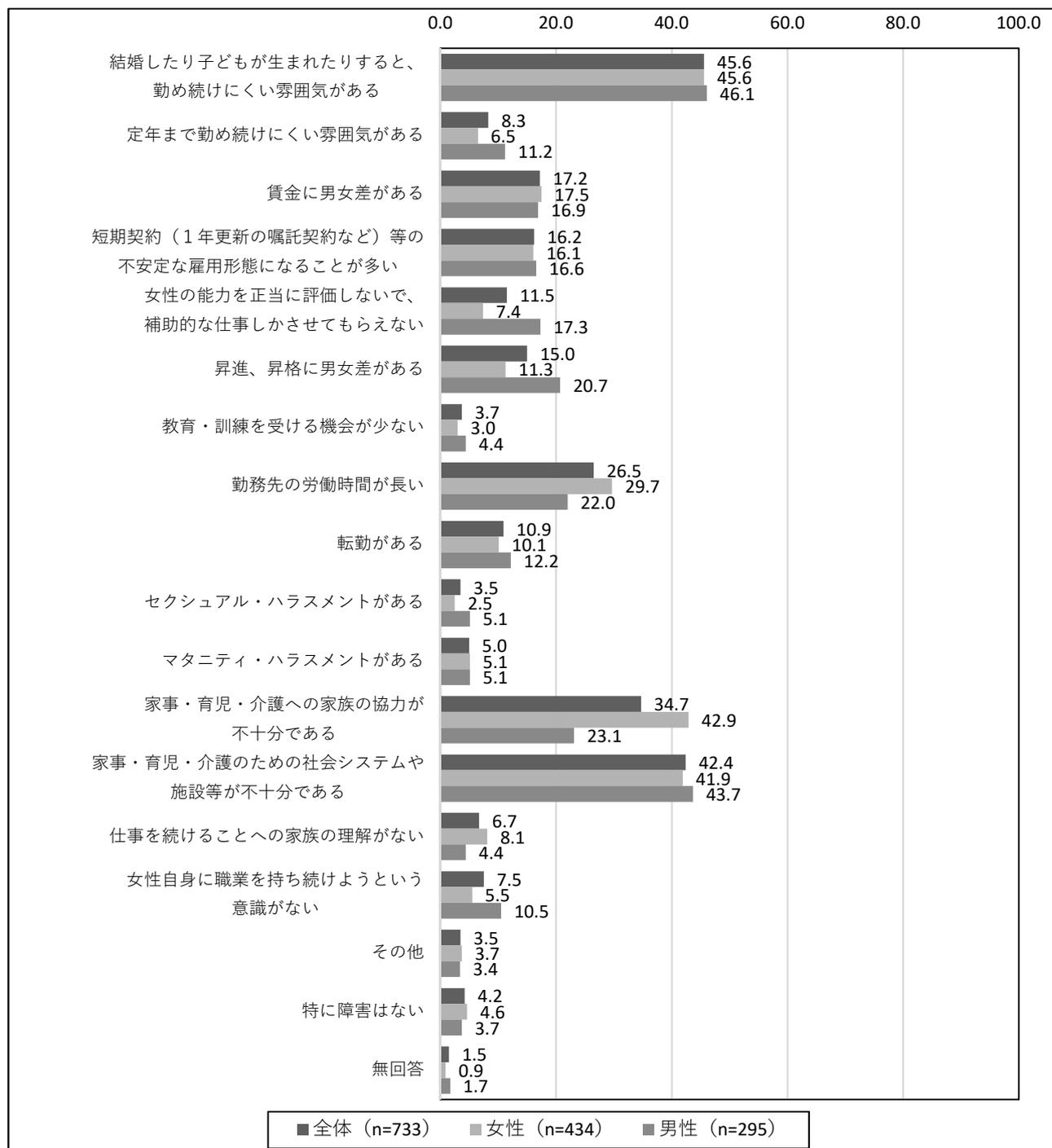
性別・年代別で見ると、「子どもができて、お休みをもらいながら、ずっと職業をもち続ける方がよい」と回答した割合は、女性の「30歳代」で78.7%、男性の「50歳代」で73.0%と高くなっています。また、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と回答した割合は、女性の「70歳以上」が他の性別・年代よりも高くなっています。



(16) あなたは、女性が仕事を続けていくうえで、特に障害になっていることは何だと思えますか。(〇は3つまで)

「結婚したり子どもが生まれたりすると、勤め続けにくい雰囲気がある」が45.6%で最も高く、次いで「家事・育児・介護のための社会システムや施設等が不十分である」42.4%、「家事・育児・介護への家族の協力が不十分である」34.7%の順となっています。

性別で見ると、「家事・育児・介護への家族の協力が不十分である」と回答した割合は、女性(42.9%)が男性(23.1%)より19.8%高く、「勤務先の労働時間が長い」と回答した割合は、女性(29.7%)が男性(22.0%)より7.7%高くなっています。一方、「女性の能力を正當に評価しないで、補助的な仕事しかさせてもらえない」と回答した割合は、男性(17.3%)が女性(7.4%)より9.9%高く、「昇進、昇格に男女差がある」と回答した割合は、男性(20.7%)が女性(11.3%)より9.4%高くなっています。



性別	年代	その他
女性	19・20 歳代	子ども二人目からは育休・産休がとりにくい。休みが多くなると周りの方に申し訳ない。
女性	19・20 歳代	仕事量が多く、家事がおろそかになる
女性	30 歳代	出産となると休まざるを得ない
女性	30 歳代	夫の扶養に入っていること。130 万？かなにかのボーダーラインがあること。それによりパートでもそこそこでいいという意識がうまれる。そのシステムは今や時代にそぐっていない。なぜ今だにそのボーダーラインがあるのか意味が不明。今すぐに撤廃すべき！！
女性	30 歳代	一人で育児と仕事・家庭をこなす中で、突然のトラブルはすべて女性に対応するようになっていて、職場が「良いよ」と言ってくれても途中で抜ける申し訳なさやストレスは変わらない。
女性	40 歳代	仕事・家事・育児や介護を両立していくことが難しい
女性	50 歳代	職場の理解がない。思う通りに働けない。
女性	60 歳代	突発的に休まないとならないから
女性	70 歳以上	口を出す老人たちの老害と多様性を認めきれない社会が変わらないと変わらない。結局人！
男性	19・20 歳代	結婚すると同棲したいけど仕事の場所的にムリがある人が多いと思うから、どちらかが辞めるとなると女性だと思う。産休等は男性が代わることでできないし、女性が辞める方が都合が合う事が多いと思う。
男性	19・20 歳代	給与額の昇給の機会が年 1 回程度と少なく、サービス残業の認識が根強い印象。また、所得税等の支払いが増加するだけ。
男性	40 歳代	子供の病気等の時の休みが取りにくい為
男性	40 歳代	男性が仕事をやめて、女性が働けばよい
男性	50 歳代	仕事に対して発展させようという意欲がある人が少ない
男性	60 歳代	勤務している会社の規模で変わる。大企業や公務員は障害が少ないが、小中は障害が多いのが現実

性別・年代別で見ると、「結婚したり子どもが生まれたりすると、勤め続けにくい雰囲気がある」と回答した割合は、女性・男性ともにほとんどの年代で高く、女性・男性ともに「19・20 歳代」が 50%以上と高くなっています。また、「家事・育児・介護への家族の協力が不十分である」と回答した割合は、女性のどの年代でも 40%程度と高いが、男性では「50 歳代」29.7%が一番高くなっており、他に「賃金に男女差がある」「昇進、昇格に男女差がある」「勤務先の労働時間が長い」「転勤がある」「セクシュアル・ハラスメントがある」など原因が勤務先にある選択肢の割合が高い傾向がある。

選択項目	女性全体 (n=434)	19・20歳代 (n=52)	30歳代 (n=61)	40歳代 (n=66)	50歳代 (n=61)	60歳代 (n=98)	70歳以上 (n=96)
結婚したり子どもが生まれたりすると、 勤め続けにくい雰囲気がある	45.6	50.0	44.3	45.5	39.3	45.9	47.9
定年まで勤め続けにくい雰囲気がある	6.5	3.8	4.9	1.5	4.9	8.2	11.5
賃金に男女差がある	17.5	5.8	19.7	22.7	23.0	21.4	11.5
短期契約（1年更新の嘱託契約など）等 の不安定な雇用形態になることが多い	16.1	9.6	13.1	15.2	23.0	18.4	15.6
女性の能力を正當に評価しないで、補助 的な仕事しかさせてもらえない	7.4	3.8	4.9	6.1	6.6	7.1	12.5
昇進、昇格に男女差がある	11.3	5.8	3.3	16.7	9.8	13.3	14.6
教育・訓練を受ける機会が少ない	3.0	0.0	1.6	0.0	1.6	6.1	5.2
勤務先の労働時間が長い	29.7	32.7	32.8	43.9	37.7	19.4	21.9
転勤がある	10.1	15.4	4.9	7.6	6.6	11.2	13.5
セクシュアル・ハラスメントがある	2.5	3.8	0.0	0.0	9.8	3.1	0.0
マタニティ・ハラスメントがある	5.1	19.2	6.6	6.1	0.0	1.0	3.1
家事・育児・介護への家族の協力が不十分 である	42.9	44.2	44.3	42.4	41.0	48.0	37.5
家事・育児・介護のための社会システム や施設等が不十分である	41.9	48.1	44.3	40.9	45.9	43.9	33.3
仕事を続けることへの家族の理解がない	8.1	7.7	3.3	3.0	8.2	11.2	11.5
女性自身に職業を持ち続けようという意 識がない	5.5	1.9	1.6	7.6	8.2	3.1	9.4
その他	3.7	3.8	8.2	4.5	3.3	1.0	3.1
特に障害はない	4.6	1.9	8.2	1.5	1.6	4.1	8.3
無回答	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	1.0

選択項目	男性全体 (n=295)	19・20歳代 (n=29)	30歳代 (n=35)	40歳代 (n=42)	50歳代 (n=37)	60歳代 (n=70)	70歳以上 (n=82)
結婚したり子どもが生まれたりすると、 勤め続けにくい雰囲気がある	46.1	65.5	48.6	38.1	29.7	48.6	47.6
定年まで勤め続けにくい雰囲気がある	11.2	3.4	11.4	4.8	8.1	18.6	12.2
賃金に男女差がある	16.9	13.8	25.7	9.5	18.9	11.4	22.0
短期契約（1年更新の嘱託契約など）等 の不安定な雇用形態になることが多い	16.6	17.2	17.1	14.3	24.3	12.9	17.1
女性の能力を正當に評価しないで、補助 的な仕事しかさせてもらえない	17.3	10.3	20.0	16.7	13.5	21.4	17.1
昇進、昇格に男女差がある	20.7	6.9	11.4	16.7	21.6	28.6	24.4
教育・訓練を受ける機会が少ない	4.4	0.0	0.0	0.0	2.7	5.7	9.8
勤務先の労働時間が長い	22.0	13.8	20.0	26.2	18.9	28.6	19.5
転勤がある	12.2	0.0	2.9	11.9	5.4	12.9	23.2
セクシュアル・ハラスメントがある	5.1	20.7	11.4	4.8	2.7	2.9	0.0
マタニティ・ハラスメントがある	5.1	13.8	11.4	2.4	2.7	2.9	3.7
家事・育児・介護への家族の協力が不十分 である	23.1	13.8	22.9	26.2	29.7	24.3	20.7
家事・育児・介護のための社会システム や施設等が不十分である	43.7	31.0	42.9	52.4	51.4	47.1	37.8
仕事を続けることへの家族の理解がない	4.4	6.9	2.9	0.0	8.1	1.4	7.3
女性自身に職業を持ち続けようという意 識がない	10.5	6.9	11.4	11.9	13.5	10.0	9.8
その他	3.4	10.3	0.0	4.8	2.7	2.9	2.4
特に障害はない	3.7	6.9	0.0	9.5	2.7	0.0	4.9
無回答	1.7	0.0	2.9	0.0	5.4	0.0	2.4

5. 夫婦や恋人同士などの暴力について

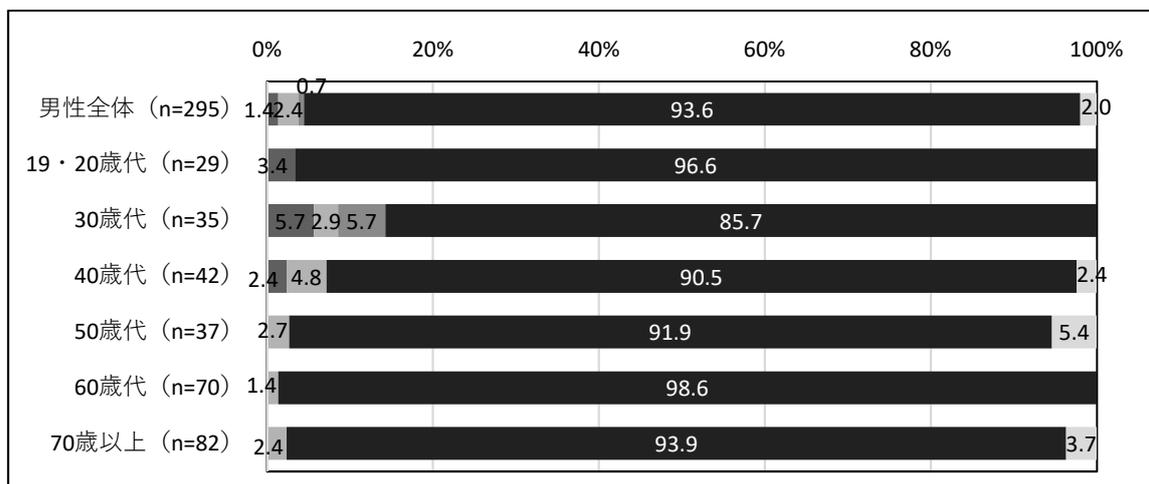
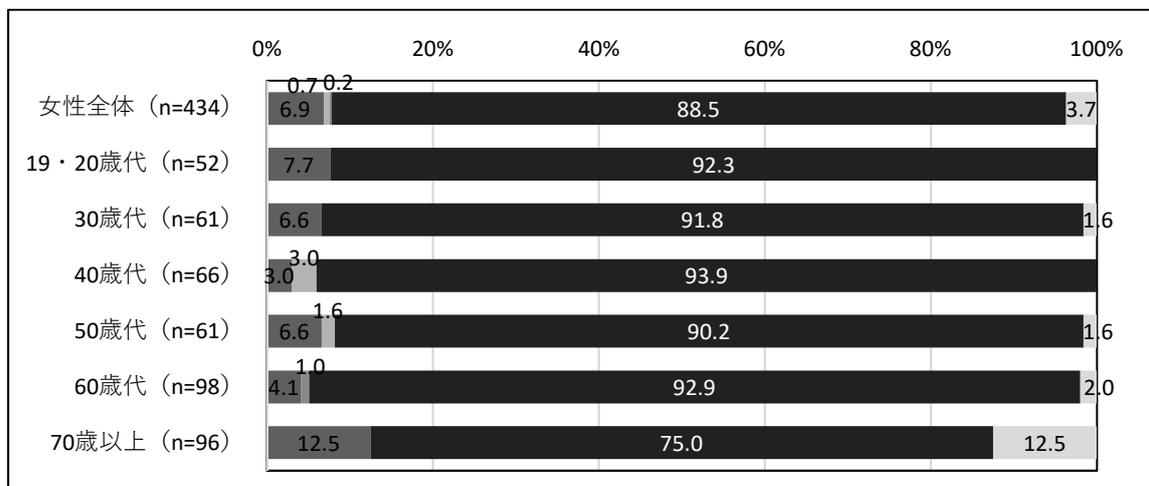
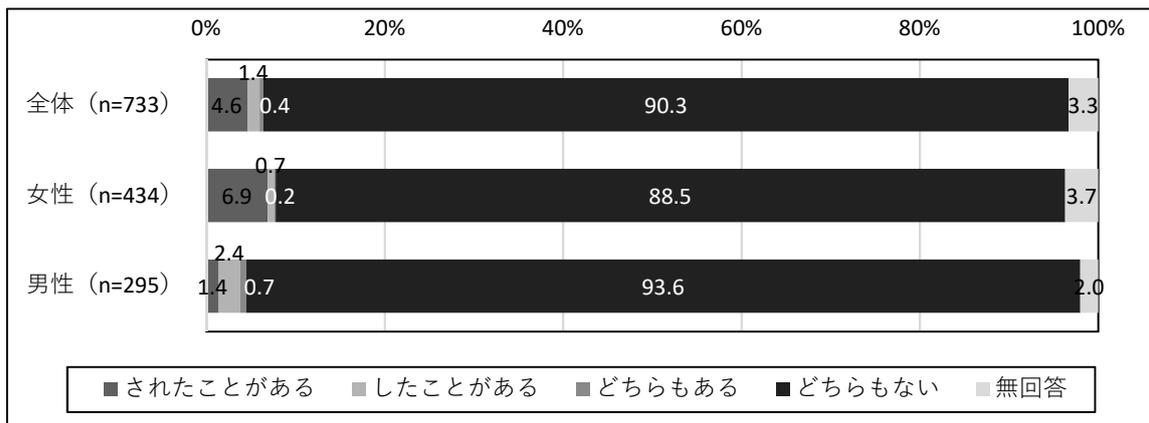
(17) あなたは、5年以内に次のようなことをしたりされたりしたことがありますか。

①殴る、蹴る、髪を引っ張る、首をしめる、物を投げつけるなど身体的な暴力

「どちらもない」が90.3%で最も高く、次いで「されたことがある」4.6%、「したことがある」1.4%の順となっています。

性別で見ると、「されたことがある」と回答した割合は、女性（6.9%）が男性（1.4%）より5.5%高くなっています。

性別・年代別で見ると、「されたことがある」と回答した割合は、女性の「19・20歳代」「30歳代」「50歳代」「70歳以上」、男性の「30歳代」で高く、「どちらもある」と回答した割合は、男性の「30歳代」で高くなっています。

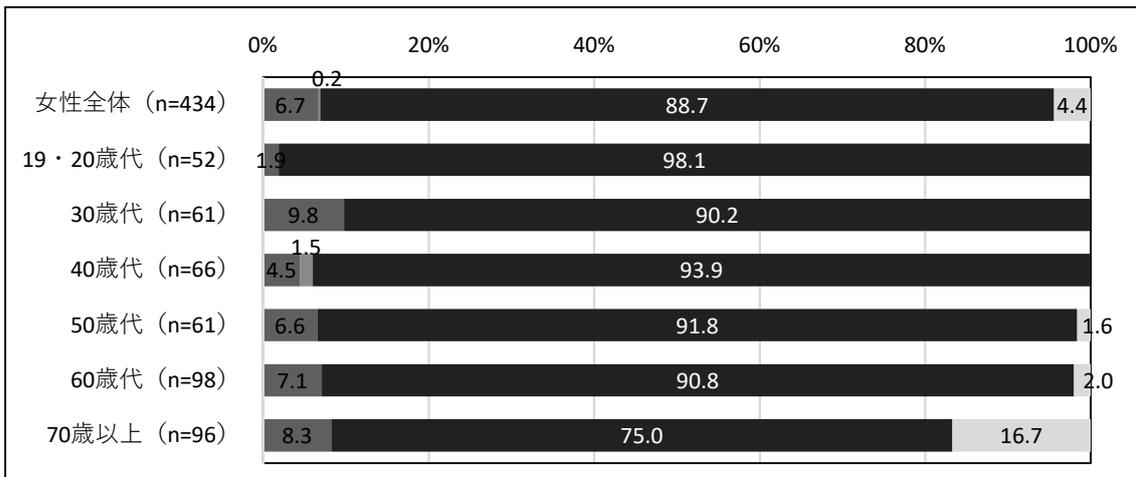
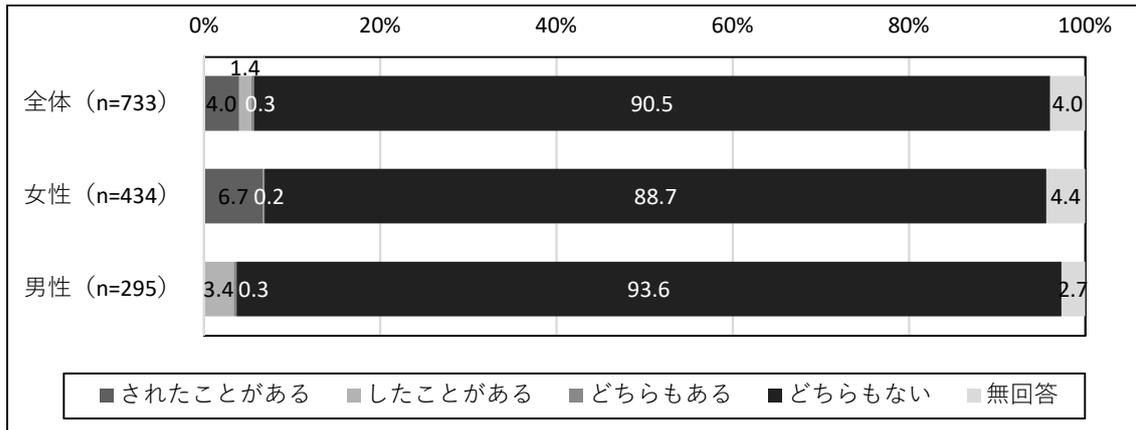


②性的行為の強要

「どちらもない」が90.5%で最も高く、次いで「されたことがある」4.0%、「したことがある」1.4%の順となっています。

性別で見ると、「されたことがある」と回答した割合は、女性（6.7%）が男性（0.0%）より高くなっています。

性別・年代別で見ると、「どちらもない」と回答した割合は、男性の「19・20歳代」で100%になっています。また、「されたことがある」と回答した割合は、女性の「30歳代」「70歳以上」で高くなっており、「したことがある」と回答した割合は、男性の「40歳代」「70歳以上」で若干高くなっています。

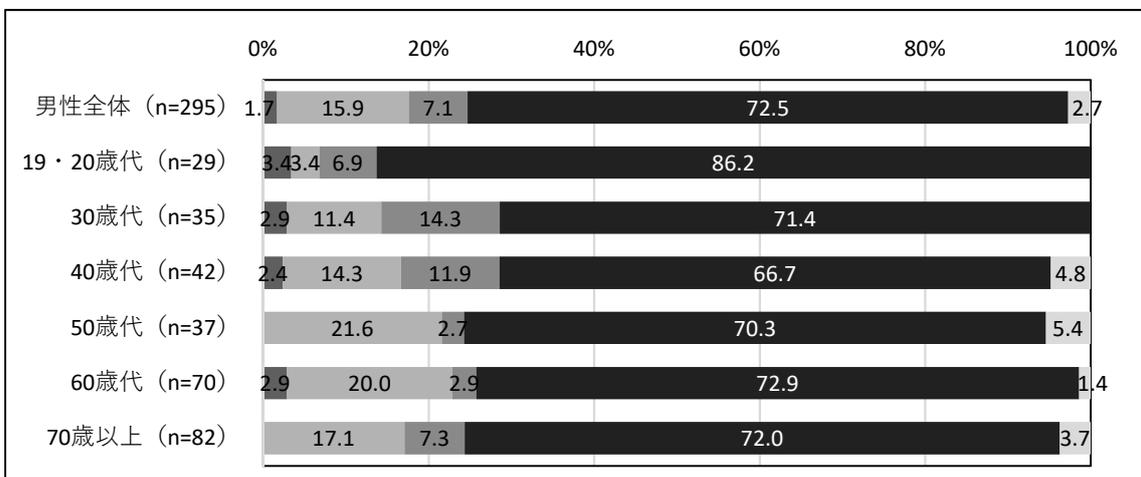
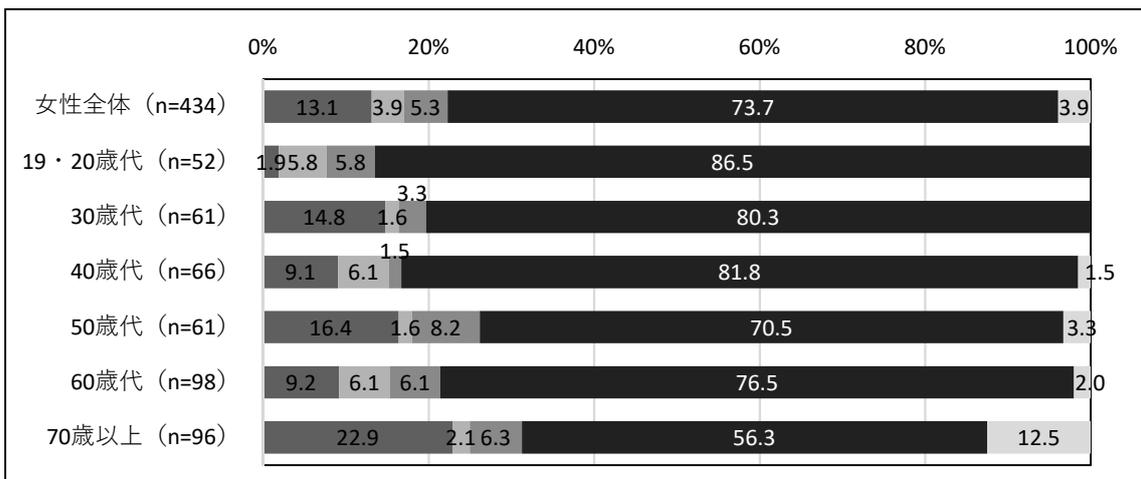
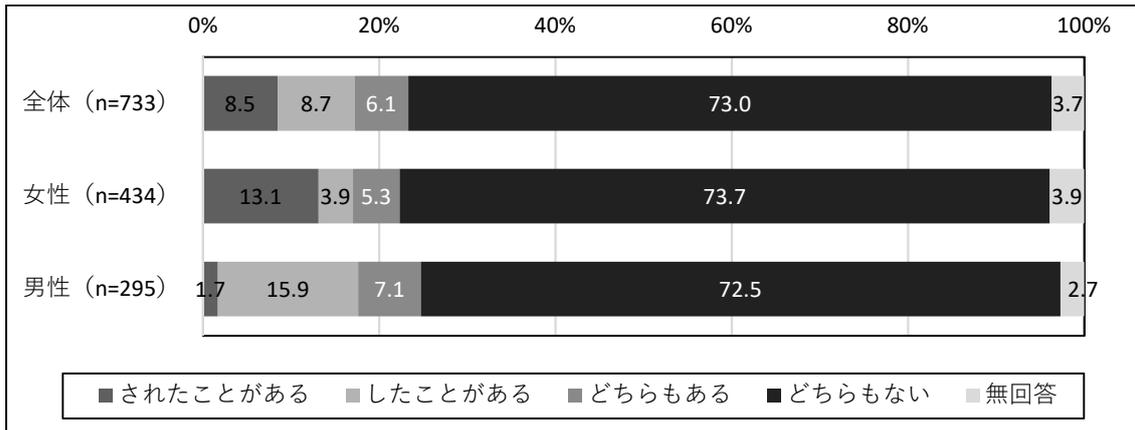


③大声でどなったり、暴言を吐く

「どちらもない」が73.0%で最も高く、次いで「したことがある」8.7%、「されたことがある」8.5%の順となっています。

性別で見ると、「されたことがある」と回答した割合は、女性（13.1%）が男性（1.7%）より11.4%高く、「したことがある」と回答した割合は、男性（15.9%）が女性（3.9%）より12.0%高くなっています。

性別・年代別で見ると、「されたことがある」と回答した割合は、女性の「70歳以上」で22.9%、「50歳代」で16.4%と高くなっています。また、「したことがある」と回答した割合は、男性の「50歳以上」で20%程度と高くなっています。

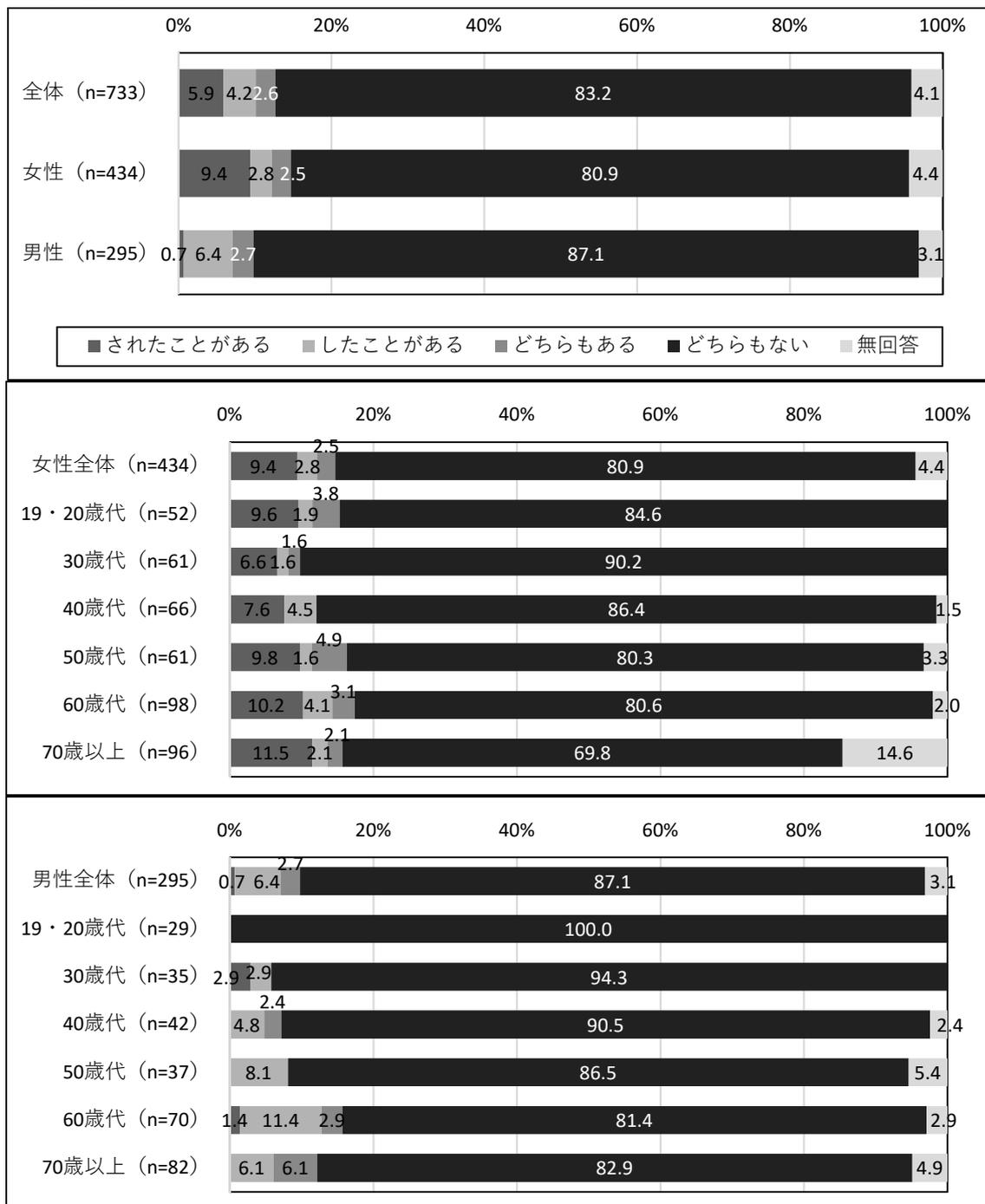


④「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別する

「どちらもない」が83.2%で最も高く、次いで「されたことがある」5.9%、「したことがある」4.2%の順となっています。

性別で見ると、「されたことがある」と回答した割合は、女性（9.4%）が男性（0.7%）より8.7%高く、「したことがある」と回答した割合は、男性（6.4%）が女性（2.8%）より3.6%高くなっています。

性別・年代別で見ると、「どちらもない」と回答した割合は、男性の「19・20歳代」で100%になっています。また、「されたことがある」と回答した割合は、女性の「60歳以上」で10%を超えており、「したことがある」と回答した割合は、男性の「60歳代」で11.4%と最も高くなっています。

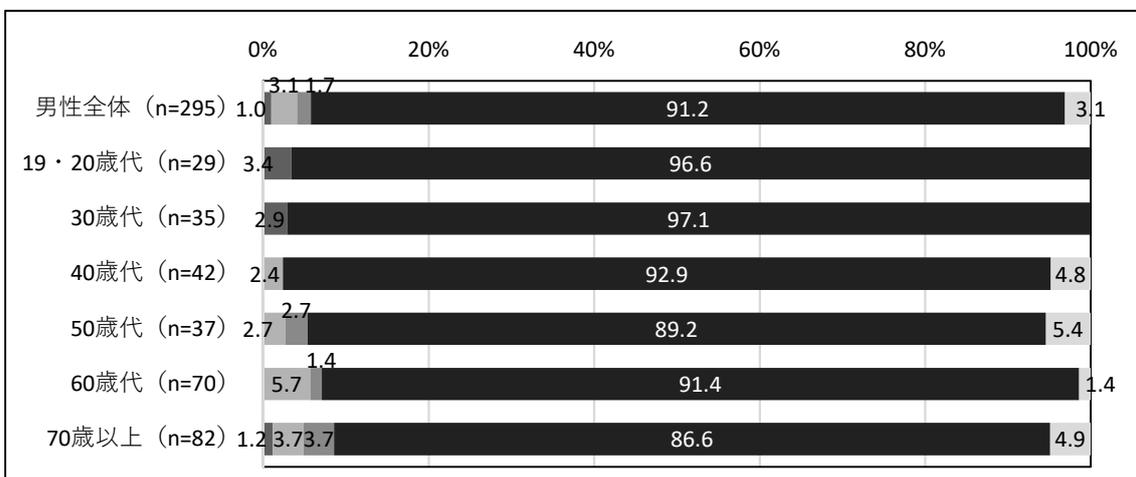
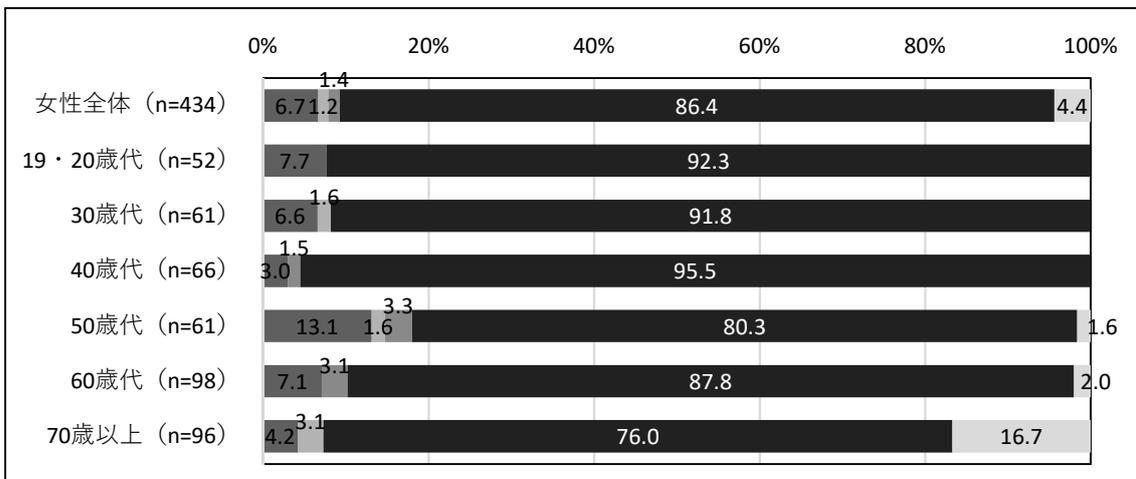
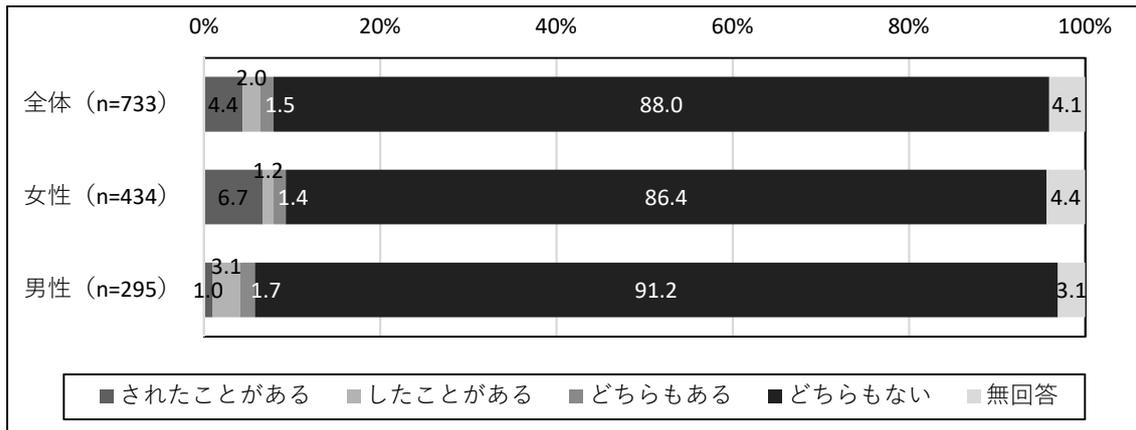


⑤ 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性なし」とののしる

「どちらもない」が88.0%で最も高く、次いで「されたことがある」4.4%、「したことがある」2.0%の順となっています。

性別で見ると、「されたことがある」と回答した割合は、女性(6.7%)が男性(1.0%)より5.7%高く、「したことがある」と回答した割合は、男性(3.1%)が女性(1.2%)より1.9%高くなっています。

性別・年代別で見ると、「されたことがある」と回答した割合は、女性の「50歳代」13.1%、「60歳代」7.1%、男性は「19・20歳代」3.4%と高くなっています。また、「したことがある」と回答した割合は、男性の「60歳代」5.7%、女性の「70歳以上」3.1%で高くなっています。

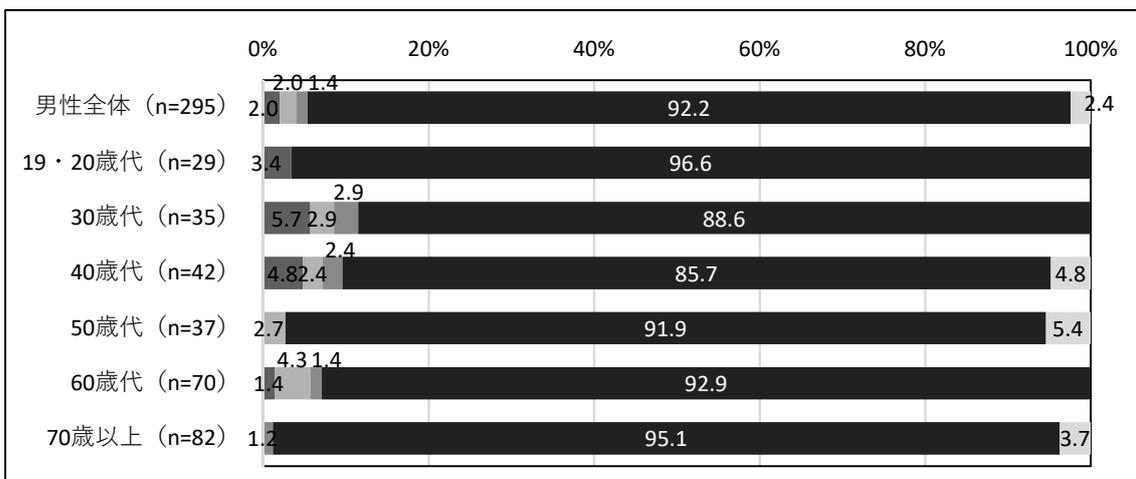
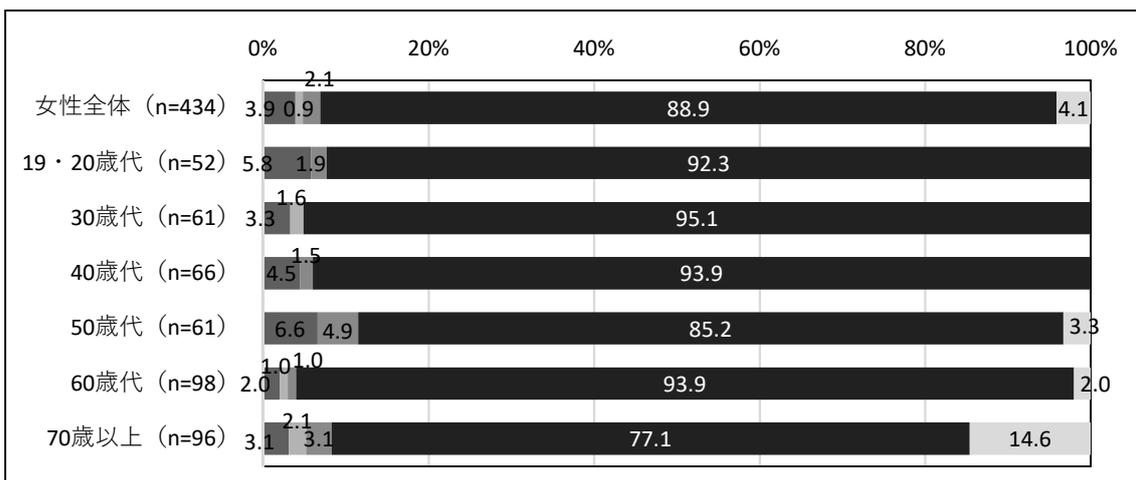
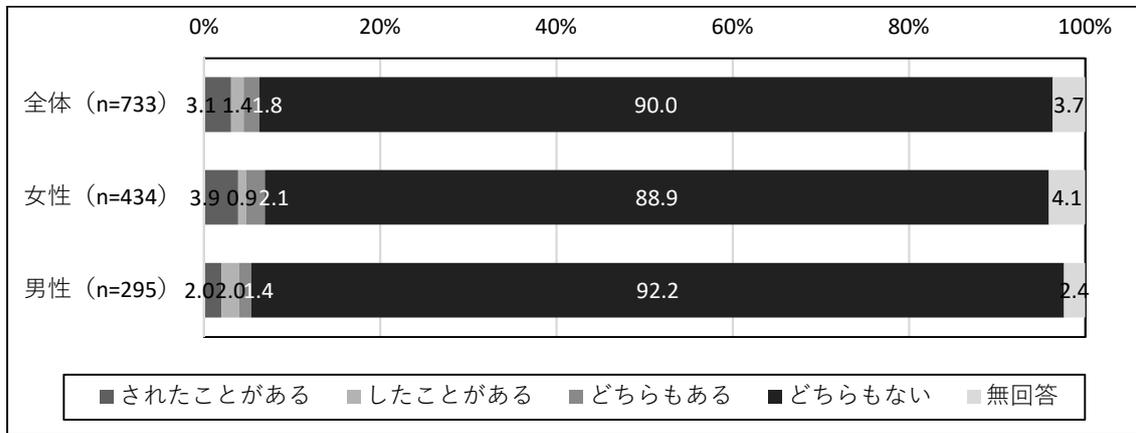


⑥交友関係や電話、SNS、お金の使い道などを細かく監視する

「どちらもない」が90.0%で最も高く、次いで「されたことがある」3.1%、「どちらもある」1.8%の順となっています。

性別による大きな差異は見られません。

性別・年代別で見ると、「したことがある」と回答した割合は、男性の「60歳代」4.3%が高く、「されたことがある」と回答した割合は、女性の「50歳代」6.6%、「19・20歳代」5.8%、男性の「30歳代」5.7%と高くなっています。

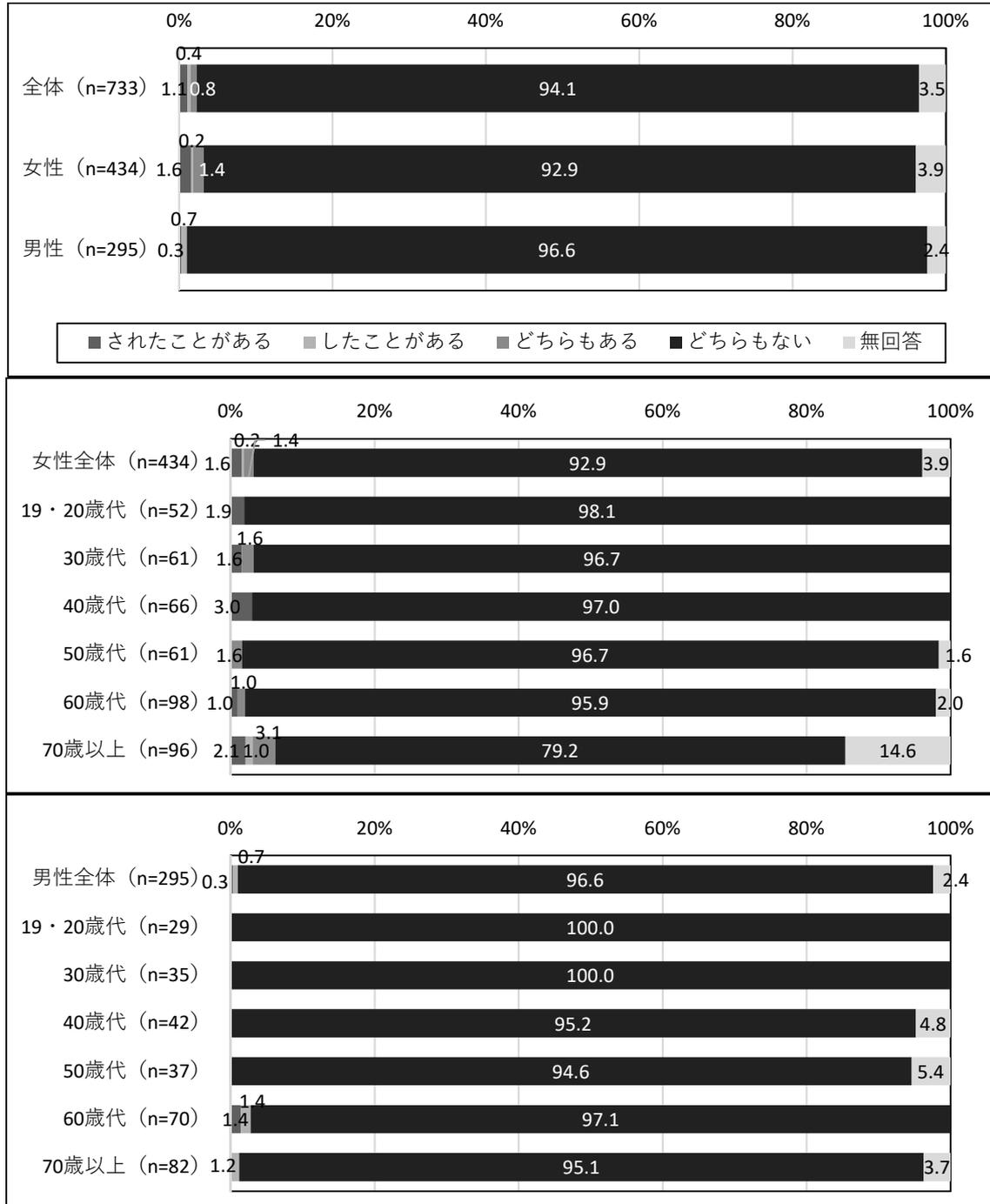


⑦社会活動や就職を許さない

「どちらもない」が94.1%で最も高く、次いで「されたことがある」1.1%、「どちらもある」0.8%の順となっています。

性別による大きな差異は見られません。

性別・年代別で見ると、「どちらもない」と回答した割合は、男性の「19・20歳代」で100%になっています。また、「されたことがある」と回答した割合は、女性の「40歳代」3.0%と高くなっています。

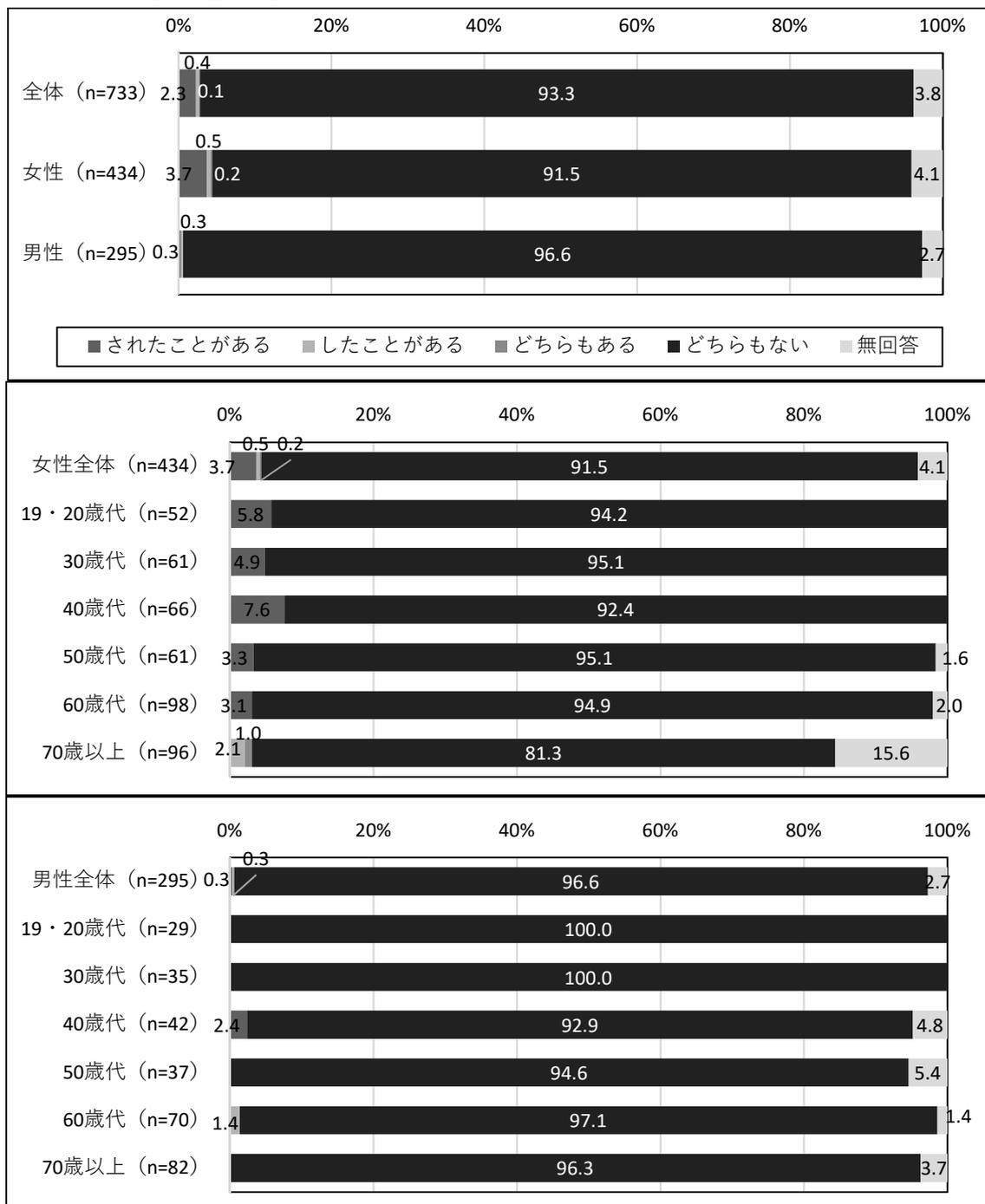


⑧デート費用等を全く払わない、生活費を渡さないなど、経済的に押さえつける

「どちらもない」が93.3%で最も高く、次いで「されたことがある」2.3%、「したことがある」0.4%の順となっています。

性別で見ると、「されたことがある」と回答した割合は、女性(3.7%)が男性(0.3%)より3.4%高くなっています。

性別・年代別で見ると、「どちらもない」と回答した割合は、男性の「19・20歳代」「30歳代」で100%になっています。「されたことがある」と回答した割合は、女性の「19・20歳代」から「40歳代」で若干高くなっています。

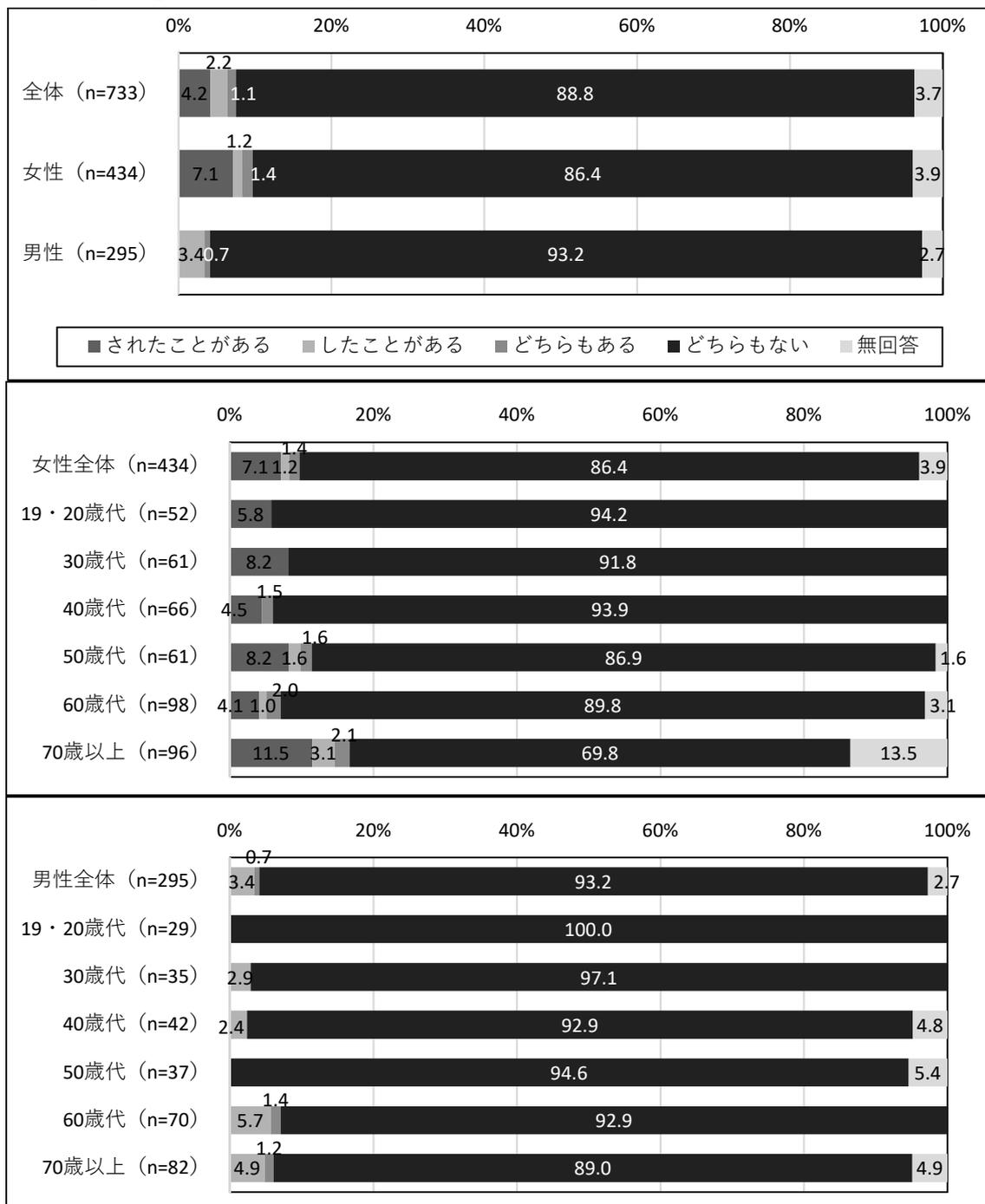


⑨病気などで身体が動かせない時なども、食事のしたくをさせる

「どちらもない」が88.8%で最も高く、次いで「されたことがある」4.2%、「したことがある」2.2%の順となっています。

性別で見ると、「されたことがある」と回答した割合は、女性(7.1%)が男性(0.0%)より7.1%高く、「したことがある」と回答した割合は、男性(3.4%)が女性(1.2%)より2.2%高くなっています。

性別・年代別で見ると、「されたことがある」と回答した割合は、女性の「70歳以上」「50歳代」「30歳代」で高くなっています。

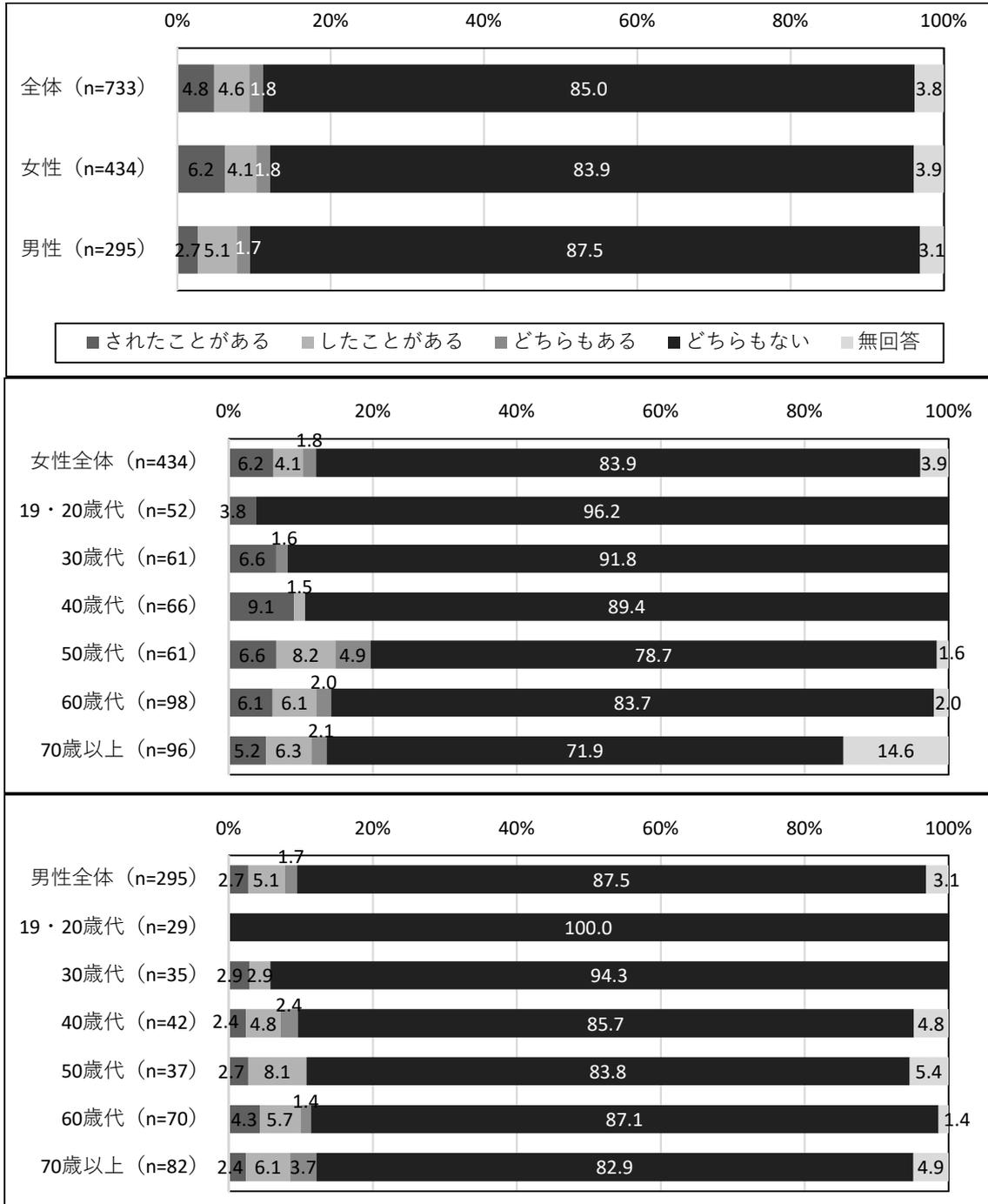


⑩何を言っても、無視し続ける

「どちらもない」が85.0%で最も高く、次いで「されたことがある」4.8%、「したことがある」4.6%の順となっています。

性別で見ると、女性で「されたことがある」と回答した割合が若干高くなっています。

性別・年代別で見ると、「どちらもない」と回答した割合は、男性の「19・20歳代」で100%になっています。また、「したことがある」と回答した割合は、女性・男性ともに「50歳代」で割合が高くなっています。

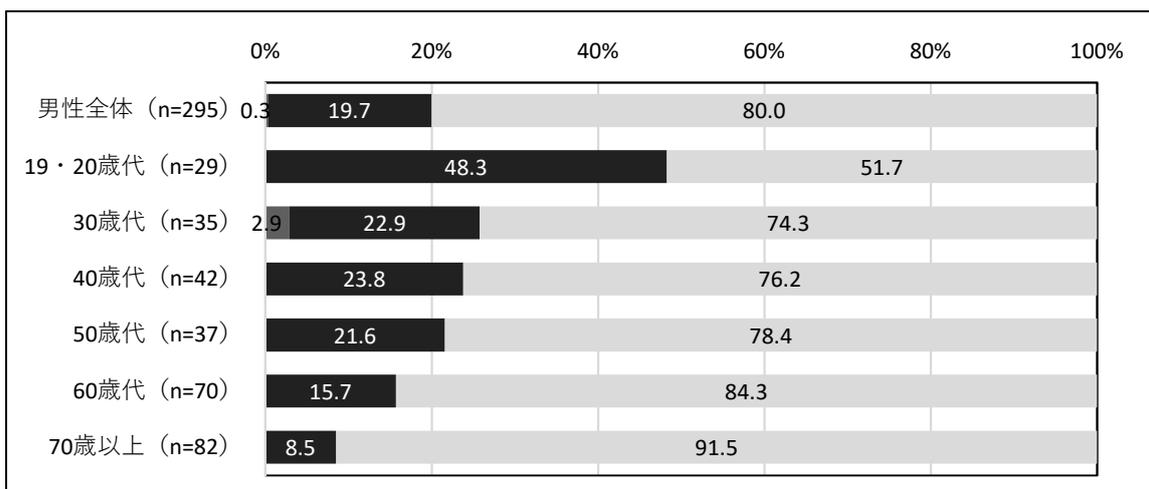
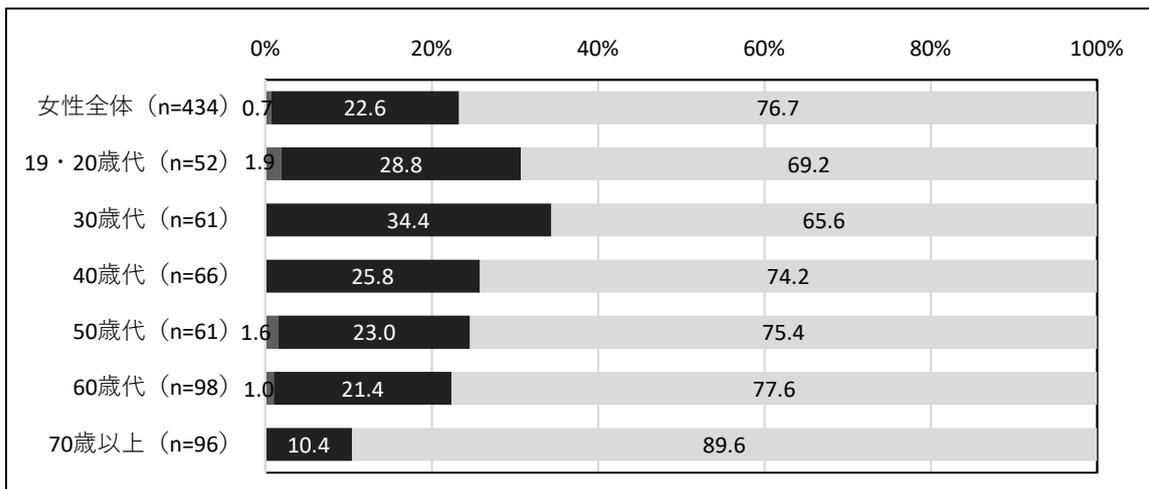
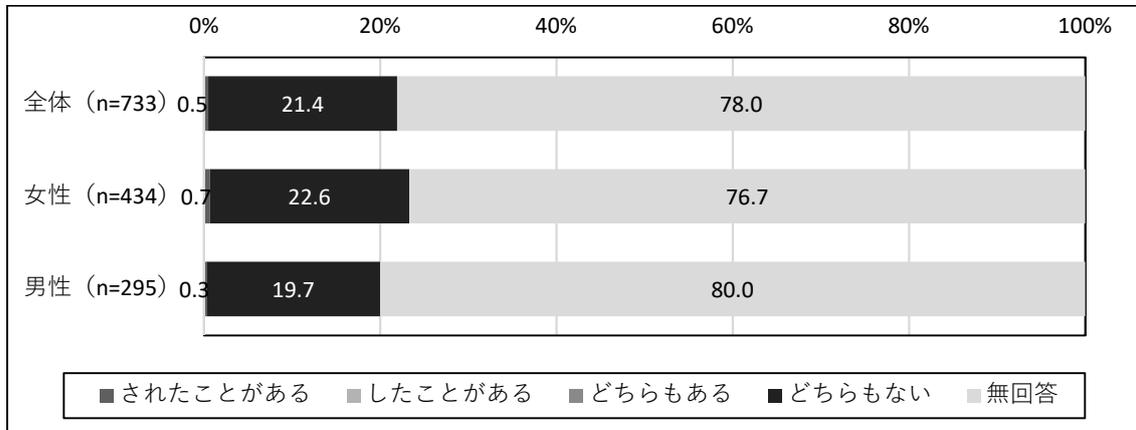


⑪その他

「されたことがある」が0.5%となっているものの、「どちらもない」21.4%と無回答がほとんどの割合を占めています。

性別による大きな差異は見られません。

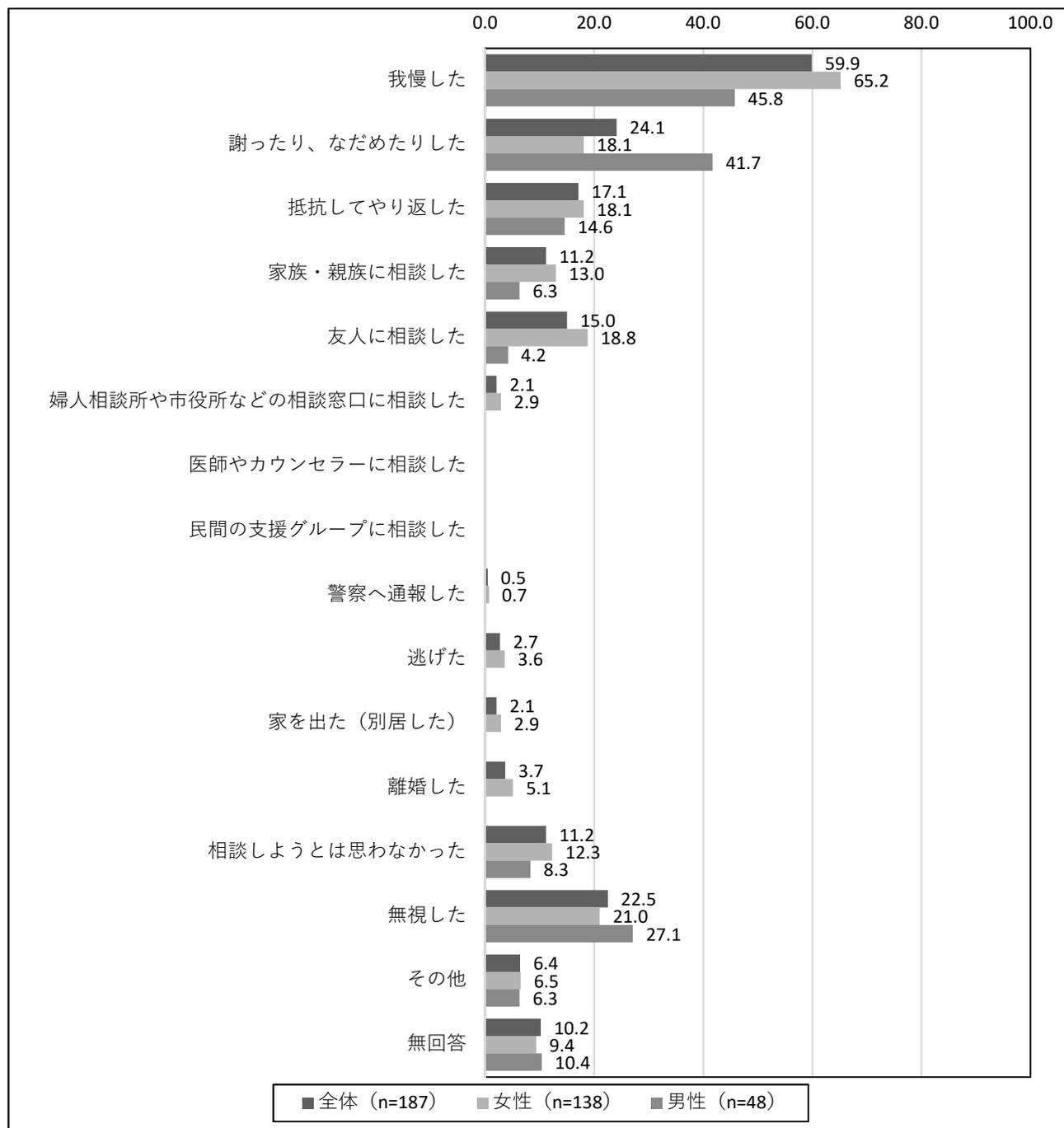
性別・年代別で見ると、「されたことがある」と回答した割合は、男性の「30歳代」で若干割合が高くなっています。



(17)で「されたことがある」「どちらもある」を1つでも回答された方におうかがいします。
 (18)あなたは、そのような行為を受けた時、どうしましたか。(複数回答)

「我慢した」が59.9%で最も高く、次いで「謝ったり、なだめたりした」24.1%、「無視した」22.5%の順となっています。

性別で見ると、「我慢した」や「友人に相談した」と回答した割合は、女性が男性より10.0%以上高く、「謝ったり、なだめたりした」と回答した割合は、男性(41.7%)が女性(18.1%)より23.6%高くなっています。



性別	年代	その他
女性	19・20 歳代	関係を断った
女性	19・20 歳代	別れた
女性	19・20 歳代	学校の先生に仲介に入ってもらい対策をした
女性	40 歳代	自分の給与で生活した
女性	50 歳代	謝ってもらった
女性	70 歳以上	なかなか人には言えない
女性	70 歳以上	違う部屋に逃げた
男性	40 歳代	時間の経過を待つ
男性	50 歳代	話合った
男性	70 歳以上	誰のおかげと 1~2 回言った。

性別・年代別で見ると、「我慢した」と回答した割合は、性別・年代を問わず一番高くなっています。「無視した」と回答した割合は、女性の「60歳以上」で高く、「友人に相談した」と回答した割合は、女性の「19・20歳代」から「60歳代」で高くなっています。また、「謝ったり、なだめたりした」と回答した割合は、男性の「19・20歳～50歳代」で50%以上の割合を占めています。

選択項目	女性全体 (n=138)	19・20歳代 (n=11)	30歳代 (n=16)	40歳代 (n=18)	50歳代 (n=21)	60歳代 (n=33)	70歳以上 (n=39)
我慢した	65.2	45.5	50.0	83.3	61.9	63.6	71.8
謝ったり、なだめたりした	18.1	9.1	25.0	11.1	42.9	12.1	12.8
抵抗してやり返した	18.1	36.4	12.5	11.1	23.8	12.1	20.5
家族・親族に相談した	13.0	27.3	25.0	11.1	19.0	3.0	10.3
友人に相談した	18.8	36.4	18.8	16.7	38.1	15.2	7.7
婦人相談所や市役所などの相談窓口 に相談した	2.9	9.1	6.3	0.0	9.5	0.0	0.0
医師やカウンセラーに相談した	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
民間の支援グループに相談した	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
警察へ通報した	0.7	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0
逃げた	3.6	0.0	0.0	11.1	0.0	3.0	5.1
家を出た（別居した）	2.9	18.2	6.3	0.0	0.0	0.0	2.6
離婚した	5.1	9.1	0.0	5.6	4.8	9.1	2.6
相談しようとは思わなかった	12.3	0.0	12.5	22.2	14.3	12.1	10.3
無視した	21.0	18.2	12.5	11.1	9.5	27.3	30.8
その他	6.5	27.3	6.3	5.6	4.8	0.0	7.7
無回答	9.4	0.0	18.8	5.6	4.8	9.1	12.8

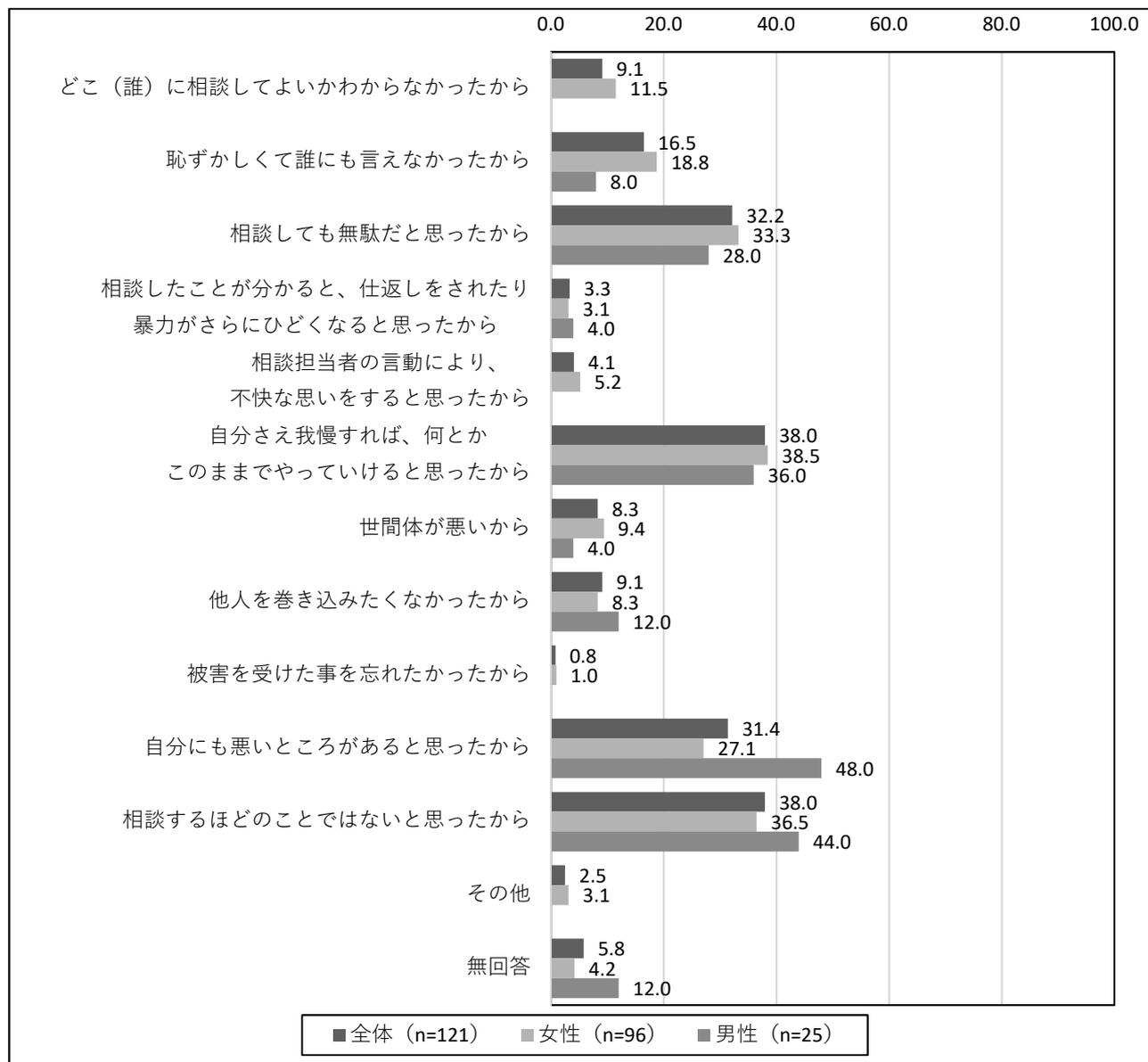
選択項目	男性全体 (n=48)	19・20歳代 (n=4)	30歳代 (n=8)	40歳代 (n=9)	50歳代 (n=2)	60歳代 (n=9)	70歳以上 (n=16)
我慢した	45.8	25.0	62.5	44.4	50.0	44.4	43.8
謝ったり、なだめたりした	41.7	50.0	62.5	66.7	100.0	33.3	12.5
抵抗してやり返した	14.6	0.0	37.5	0.0	50.0	0.0	18.8
家族・親族に相談した	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	6.3
友人に相談した	4.2	25.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0
婦人相談所や市役所などの相談窓口 に相談した	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
医師やカウンセラーに相談した	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
民間の支援グループに相談した	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
警察へ通報した	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
逃げた	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
家を出た（別居した）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
離婚した	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
相談しようとは思わなかった	8.3	0.0	12.5	11.1	0.0	11.1	6.3
無視した	27.1	50.0	0.0	33.3	0.0	33.3	31.3
その他	6.3	0.0	12.5	11.1	0.0	11.1	0.0
無回答	10.4	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	18.8

(18) で「1. 我慢した」「13. 相談しようとは思わなかった」と回答された方におうかがいします。

(19) それはなぜですか。(複数回答)

「自分さえ我慢すれば、何とかこのままでやっていけると思ったから」と「相談するほどのことではないと思ったから」がともに38.0%で最も高く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」32.2%の順となっています。

性別で見ると、「自分にも悪いところがあると思ったから」と回答した割合は、男性(48.0%)が女性(27.1%)より20.9%高く、「どこ(誰)に相談してよいかわからなかったから」と回答した割合は、女性(11.5%)が男性(0.0%)より11.5%高くなっており、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」と回答した割合は、女性(18.8%)が男性(8.0%)より10.8%高くなっており、「相談しても無駄だと思ったから」と回答した割合は、女性(33.3%)が男性(28.0%)より5.3%高くなっており、「相談したことが分かる、仕返しをされたり暴力がさらにひどくなると思ったから」と回答した割合は、女性(3.1%)が男性(4.0%)より0.9%低くなっており、「相談担当者の言動により、不快な思いをすと思ったから」と回答した割合は、女性(4.1%)が男性(5.2%)より1.1%低くなっており、「自分さえ我慢すれば、何とかこのままでやっていけると思ったから」と回答した割合は、女性(38.5%)が男性(36.0%)より2.5%高くなっており、「世間体が悪いから」と回答した割合は、女性(9.4%)が男性(4.0%)より5.4%高くなっており、「他人を巻き込みたくなかったから」と回答した割合は、女性(8.3%)が男性(12.0%)より3.7%低くなっており、「被害を受けた事を忘れたかったから」と回答した割合は、女性(0.8%)が男性(1.0%)より0.2%低くなっており、「自分にも悪いところがあると思ったから」と回答した割合は、女性(27.1%)が男性(48.0%)より20.9%低くなっており、「相談するほどのことではないと思ったから」と回答した割合は、女性(36.5%)が男性(44.0%)より7.5%低くなっており、「その他」と回答した割合は、女性(3.1%)が男性(2.5%)より0.6%高くなっており、「無回答」と回答した割合は、女性(4.2%)が男性(12.0%)より7.8%低くなっており



性別	年代	その他
女性	30歳代	時間が経てば忘れるし落ちついて話をするから
女性	40歳代	相手の気持ちを少し考えたら許せると思った。その後、話し合った。
女性	70歳以上	相談して夫が働けなくなると困るから
男性	60歳代	長い夫婦生活があったから

性別・年代別で見ると、「相談しても無駄だと思ったから」と回答した割合は、女性のほとんどの年代で高くなっています。また「自分さえ我慢すれば、何とかこのままでやっていけると思ったから」と回答した割合は、男性の「19・20歳代」「40歳代」、女性の「50歳代」で高くなっています。

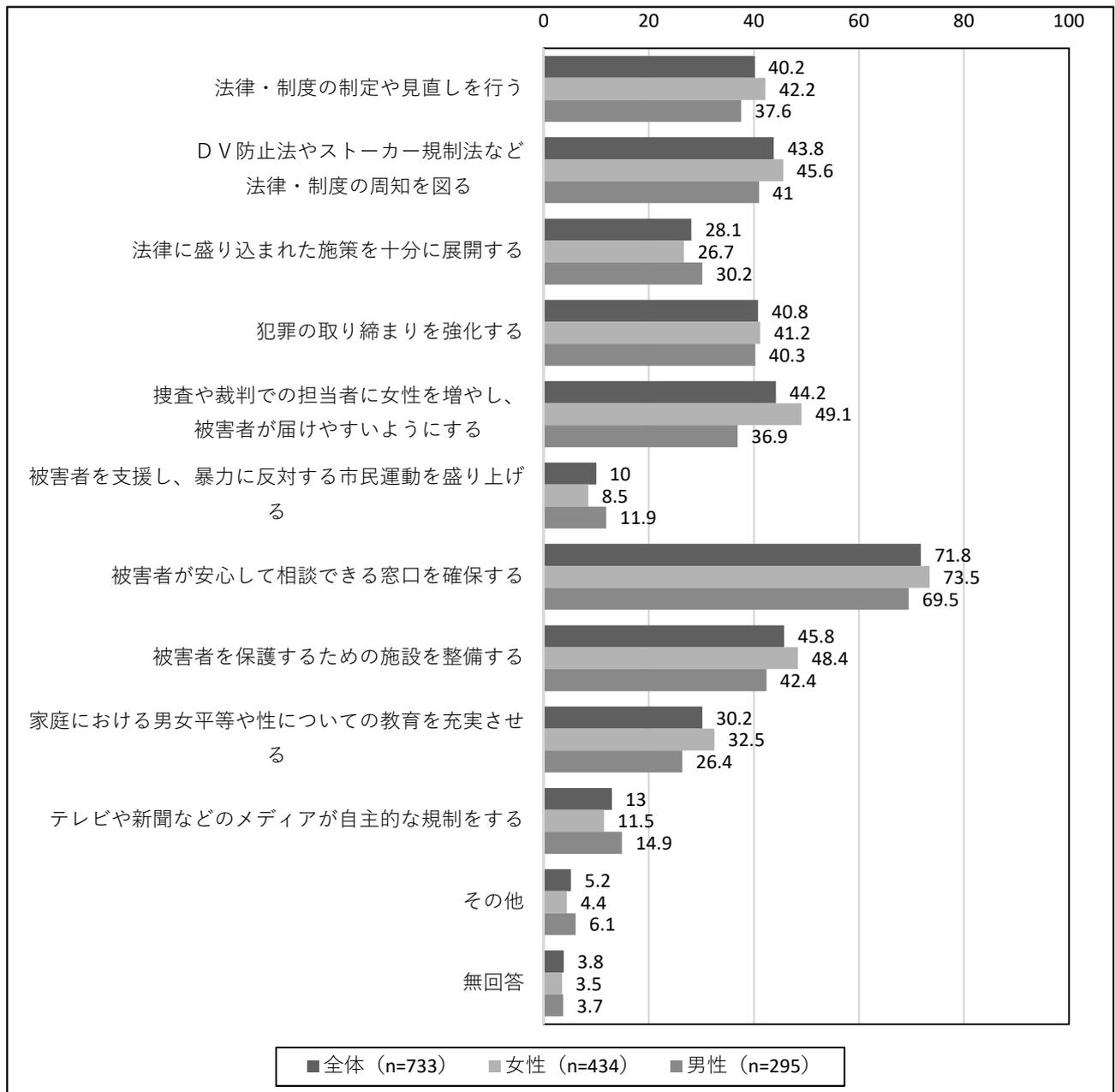
選択項目	女性全体 (n=96)	19・20歳代 (n=5)	30歳代 (n=10)	40歳代 (n=17)	50歳代 (n=13)	60歳代 (n=23)	70歳以上 (n=28)
どこ（誰）に相談してよいかわからなかったから	11.5	20.0	0.0	5.9	15.4	8.7	17.9
恥ずかしくて誰にも言えなかったから	18.8	20.0	0.0	11.8	38.5	17.4	21.4
相談しても無駄だと思ったから	33.3	40.0	20.0	29.4	30.8	39.1	35.7
相談したことが分ると、仕返しをされたり暴力がさらにひどくなると思ったから	3.1	20.0	0.0	5.9	0.0	4.3	0.0
相談担当者の言動により、不快な思いをすと思ったから	5.2	20.0	0.0	11.8	7.7	0.0	3.6
自分さえ我慢すれば、何とかこのままでやっていけると思ったから	38.5	40.0	10.0	11.8	76.9	34.8	50.0
世間体が悪いから	9.4	0.0	0.0	11.8	7.7	8.7	14.3
他人を巻き込みたくなかったから	8.3	20.0	0.0	5.9	7.7	13.0	7.1
被害を受けた事を忘れたかったから	1.0	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0
自分にも悪いところがあると思ったから	27.1	60.0	30.0	11.8	38.5	39.1	14.3
相談するほどのことではないと思ったから	36.5	0.0	40.0	47.1	23.1	47.8	32.1
その他	3.1	0.0	10.0	5.9	0.0	0.0	3.6
無回答	4.2	0.0	0.0	11.8	0.0	0.0	7.1

選択項目	男性全体 (n=25)	19・20歳代 (n=1)	30歳代 (n=6)	40歳代 (n=5)	50歳代 (n=1)	60歳代 (n=4)	70歳以上 (n=8)
どこ（誰）に相談してよいかわからなかったから	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
恥ずかしくて誰にも言えなかったから	8.0	0.0	16.7	0.0	100.0	0.0	0.0
相談しても無駄だと思ったから	28.0	0.0	33.3	40.0	0.0	0.0	37.5
相談したことが分ると、仕返しをされたり暴力がさらにひどくなると思ったから	4.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0
相談担当者の言動により、不快な思いをすと思ったから	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
自分さえ我慢すれば、何とかこのままでやっていけると思ったから	36.0	100.0	33.3	80.0	0.0	25.0	12.5
世間体が悪いから	4.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
他人を巻き込みたくなかったから	12.0	0.0	16.7	0.0	0.0	50.0	0.0
被害を受けた事を忘れたかったから	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
自分にも悪いところがあると思ったから	48.0	100.0	50.0	40.0	0.0	50.0	50.0
相談するほどのことではないと思ったから	44.0	0.0	33.3	80.0	0.0	25.0	50.0
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	12.0	0.0	16.7	0.0	0.0	25.0	12.5

(20) あなたは、DVや性犯罪などをなくすためには、どうしたらよいと思いますか。
(複数回答)

「被害者が安心して相談できる窓口を確保する」が71.8%で最も高く、次いで「被害者を保護するための施設を整備する」45.8%、「捜査や裁判での担当者に女性を増やし、被害者が届けやすいようにする」44.2%の順となっています。

性別で見ると、「捜査や裁判での担当者に女性を増やし、被害者が届けやすいようにする」と回答した割合は、女性が男性より10%程度高く、「法律に盛り込まれた施策を十分に展開する」や「被害者を支援し、暴力に反対する市民運動を盛り上げる」、「テレビや新聞などのメディアが自主的な規制をする」と回答した割合は、男性が女性より若干高くなっています。



性別	年代	その他
女性	19・20 歳代	義務教育終了段階までに防止のための教育を徹底する(子どもに教育する。大人になってから意識を変えさせるのはかなり難しいと思うから)
女性	19・20 歳代	なくすのは不可能だと思う
女性	30 歳代	DV や性犯罪を行う人は自分が幼い頃にされたり十分な愛情を受けられずに育った人なのではないかと思うので、そのような人をアンケート等で抽出し(学校等で実施)心理士等と話す機会を設けて未然に防ぐ事に力を入れると良いと思う
女性	30 歳代	被害者が被害に気付ける様な広告を設置
女性	30 歳代	犯罪を犯す者の家庭環境。経済的・精神的なストレスがかかって犯罪を起こさないよう、子供の頃に愛情をかけられる時間や家族が仲良く思いやりを持てる心と金銭的余裕が持てる環境。帰り道、子供・女性は携帯型の小型のドライブレコーダーのような物を持たせる。(今後、できたらいいな…)夜道は、太陽光電気など省エネかつ明るくなる灯りもあればいいなと思います。
女性	30 歳代	直接話すのは難しいかと思うので、ホームページや SNS など顔を見せないで書き込み、訴えができるような所があればいいと思う。
女性	30 歳代	特に性教育について 小学校や中学の指導要領の見直しをすべき。性がはずかしい事としてしか認識できない日本の教育はまちがっている。世界の教育を学ぶべき!!女性の生理はかくさなければいけない事ではない。
女性	30 歳代	加害者更生プログラム受講の義務化
女性	30 歳代	実際、被害に合うと、誰に助けを求めて良いか分からなかったり、「自分が間違っているんだ」と思わされていて助けを求められなかったり、「大したことではない」と本人が思ってしまったらしてしまうからだと思う。
女性	30 歳代	性犯罪に関しては再犯率の高さから、他国のように GPS での管理や監視をすべき。人権を重視しすぎて被害者が減らない現状を早急に解決すべき。
女性	40 歳代	無駄、性格はなおらない
女性	40 歳代	加害者の情報を公開する
女性	40 歳代	なくならないと思う
女性	40 歳代	学校教育の中での性教育が不十分とのニュースを散見するので、充実した性教育を行って、若年層への周知を徹底する。成人(特に男性)の意識を変えるような体験学習のできる場があれば良いと思う。
女性	40 歳代	各家庭再建運動を図る
女性	40 歳代	スマホなどに、DVをうけたらすぐに押せる通報のボタンをつける
女性	50 歳代	女が強くなれば良い
女性	50 歳代	子どもの頃からの教育
女性	50 歳代	男尊女卑を無くしていく教育
女性	60 歳代	被害者が相談で警察に伝えても事件性がないとかまってくれないと良く聞いたことがある
女性	70 歳以上	一人でも生きていけるサポート
男性	19・20 歳代	学校教育でより深く、性・結婚などについて学習させる
男性	19・20 歳代	窓口があることの周知
男性	19・20 歳代	義務教育・高等教育における男女平等・性の教育の実施
男性	30 歳代	小学校等で道徳の授業の増加
男性	30 歳代	貧富の格差をなくす
男性	30 歳代	性犯罪の刑を重くする。人権気にせず去勢すればいい。
男性	30 歳代	罰則の強化
男性	30 歳代	道徳の見直し
男性	40 歳代	幼い頃の家庭環境による人格形成の問題が大きい
男性	40 歳代	市町の積極的介入
男性	40 歳代	相談を親身に受け、早期の宗田に力を入れる
男性	50 歳代	どうしようもない。社会の問題
男性	60 歳代	家庭での教育及び学校での教育の充実

性別	年代	その他
男性	60 歳代	人権意識を高める啓発を進める
男性	60 歳代	子どもの教育。小さいときから愛情いっぱい育てる（子どもが大きくなってやさしい思いやりのある人になるように）
男性	60 歳代	DVを受ける人はDVをする人が比較的好きで、DVを受ける人は常にDVを受けている（相手が変わっても）性的なことは、嗜好の問題ですから、違法と理解していてもゼロにはならない。（例）制限速度 40km の道路を 40km 以内で走行する人は少ない。50km や 60km で走行したら違反と理解していても守りません。性的な嗜好も本人は理解しているが守れない。同じ性的嗜好を持った人を一定地区に集めれば犯罪はなくなります。性犯罪者の隔離をすればと思います。
男性	70 歳以上	具体的な施策の周知を図る
男性	70 歳以上	必要ナイ

性別・年代別で見ると、「被害者が安心して相談できる窓口を確保する」と回答した割合は、女性のすべての年代で6割を超えており最も高くなっています。また、「DV防止法やストーカー規制法など法律・制度の周知を図る」と回答した割合は、男性の「30歳代」と「50歳以上」で高くなっています。

選択項目	女性全体 (n=434)	19・20歳代 (n=52)	30歳代 (n=61)	40歳代 (n=66)	50歳代 (n=61)	60歳代 (n=98)	70歳以上 (n=96)
法律・制度の制定や見直しを行う	42.2	44.2	39.3	43.9	45.9	45.9	35.4
DV防止法やストーカー規制法など法律・制度の周知を図る	45.6	46.2	41.0	42.4	62.3	43.9	41.7
法律に盛り込まれた施策を十分に展開する	26.7	32.7	23.0	30.3	41.0	22.4	18.8
犯罪の取り締まりを強化する	41.2	38.5	41.0	48.5	44.3	37.8	39.6
捜査や裁判での担当者に女性を増やし、被害者が届けやすいようにする	49.1	53.8	45.9	59.1	55.7	42.9	43.8
被害者を支援し、暴力に反対する市民運動を盛り上げる	8.5	3.8	8.2	12.1	3.3	8.2	12.5
被害者が安心して相談できる窓口を確保する	73.5	69.2	62.3	80.3	75.4	78.6	71.9
被害者を保護するための施設を整備する	48.4	44.2	45.9	47.0	55.7	56.1	40.6
家庭における男女平等や性についての教育を充実させる	32.5	42.3	34.4	33.3	26.2	35.7	26.0
テレビや新聞などのメディアが自主的な規制をする	11.5	9.6	9.8	9.1	11.5	16.3	10.4
その他	4.4	3.8	11.5	9.1	4.9	0.0	1.0
無回答	3.5	0.0	1.6	3.0	1.6	2.0	9.4
選択項目	男性全体 (n=295)	19・20歳代 (n=29)	30歳代 (n=35)	40歳代 (n=42)	50歳代 (n=37)	60歳代 (n=70)	70歳以上 (n=82)
法律・制度の制定や見直しを行う	37.6	44.8	40.0	31.0	51.4	27.1	40.2
DV防止法やストーカー規制法など法律・制度の周知を図る	41.0	24.1	42.9	28.6	51.4	38.6	50.0
法律に盛り込まれた施策を十分に展開する	30.2	20.7	28.6	28.6	43.2	28.6	30.5
犯罪の取り締まりを強化する	40.3	44.8	48.6	45.2	35.1	31.4	42.7
捜査や裁判での担当者に女性を増やし、被害者が届けやすいようにする	36.9	55.2	37.1	31.0	40.5	34.3	34.1
被害者を支援し、暴力に反対する市民運動を盛り上げる	11.9	13.8	5.7	2.4	13.5	12.9	17.1
被害者が安心して相談できる窓口を確保する	69.5	65.5	54.3	66.7	70.3	81.4	68.3
被害者を保護するための施設を整備する	42.4	41.4	42.9	38.1	48.6	51.4	34.1
家庭における男女平等や性についての教育を充実させる	26.4	27.6	28.6	14.3	32.4	35.7	20.7
テレビや新聞などのメディアが自主的な規制をする	14.9	24.1	11.4	7.1	24.3	15.7	12.2
その他	6.1	10.3	14.3	7.1	2.7	5.7	2.4
無回答	3.7	0.0	0.0	2.4	2.7	4.3	7.3

6. 男女共同参画社会について

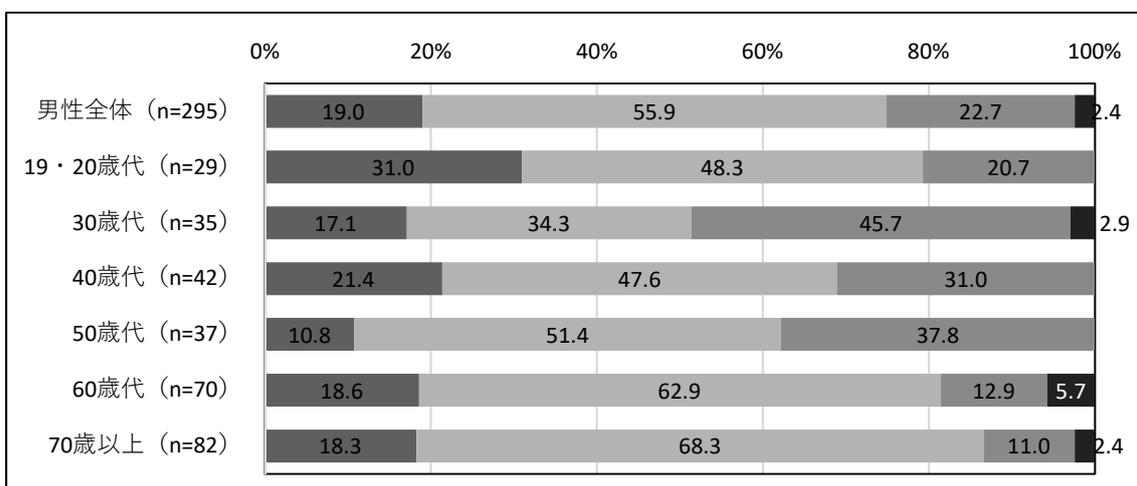
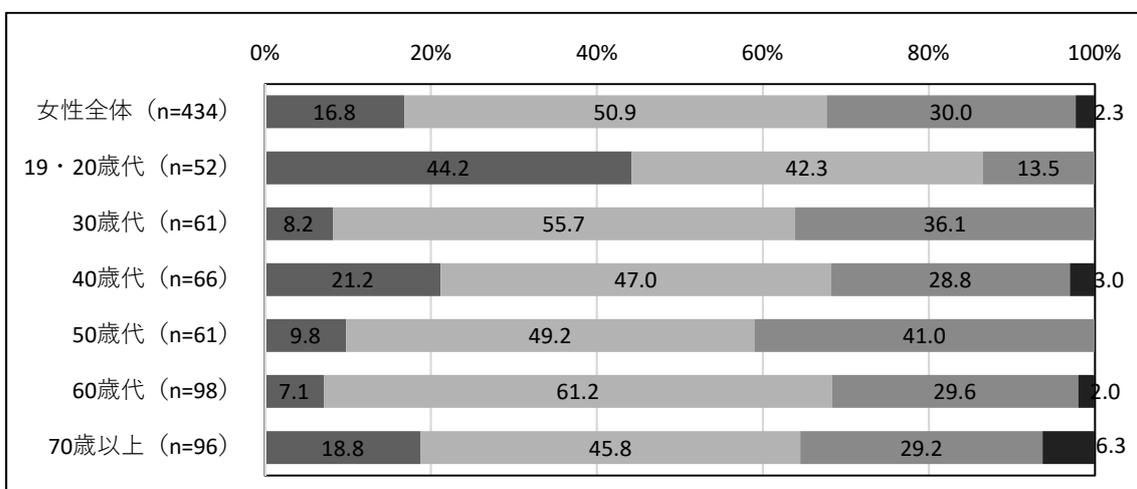
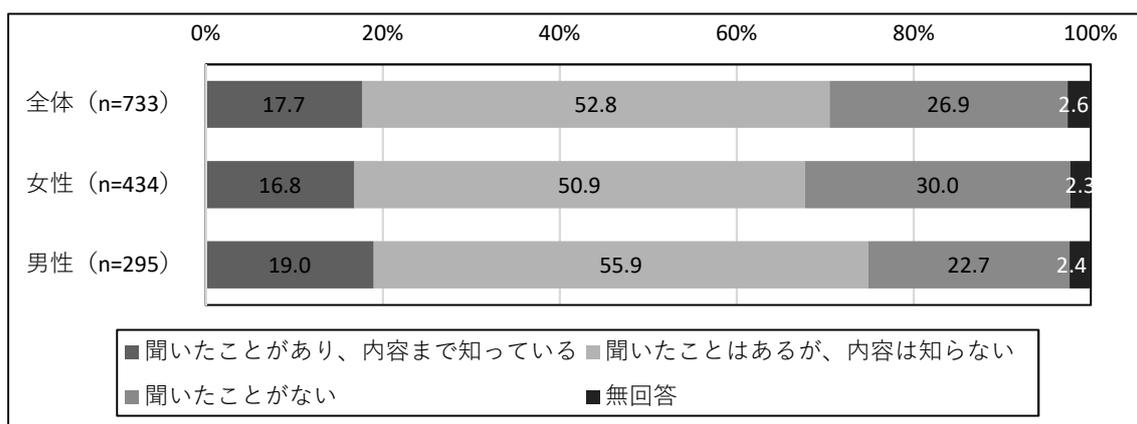
(21) これらの言葉や内容を知っていますか。

①男女共同参画社会基本法

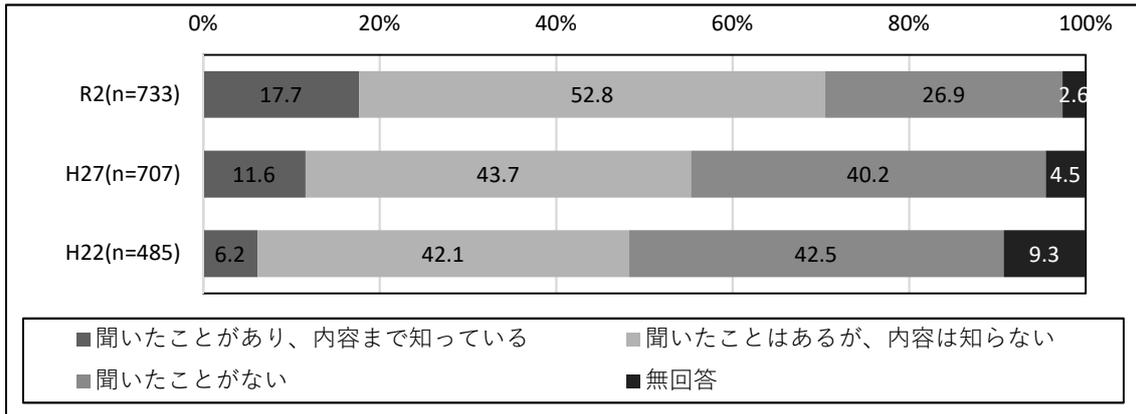
「聞いたことはあるが、内容は知らない」が52.8%で最も高く、次いで「聞いたことがない」26.9%、「聞いたことがあり、内容まで知っている」17.7%の順となっています。

性別で見ると、「聞いたことがない」と回答した割合は、女性(30.0%)が男性(22.7%)より7.3%高く、「聞いたことはあるが、内容は知らない」と回答した割合は、男性(55.9%)が女性(50.9%)より5.0%高くなっています。

性別・年代別で見ると、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、女性の「19・20歳代」で最も高くなっています。



H22 と H27、R2 の調査を比較すると、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、H22 (6.2%)、H27 (11.6%)、R2 (17.7%) と高くなってきています。

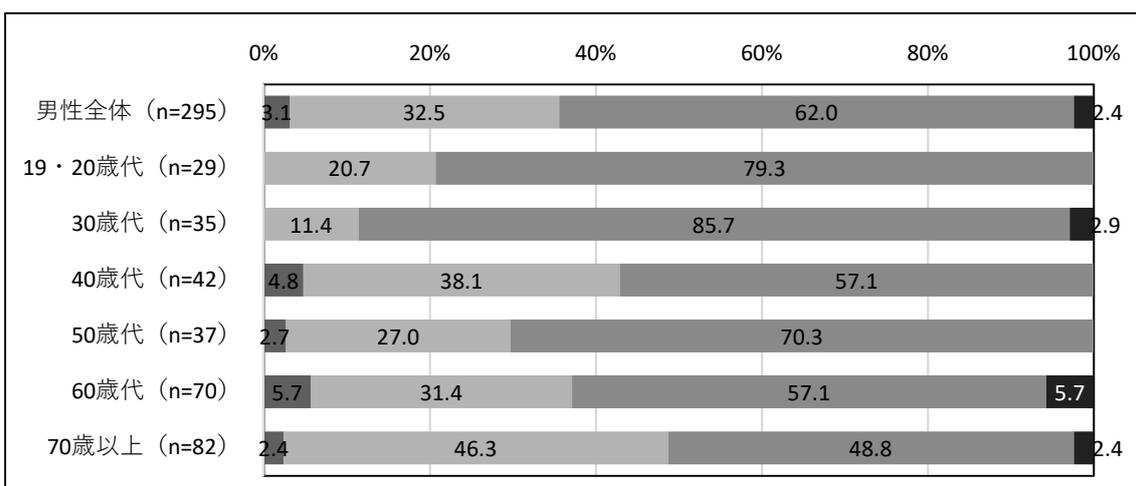
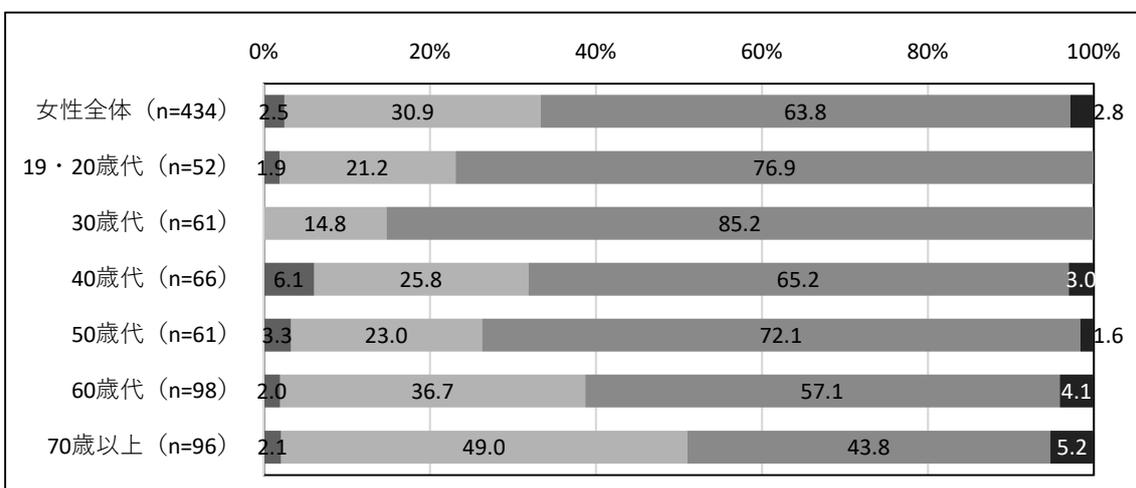
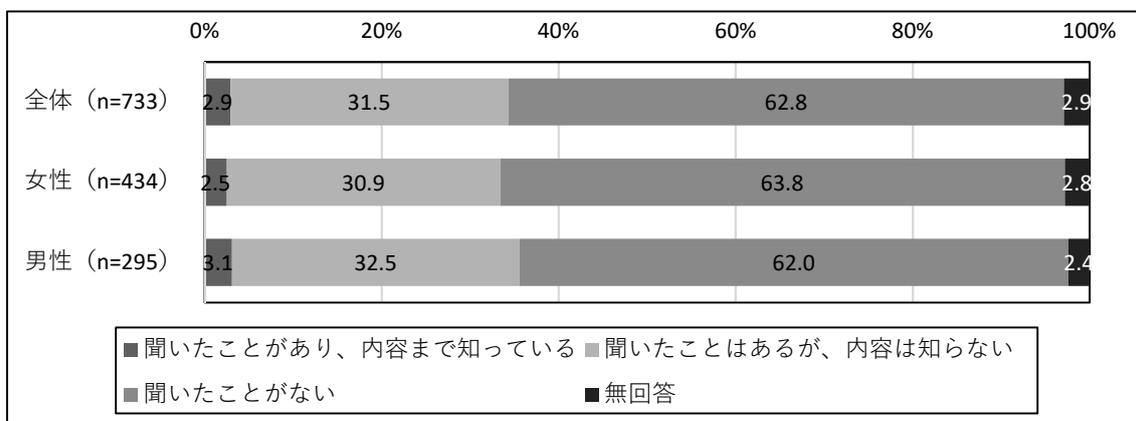


②小城市男女共同参画プラン（さくらプラン）

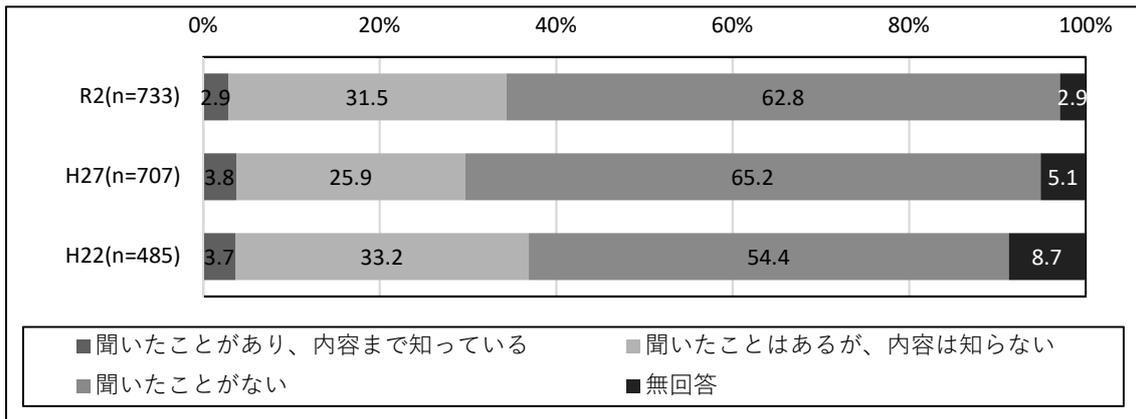
「聞いたことがない」が62.8%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」31.5%、「聞いたことがあり、内容まで知っている」2.9%の順となっています。

性別による大きな差異は見られません。

性別・年代別で見ると、「聞いたことがない」と回答した割合は、女性・男性ともに「30歳代」で80%以上と高くなっています。



H22 と R2 の調査を比較すると、「聞いたことはあるが、内容は知らない」と回答した割合は、R2（31.5%）がH22（33.2%）より 1.7%低くなり、「聞いたことがない」と回答した割合は、R2（62.8%）がH22（54.4%）より 8.4%高くなっています。

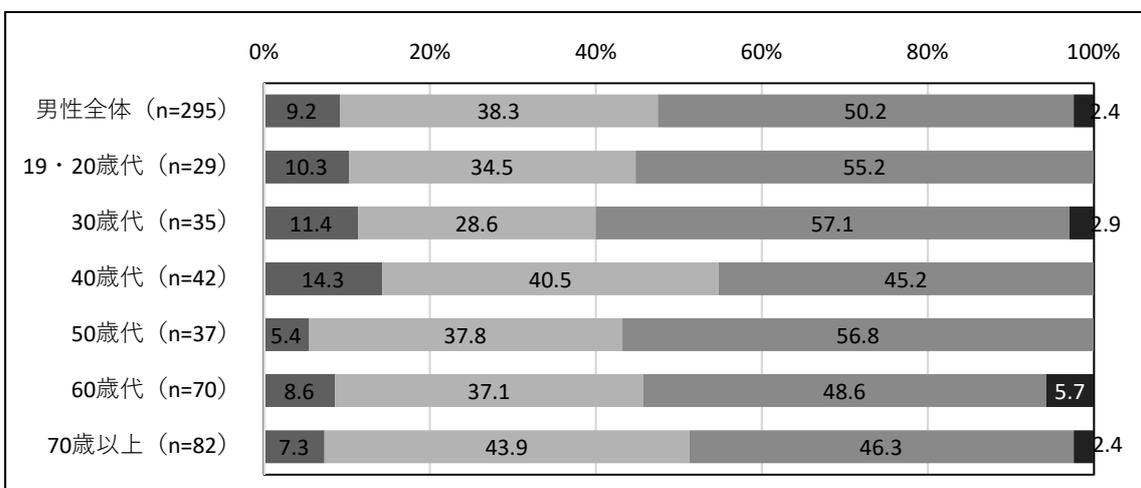
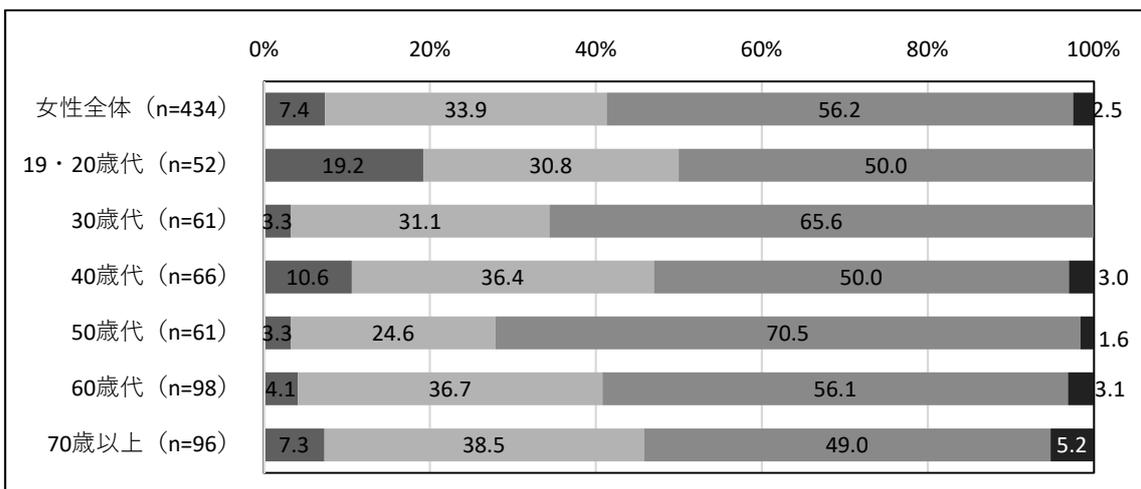
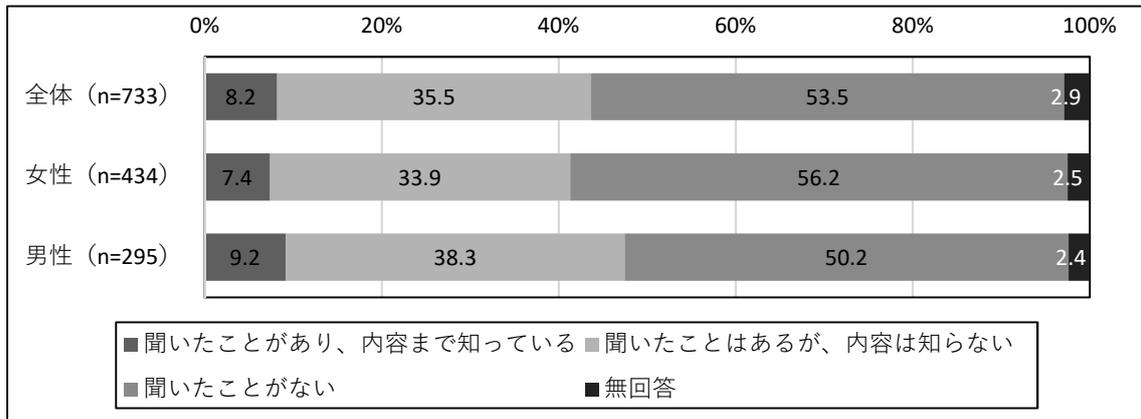


③女性活躍推進法

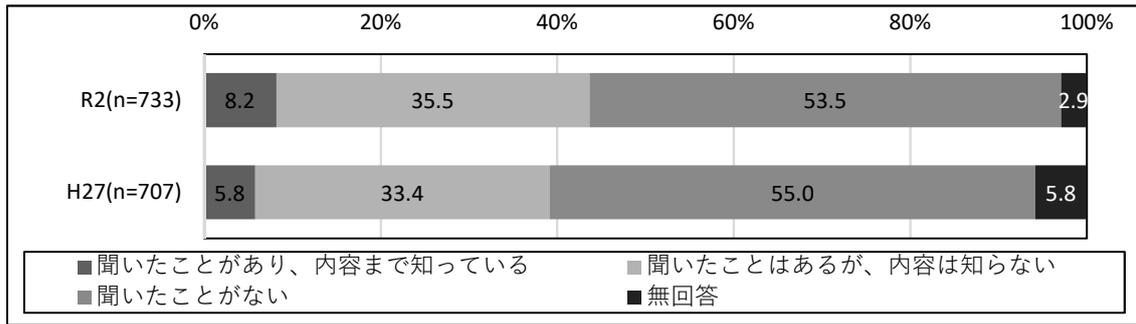
「聞いたことがない」が53.5%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」35.5%、「聞いたことがあり、内容まで知っている」8.2%の順となっています。

性別で見ると、「聞いたことはあるが、内容は知らない」と回答した割合は、男性（38.3%）が女性（33.9%）より4.4%高く、「聞いたことがない」と回答した割合は、女性（56.2%）が男性（50.2%）より6.0%高くなっています。

性別・年代別で見ると、「聞いたことがない」と回答した割合は、女性・男性ともに「30歳代」と「50歳代」で高くなっています。



H27 と R2 の調査を比較すると、「聞いたことがない」と回答した割合は、R2 (53.5%) が H27 (55.0%) より 1.5% 低くなり、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、R2 (8.2%) が H27 (5.8%) より 2.4% 高くなっています。

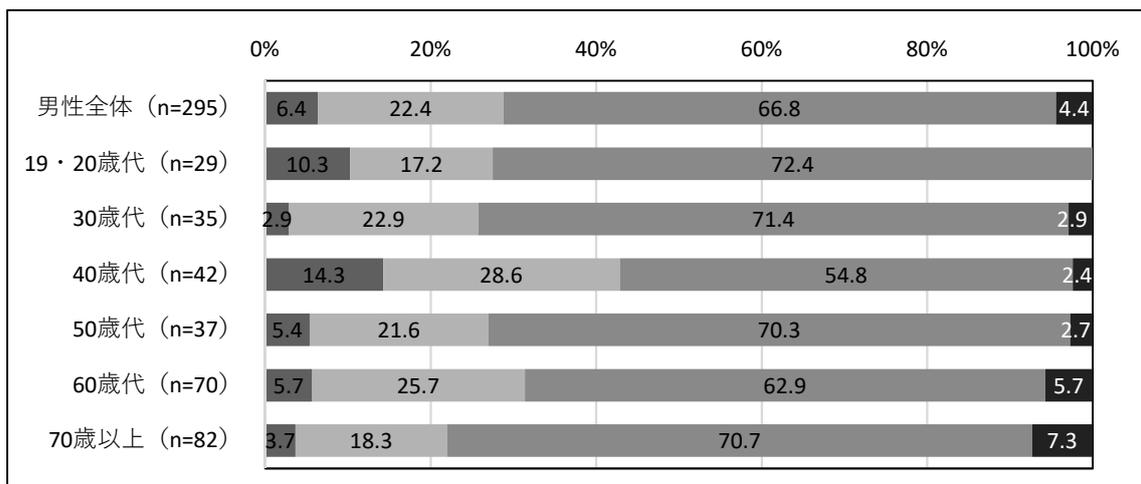
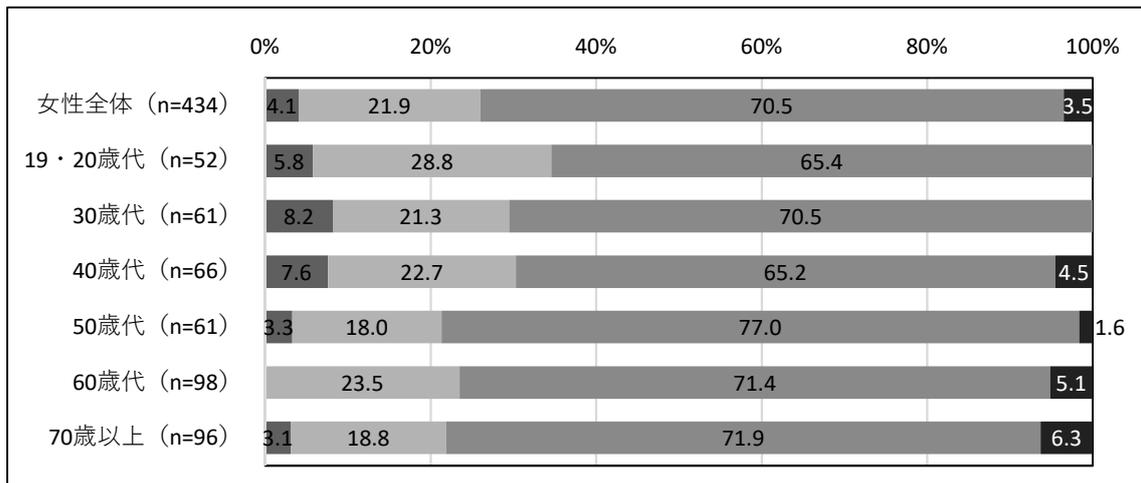
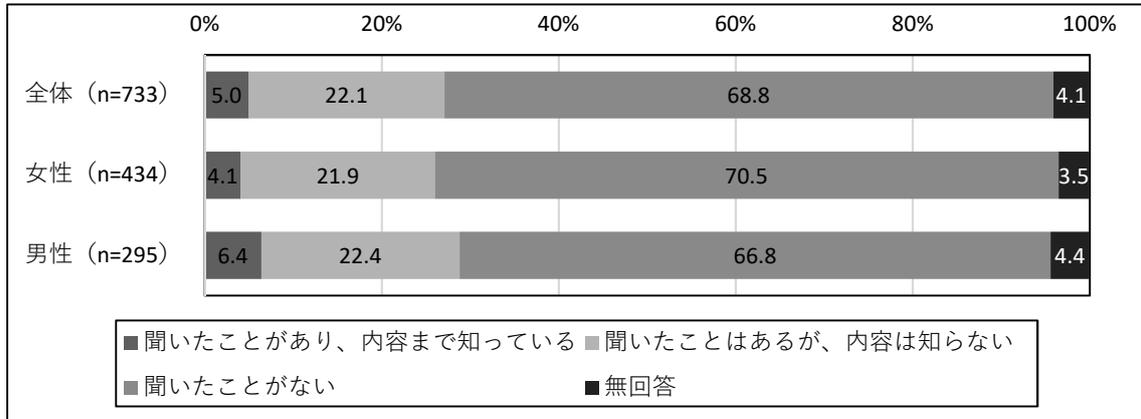


④女性のエンパワーメント

「聞いたことがない」が68.8%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」22.1%、「聞いたことがあり、内容まで知っている」5.0%の順となっています。

性別による大きな差異は見られません。

性別・年代別で見ると、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、男性の「40歳代」「19・20歳代」と女性の「30歳～40歳代」で高くなっています。

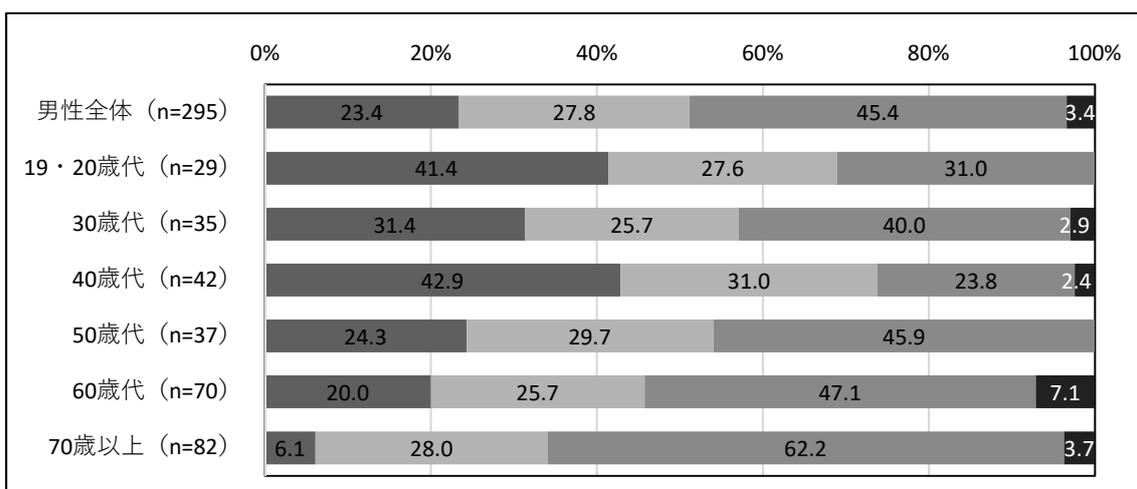
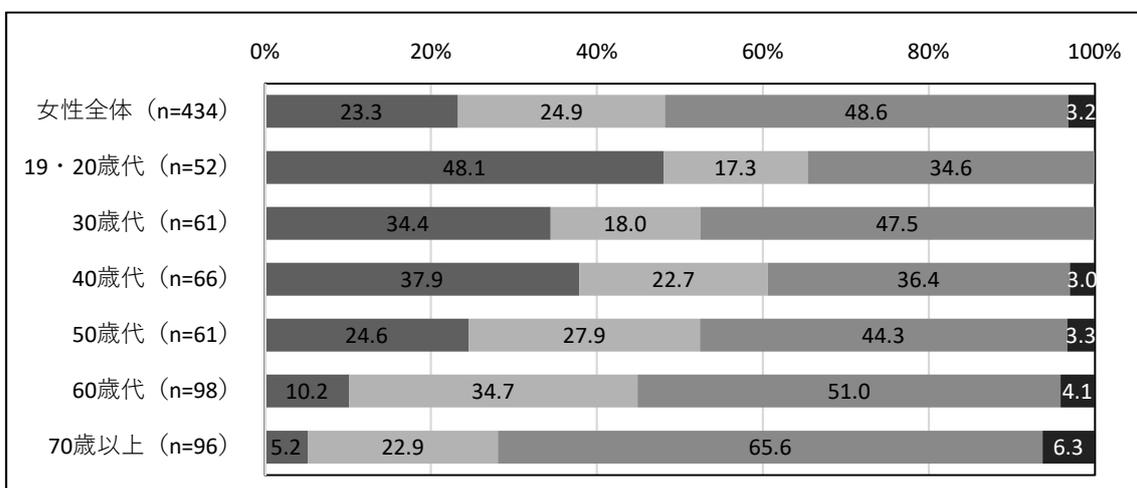
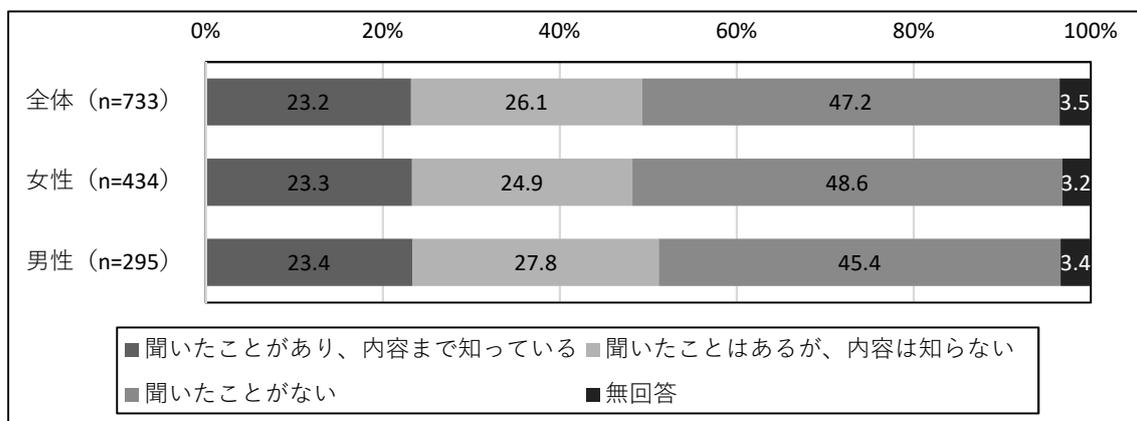


⑤ワーク・ライフ・バランス

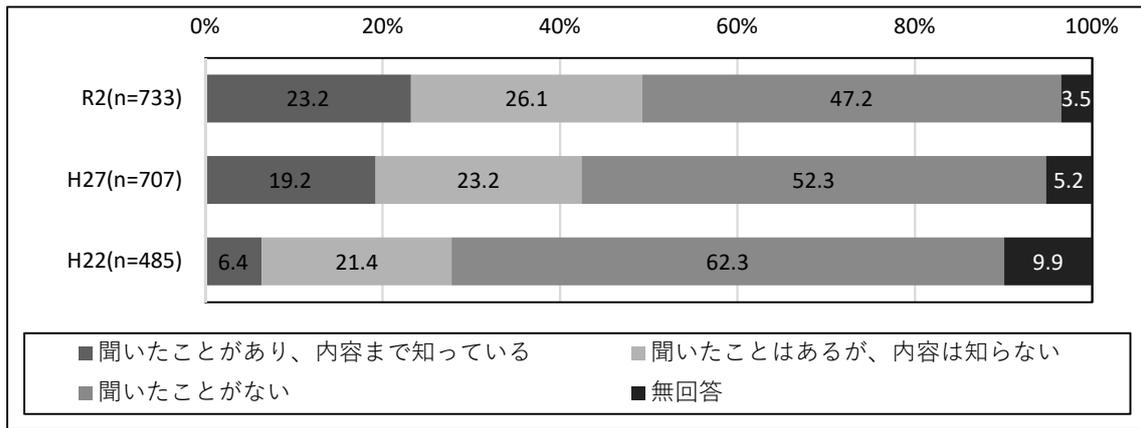
「聞いたことがない」が47.2%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」26.1%、「聞いたことがあり、内容まで知っている」23.2%の順となっています。

性別による大きな差異は見られません。

性別・年代別で見ると、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、女性・男性ともに「19・20歳代」と「40歳代」で高くなっています。



H22とH27、R2の調査を比較すると、「聞いたことがない」と回答した割合は、H22(62.3%)、H27(52.3%)、R2(47.2)と低くなってきており、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、H22(6.4%)、H27(19.2%)、R2(23.2%)と高くなってきています。

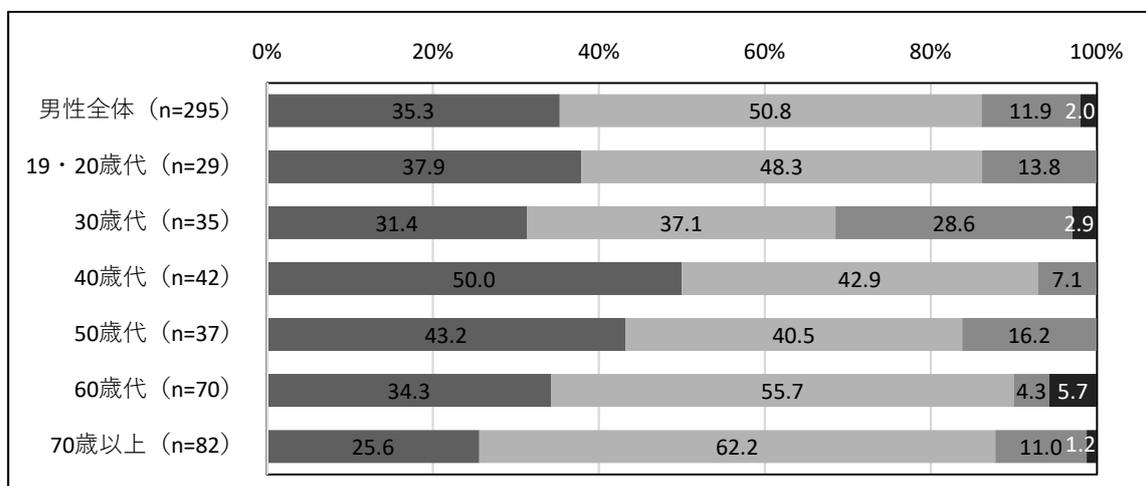
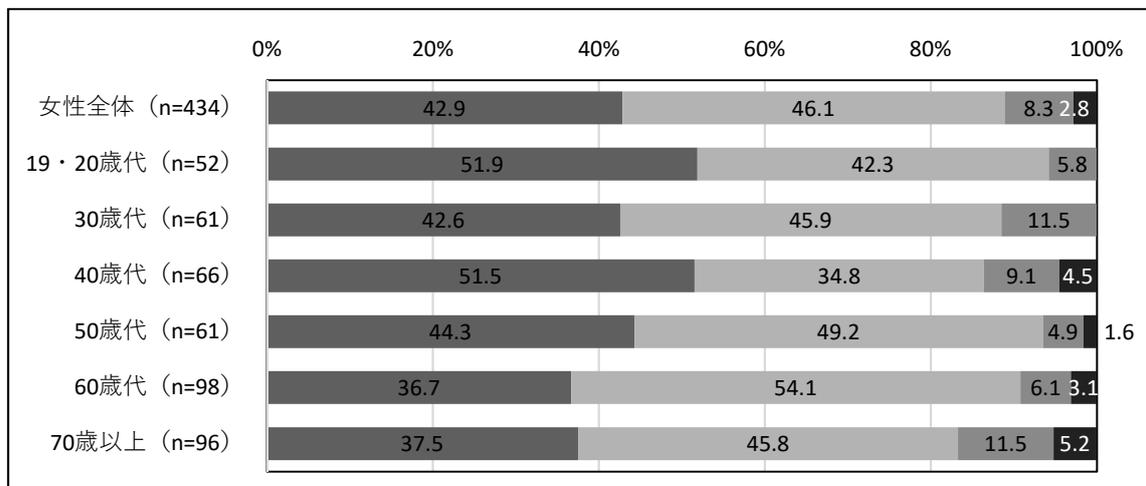
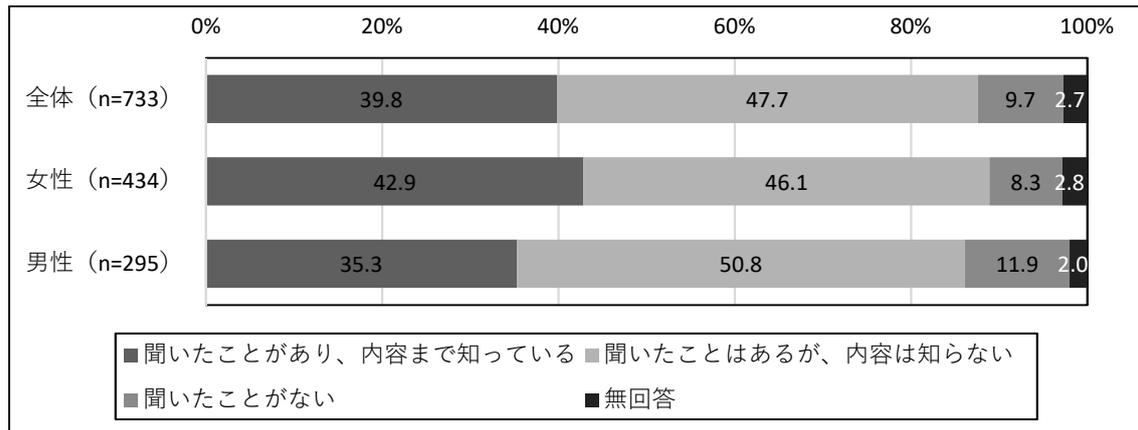


⑥育児・介護休業法

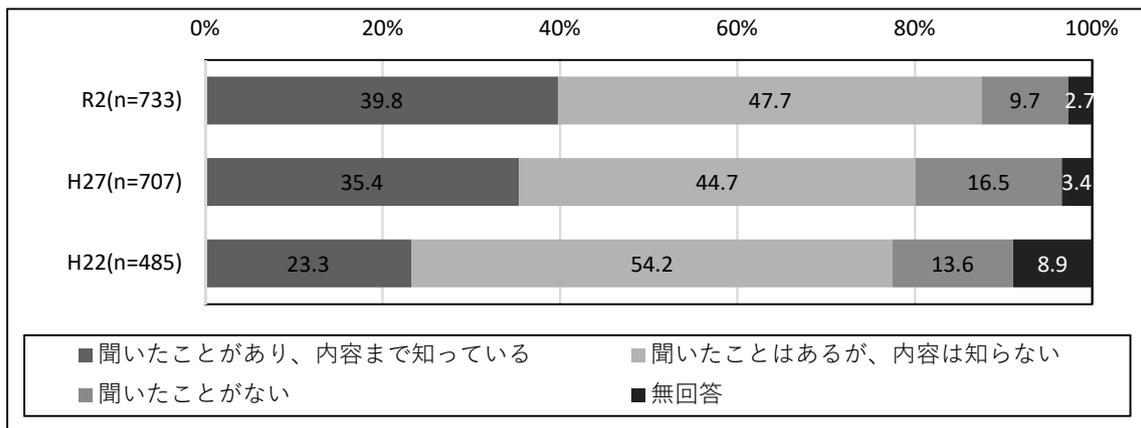
「聞いたことはあるが、内容は知らない」が47.7%で最も高く、次いで「聞いたことがあり、内容まで知っている」39.8%、「聞いたことがない」9.7%の順となっています。

性別で見ると、「聞いたことはあるが、内容は知らない」と回答した割合は、男性（50.8%）が女性（46.1%）より4.7%高く、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、女性（42.9%）が男性（35.3%）より7.6%高くなっています。

性別・年代別で見ると、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、女性の「19・20歳代」51.9%、「40歳代」51.5%、男性の「40歳代」50.0%と高くなっています。また、「聞いたことがない」と回答した割合は、男性の「30歳代」28.6%で高くなっています。



H22 と H27、R2 の調査を比較すると、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、H22 (23.3%)、H27 (35.4%)、R2 (39.8%) と高くなってきています。

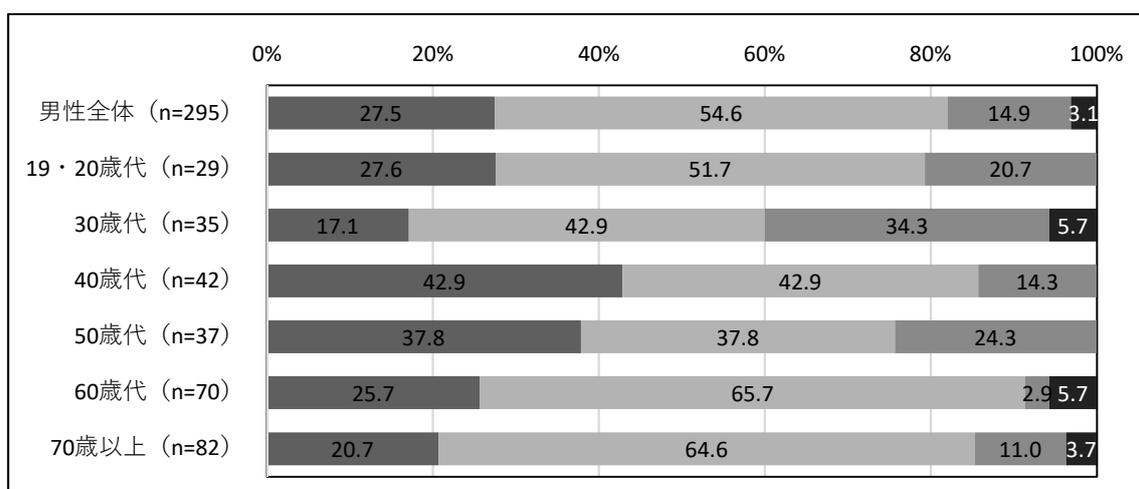
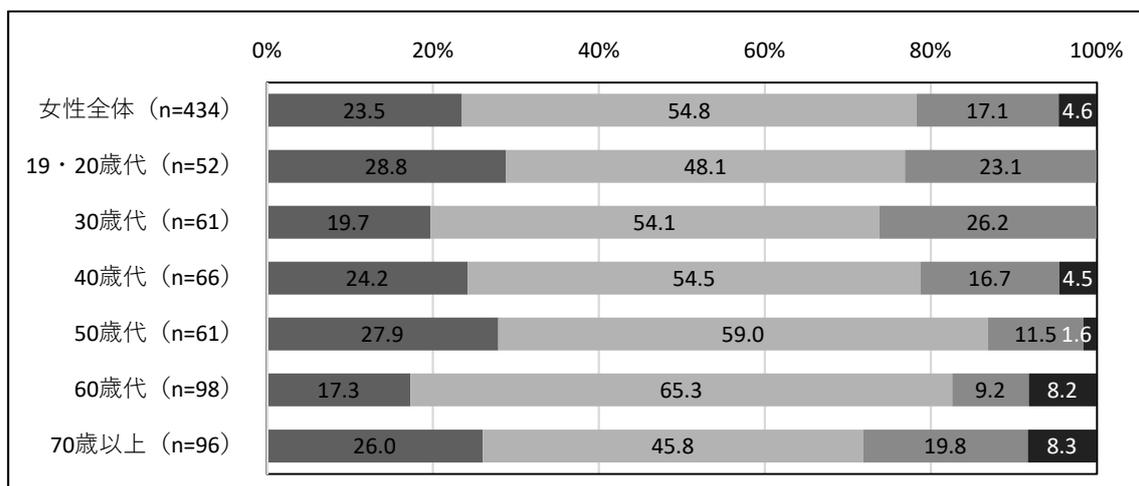
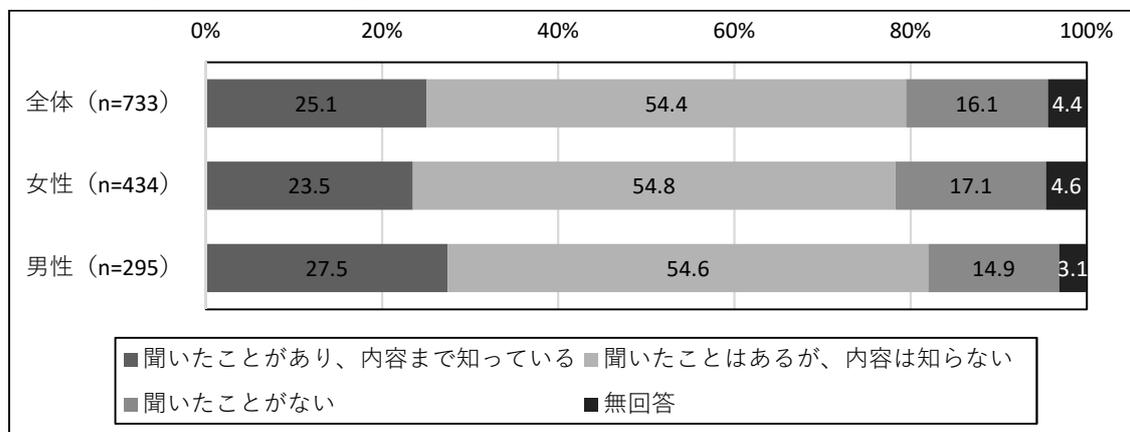


⑦ハラスメント規制法

「聞いたことはあるが、内容は知らない」が54.4%で最も高く、次いで「聞いたことがあります、内容まで知っている」25.1%、「聞いたことがない」16.1%の順となっています。

性別による大きな差異は見られません。

性別・年代別で見ると、「聞いたことがあります、内容まで知っている」と回答した割合は、男性の「40歳代」で42.9%と高くなっており、「聞いたことがない」と回答した割合は、男性の「30歳代」で34.3%と高くなっています。

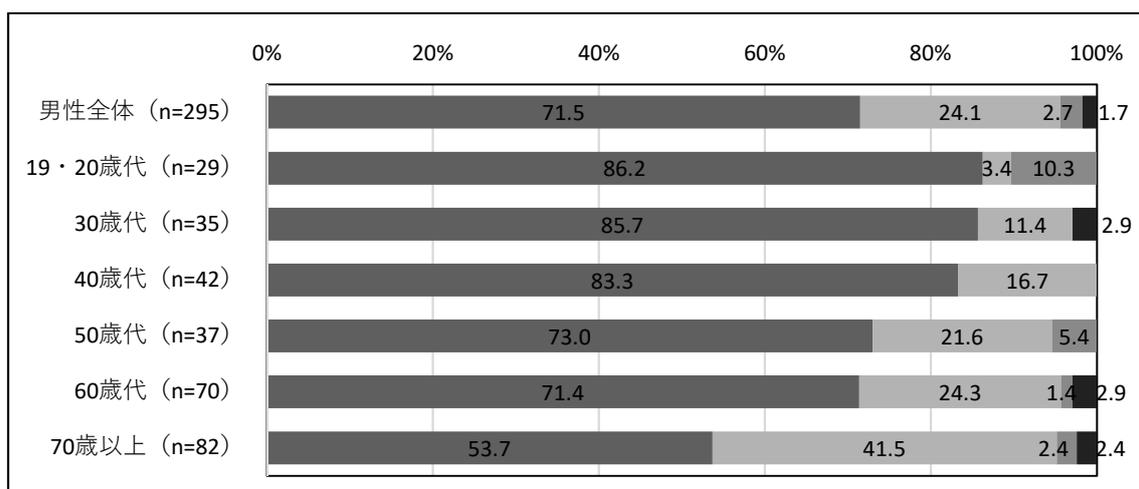
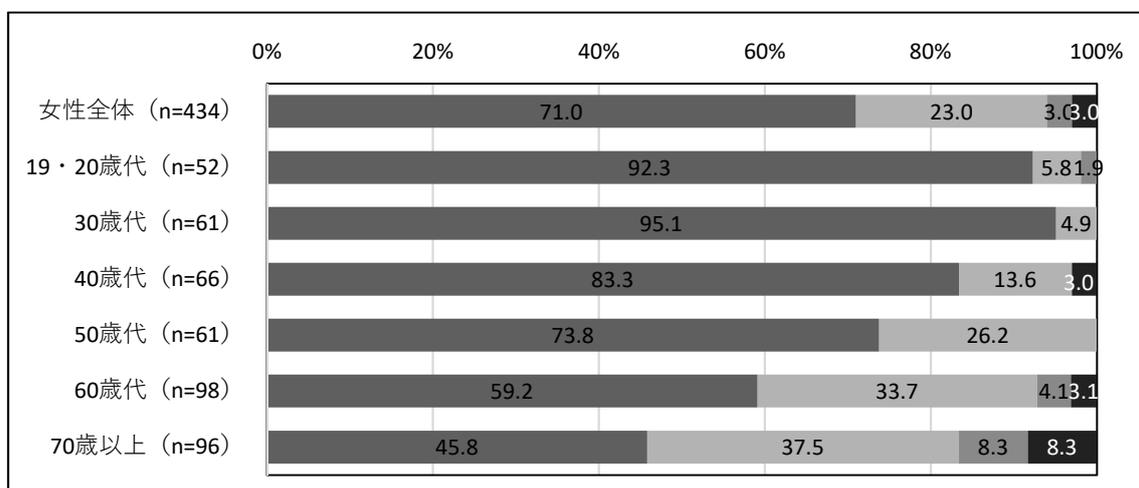
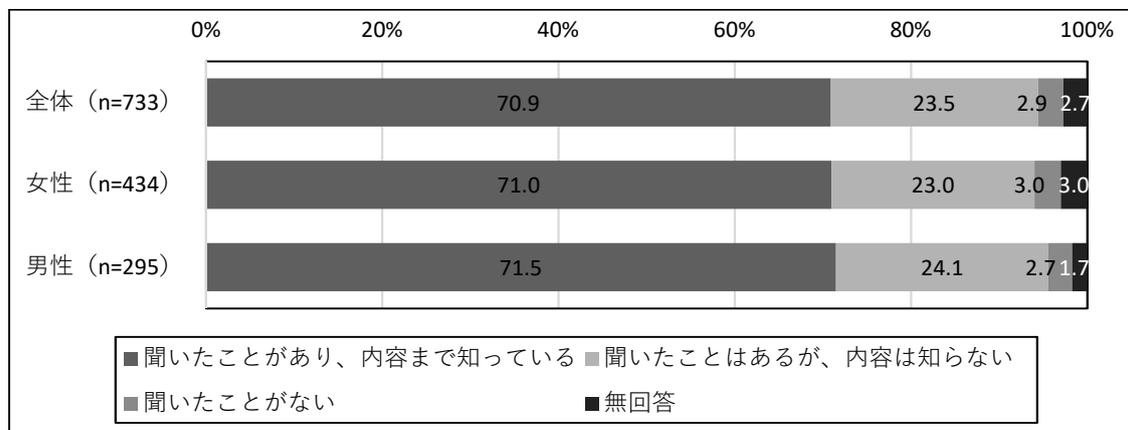


⑧セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）

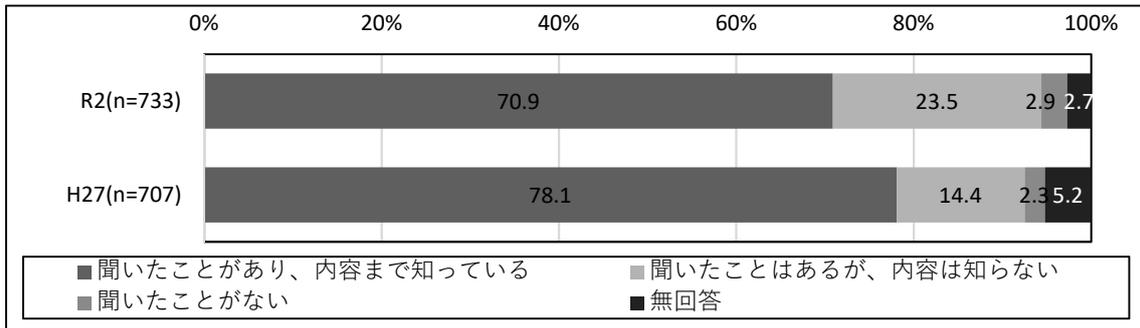
「聞いたことがあり、内容まで知っている」が70.9%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」23.5%、「聞いたことがない」2.9%の順となっています。

性別による大きな差異は見られません。

性別・年代別で見ると、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、女性・男性ともに「19・20歳代～40歳代」で80%以上と高くなっています。



H27とR2の調査を比較すると、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、R2（70.9%）がH27（78.1%）より7.2%低くなり、「聞いたことはあるが、内容は知らない」と回答した割合は、R2（23.5%）がH27（14.4%）より9.1%高くなっています。

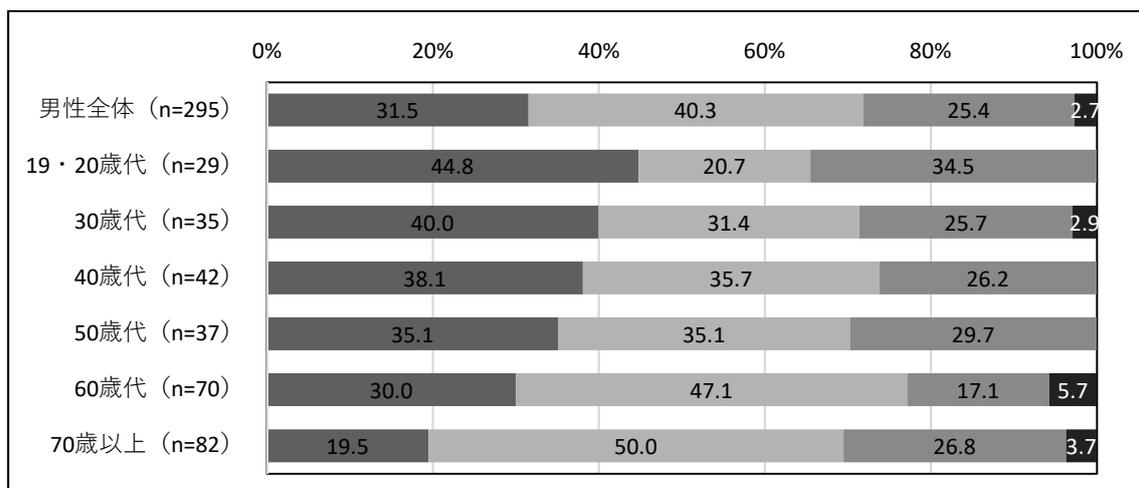
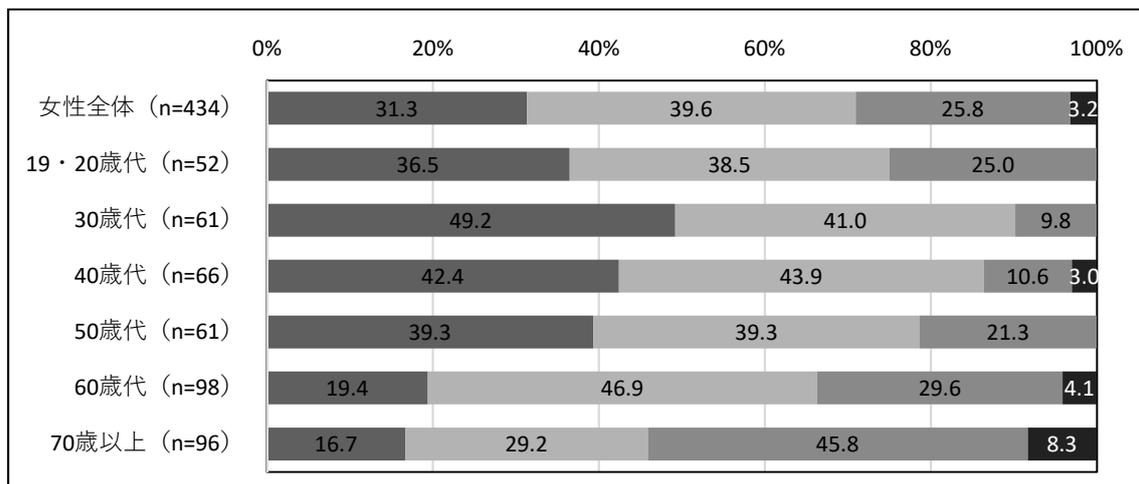
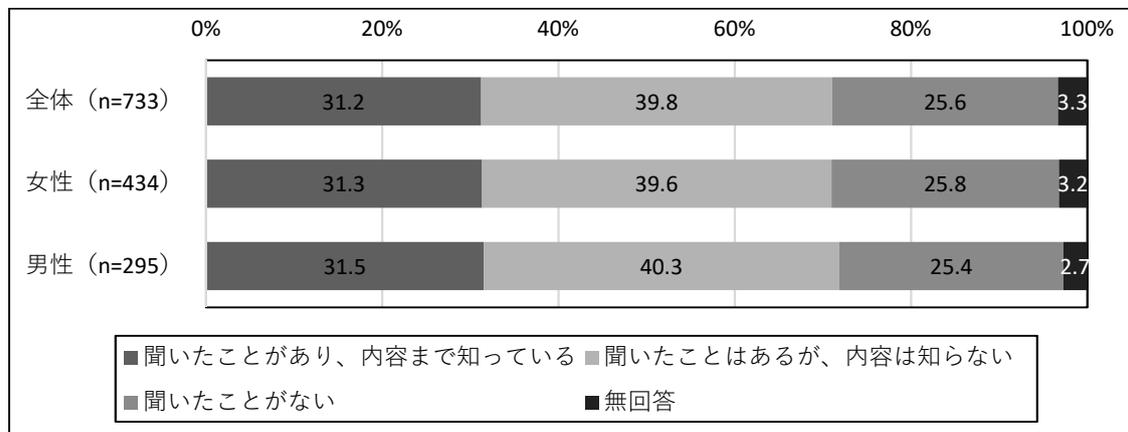


⑨セクシュアル・マイノリティ

「聞いたことはあるが、内容は知らない」が39.8%で最も高く、次いで「聞いたことがあります、内容まで知っている」31.2%、「聞いたことがない」25.6%の順となっています。

性別による大きな差異は見られません。

性別・年代別で見ると、「聞いたことがあります、内容まで知っている」と回答した割合は、女性の「30歳～40歳代」、男性の「19・20歳代」で40%以上と高くなっています。「聞いたことがない」と回答した割合は、女性の「70歳以上」で高くなっています。

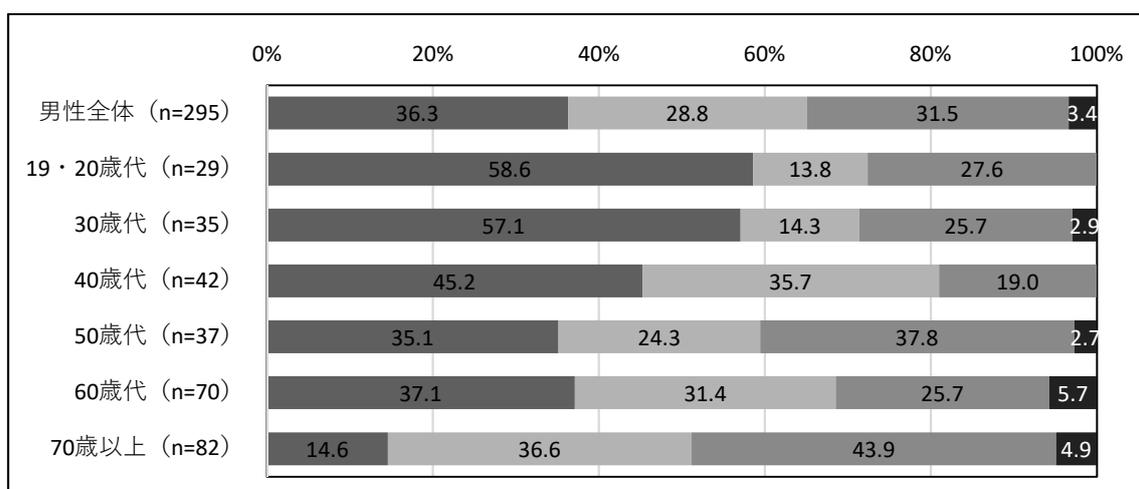
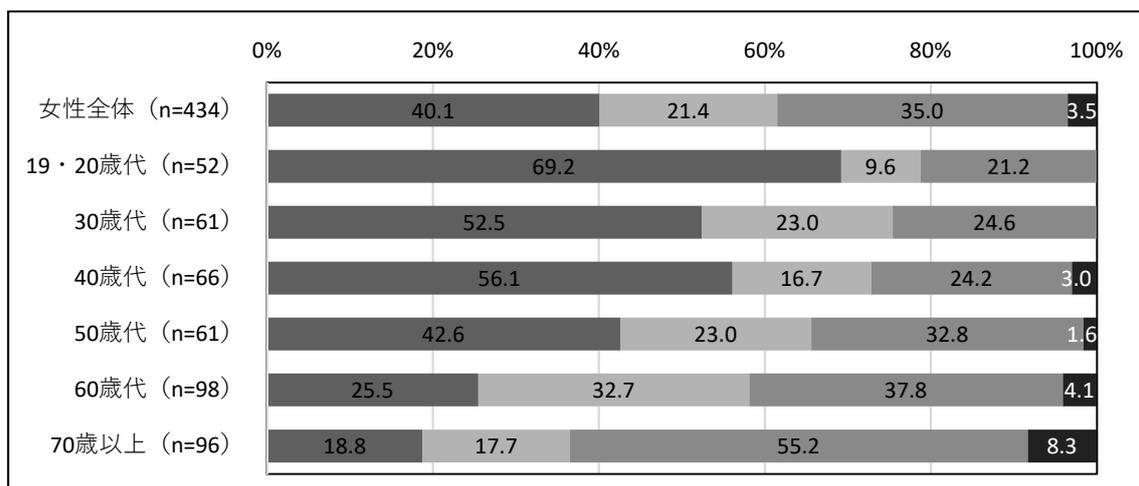
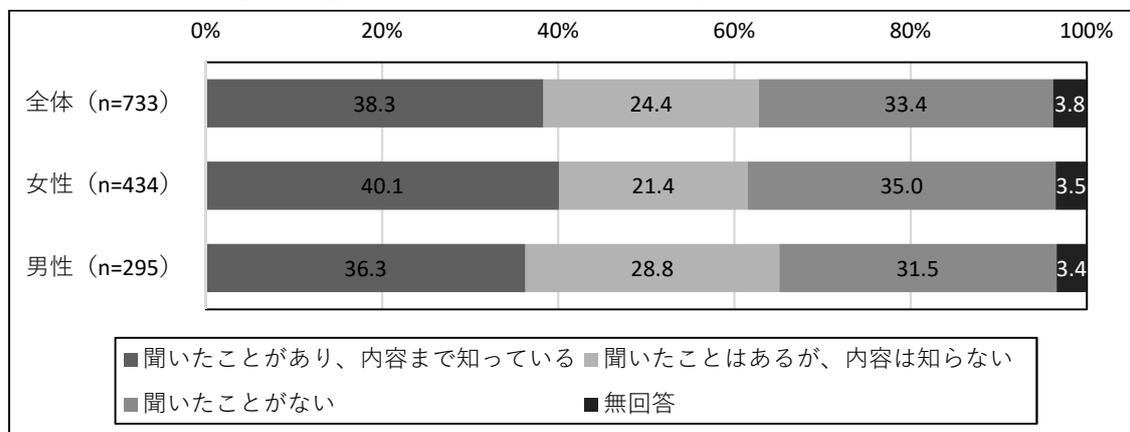


⑩ LGBT (LGBTs)

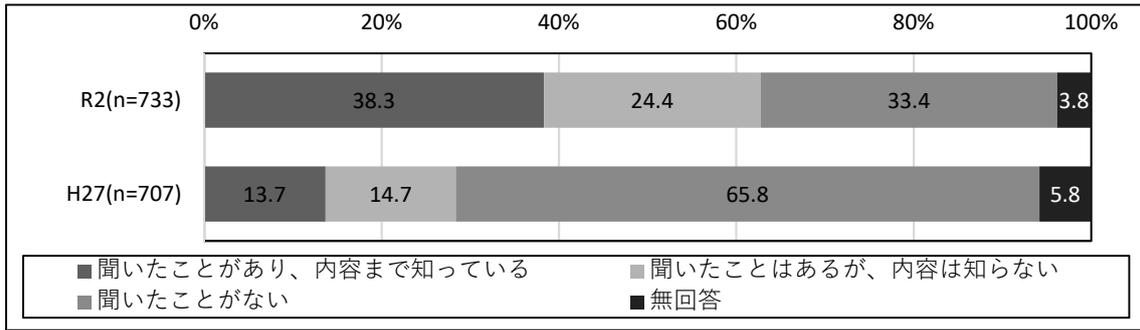
「聞いたことがあり、内容まで知っている」が38.3%で最も高く、次いで「聞いたことがない」33.4%、「聞いたことはあるが、内容は知らない」24.4%の順となっています。

性別で見ると、「聞いたことはあるが、内容は知らない」と回答した割合は、男性(28.8%)が女性(21.4%)より7.4%高くなっています。

性別・年代別で見ると、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、女性の「19・20歳代~40歳代」、男性の「19・20歳代~30歳代」で高くなっています。



H27とR2の調査を比較すると、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、R2（38.3%）がH27（13.7%）より24.6%高くなり、「聞いたことがない」と回答した割合は、R2（33.4%）がH27（65.8%）より32.4%低くなっています。

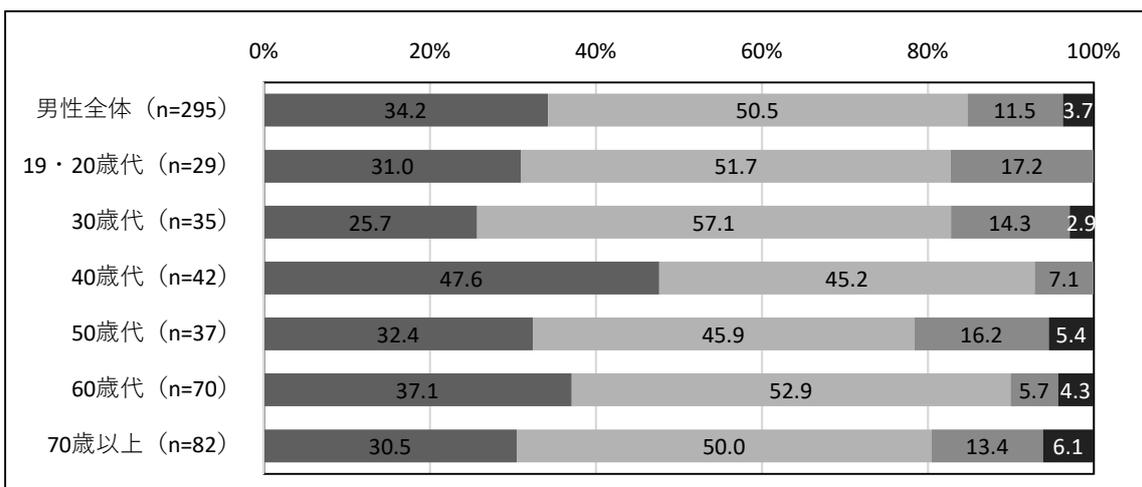
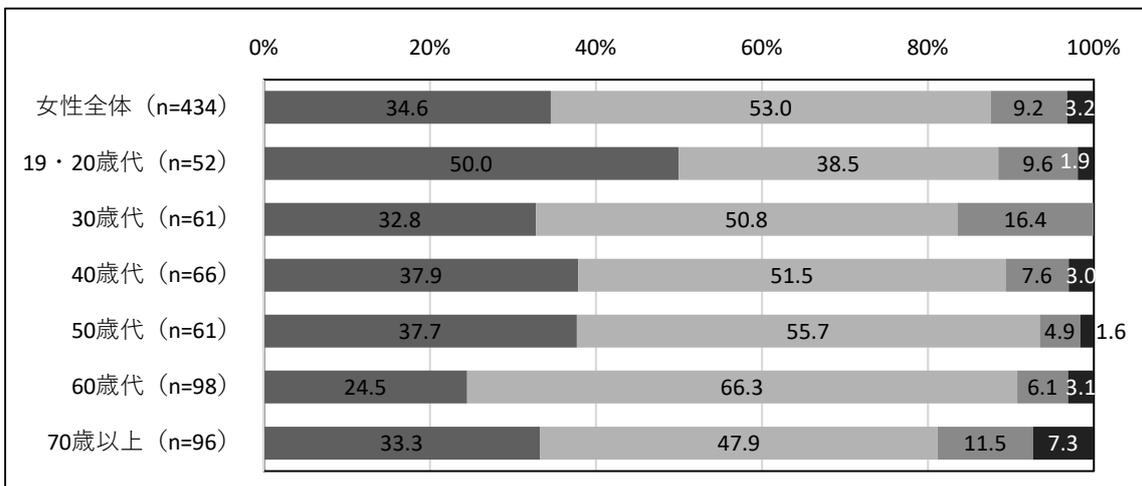
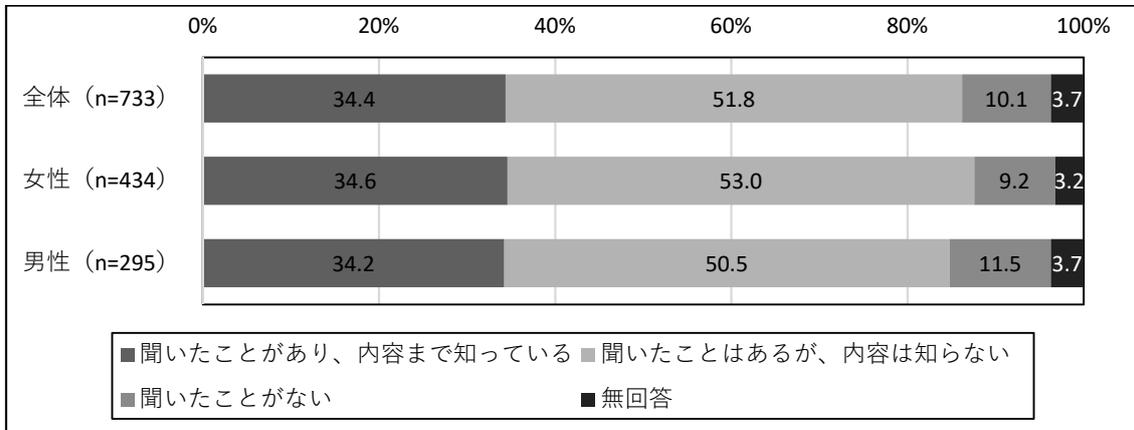


⑪DV防止法

「聞いたことはあるが、内容は知らない」が51.8%で最も高く、次いで「聞いたことがあります、内容まで知っている」34.4%、「聞いたことがない」10.1%の順となっています。

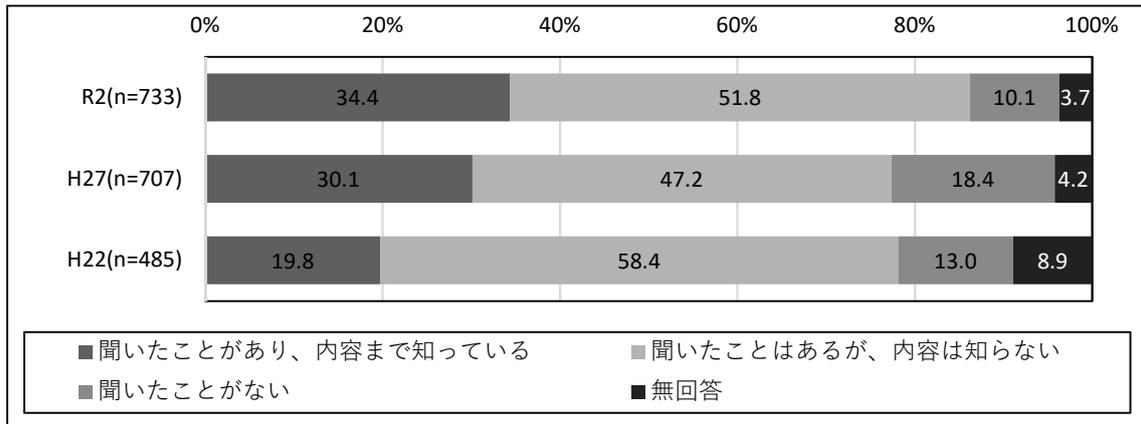
性別による大きな差異は見られません。

性別・年代別で見ると、「聞いたことがあります、内容まで知っている」と回答した割合は、女性の「19・20歳代」で50.0%、男性の「40歳代」で47.6%と高くなっています。



H22 と H27、R2 の調査を比較すると、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、H22 (19.8%)、H27 (30.1%)、R2 (34.4%) と高くなってきています。

H27 と R2 の調査を比較すると、「聞いたことがない」と回答した割合は、R2 (10.1%) が H27 (18.4%) より 8.3%低くなっています。

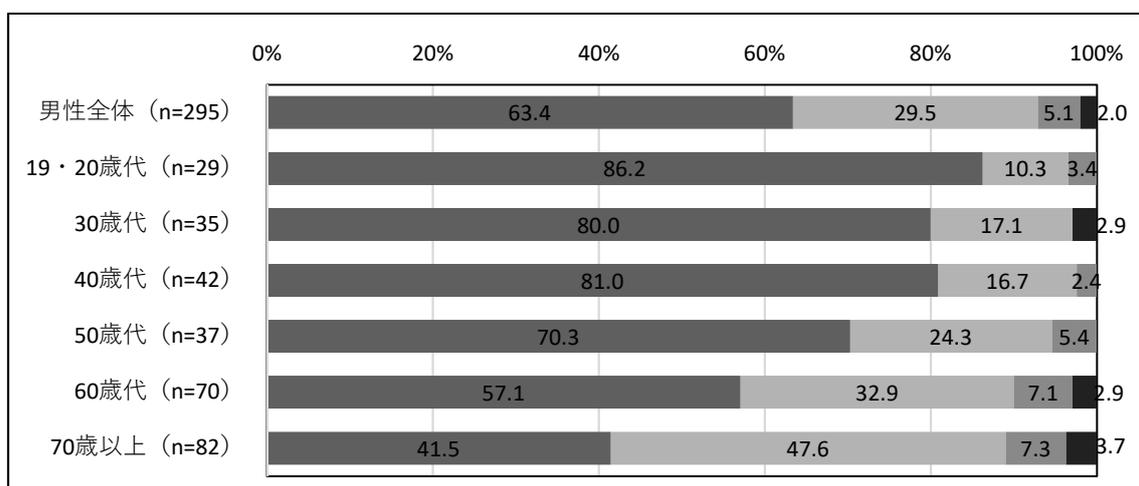
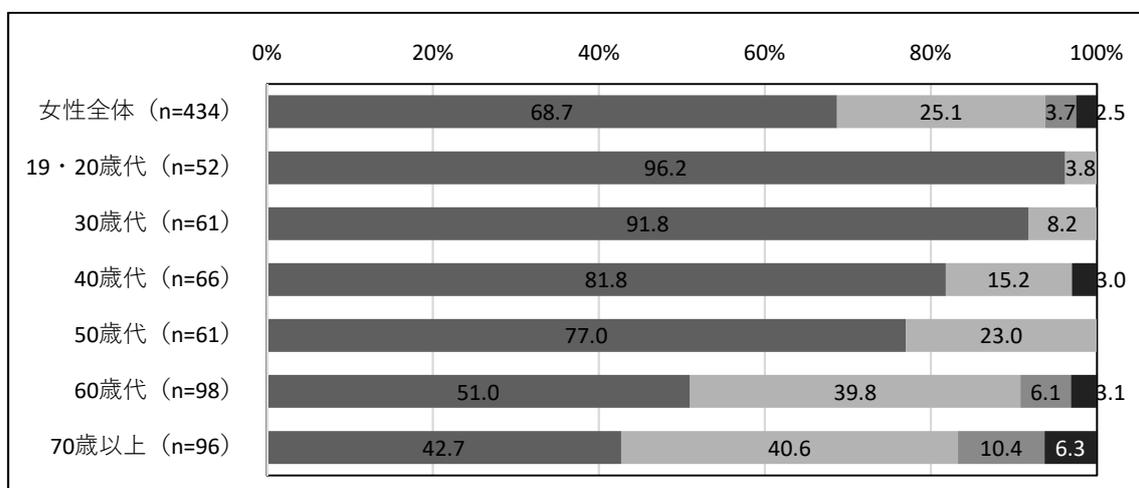
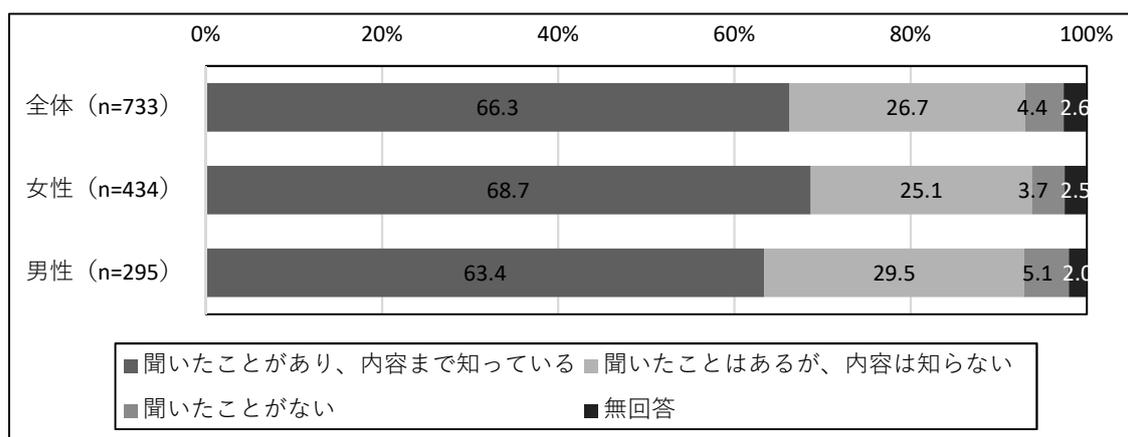


⑫ドメスティック・バイオレンス（DV）

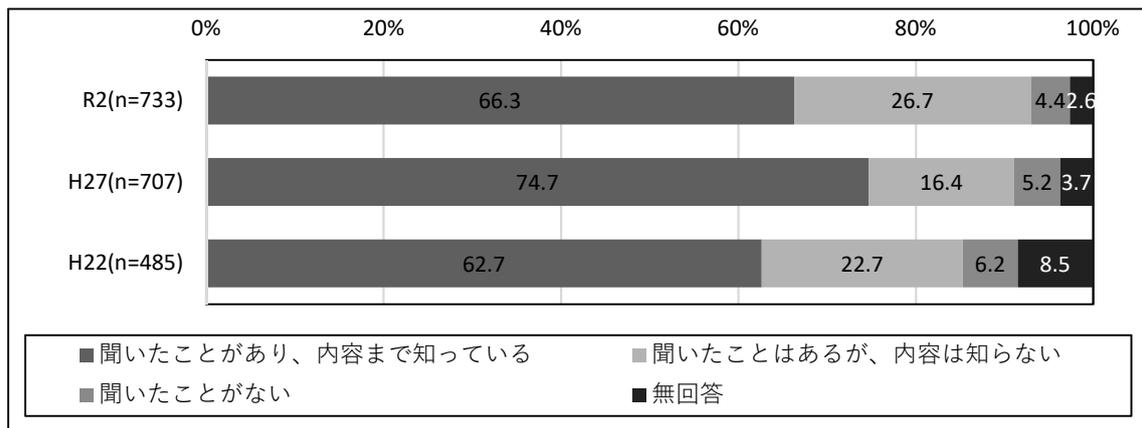
「聞いたことがあり、内容まで知っている」が66.3%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」26.7%、「聞いたことがない」4.4%の順となっています。

性別で見ると、「聞いたことはあるが、内容は知らない」と回答した割合は、男性（29.5%）が女性（25.1%）より4.4%高く、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、女性（68.7%）が男性（63.4%）より5.3%高くなっています。

性別・年代別で見ると、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、女性・男性ともに「19・20歳～40歳代」で80%以上と高くなっており、特に女性の「19・20歳～30歳代」では90%以上となっています。また、「聞いたことはあるが、内容は知らない」と回答した割合は、女性・男性ともに年代が上がるにつれ高くなり、特に「70歳以上」では40%以上と高くなっています。



H27 と R2 の調査を比較すると、「聞いたことがない」と回答した割合は、R2（4.4%）が H27（5.2%）より 0.8%低くなっており、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、R2（66.3%）が H27（74.7%）より 8.4%低くなっています。

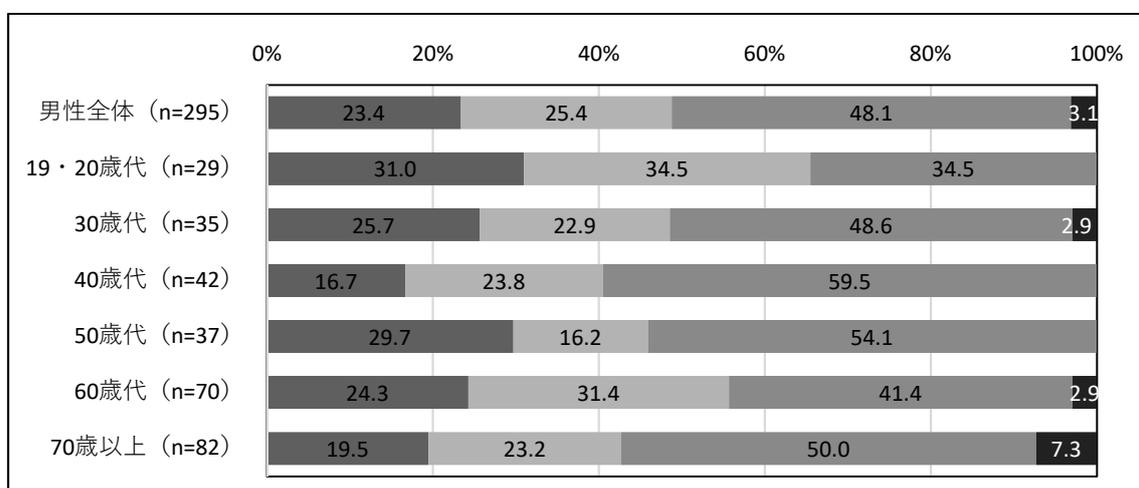
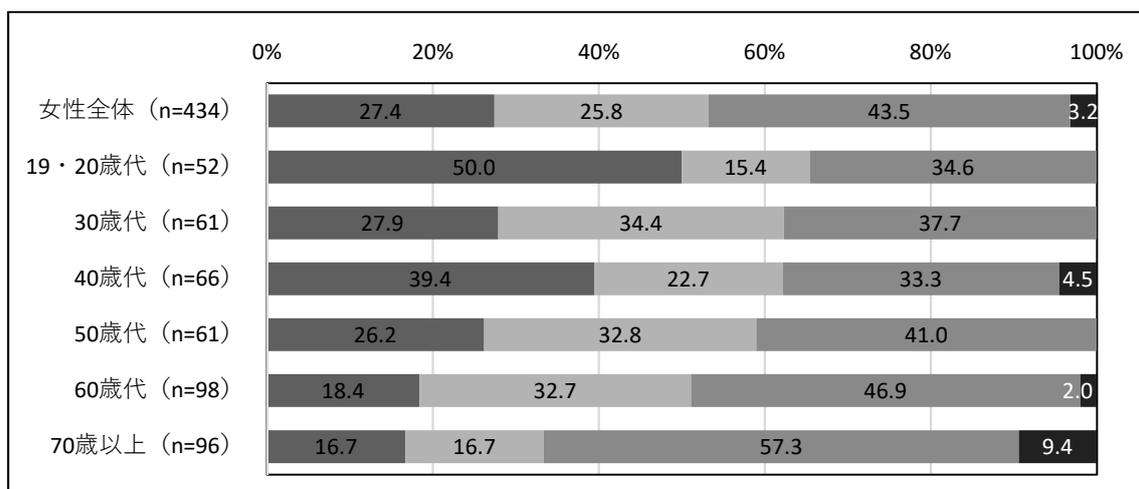
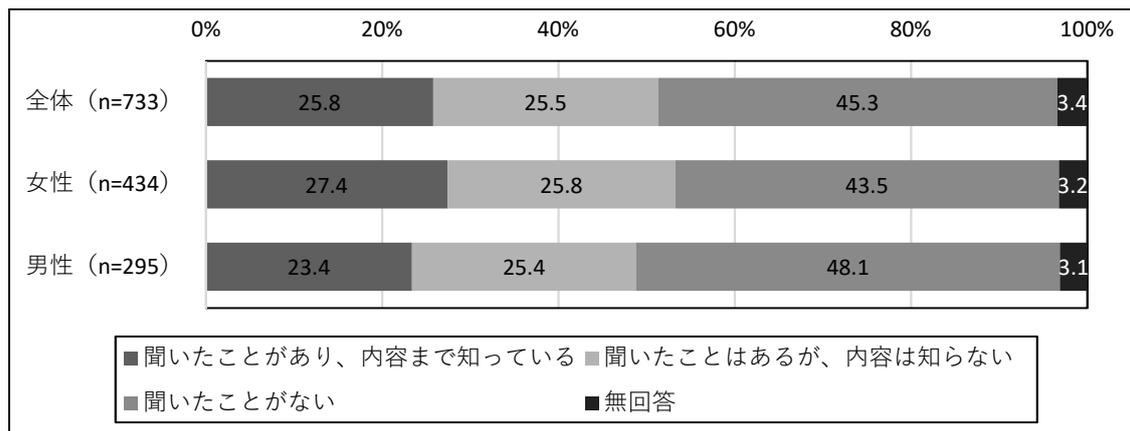


⑭デートDV

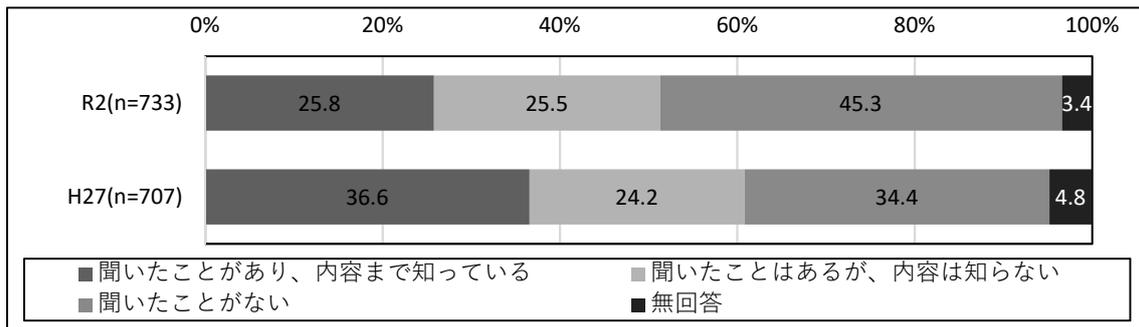
「聞いたことがない」が45.3%で最も高く、次いで「聞いたことがあり、内容まで知っている」25.8%、「聞いたことはあるが、内容は知らない」25.5%の順となっています。

性別で見ると、「聞いたことがない」と回答した割合は、男性（48.1%）が女性（43.5%）より4.6%高く、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、女性（27.4%）が男性（23.4%）より4.0%高くなっています。

性別・年代別で見ると、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、女性の「19・20歳代」、「40歳代」、男性の「19・20歳代」「50歳代」で高くなっています。また、「聞いたことがない」と回答した割合は、男性の「40歳代」で59.5%、女性の「70歳以上」で57.3%と高くなっています。



H27とR2の調査を比較すると、「聞いたことがない」と回答した割合は、R2（45.3%）がH27（34.4%）より10.9%高くなっており、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、R2（25.8%）がH27（36.6%）より10.8%低くなっています。

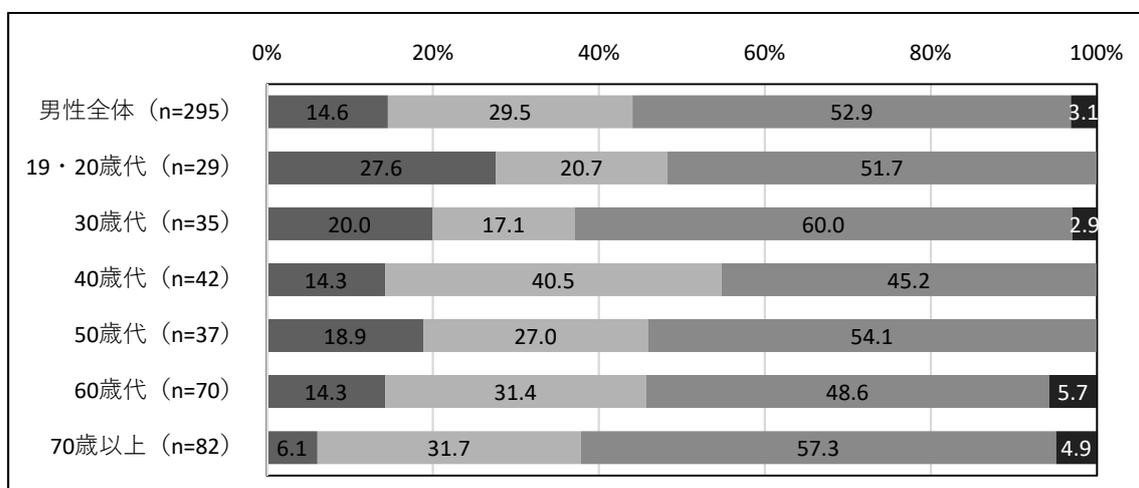
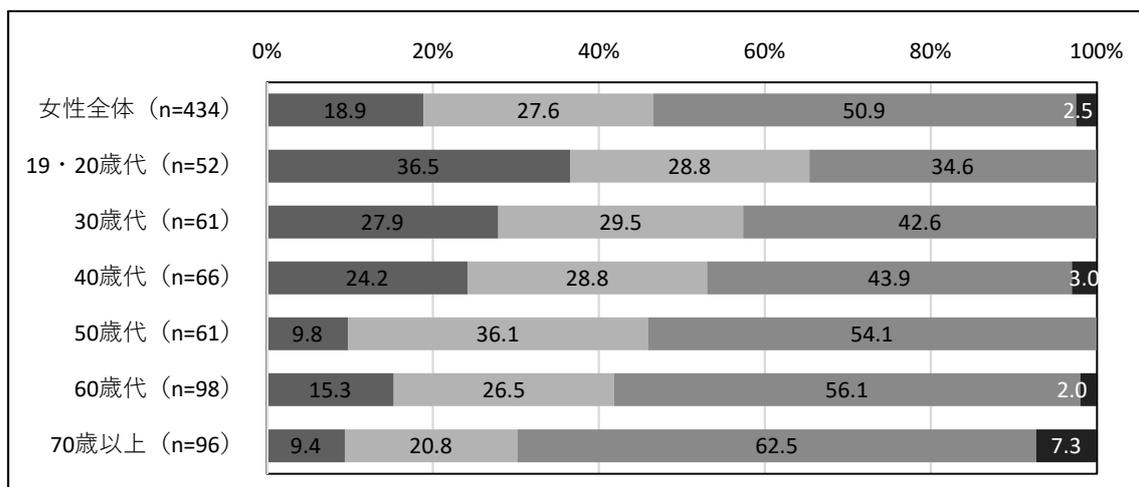
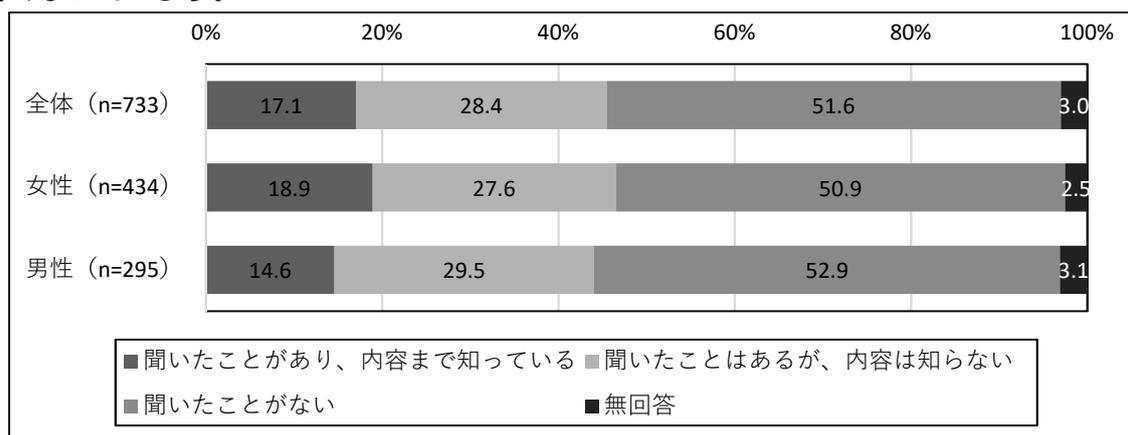


⑮ジェンダー平等 ※SDGs 第5の目標

「聞いたことがない」が51.6%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」28.4%、「聞いたことがあり、内容まで知っている」17.1%の順となっています。

性別で見ると、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、女性（18.9%）が男性（14.6%）より4.3%高くなっています。

性別・年代別で見ると、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、女性の「19・20歳代」、男性の「19・20歳代」で25%以上と高くなっています。また、「聞いたことがない」と回答した割合は、女性の「70歳以上」、男性の「30歳代」で60%を超えて高くなっています。

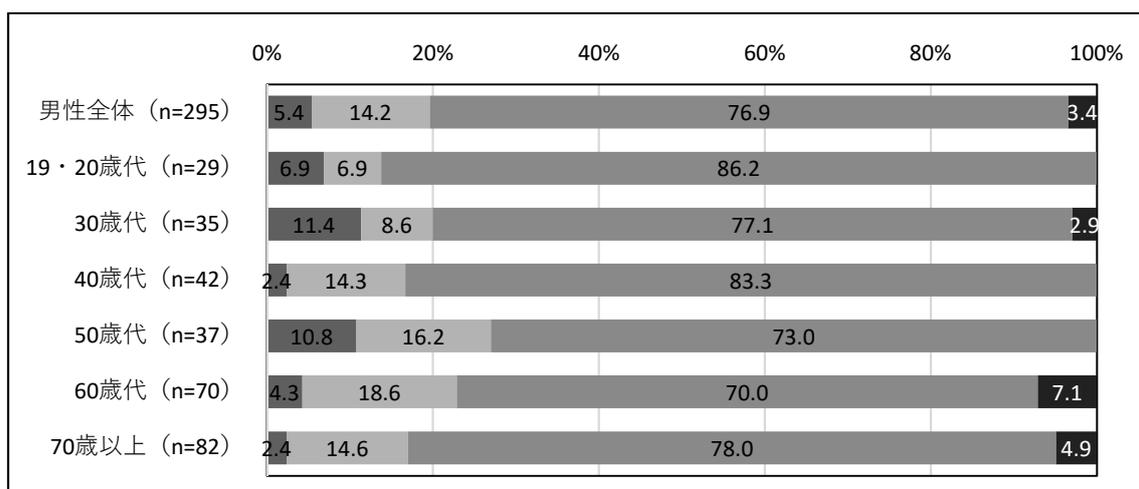
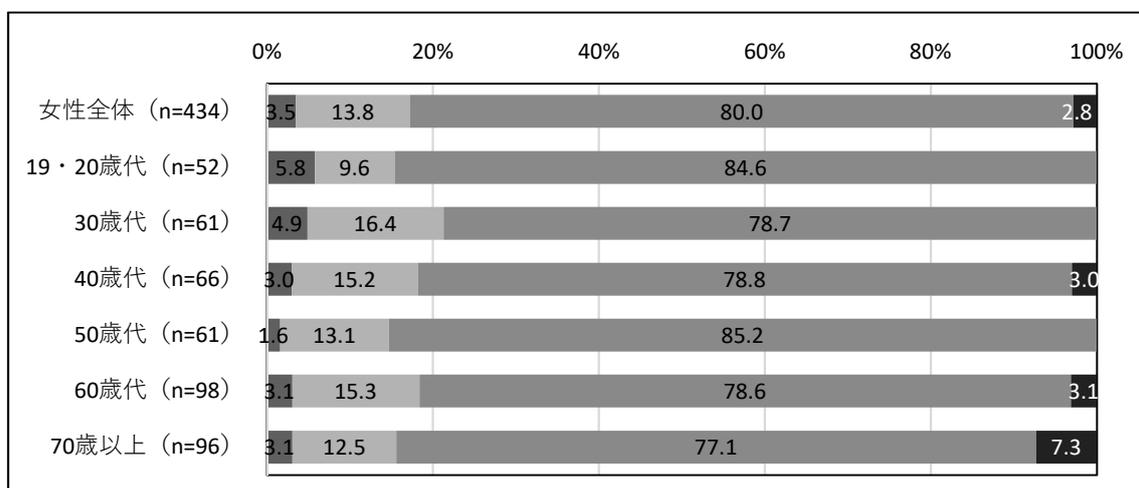
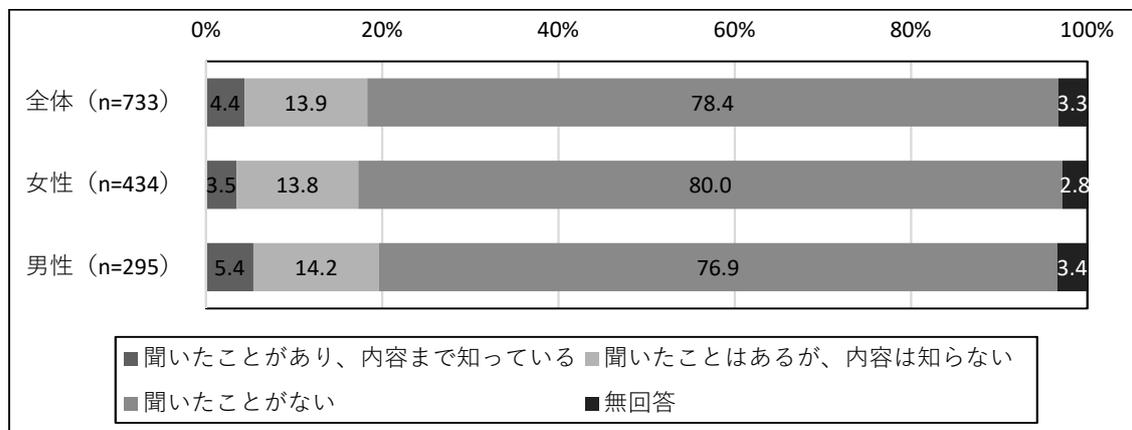


⑩アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）

「聞いたことがない」が78.4%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」13.9%、「聞いたことがあり、内容まで知っている」4.4%の順となっています。

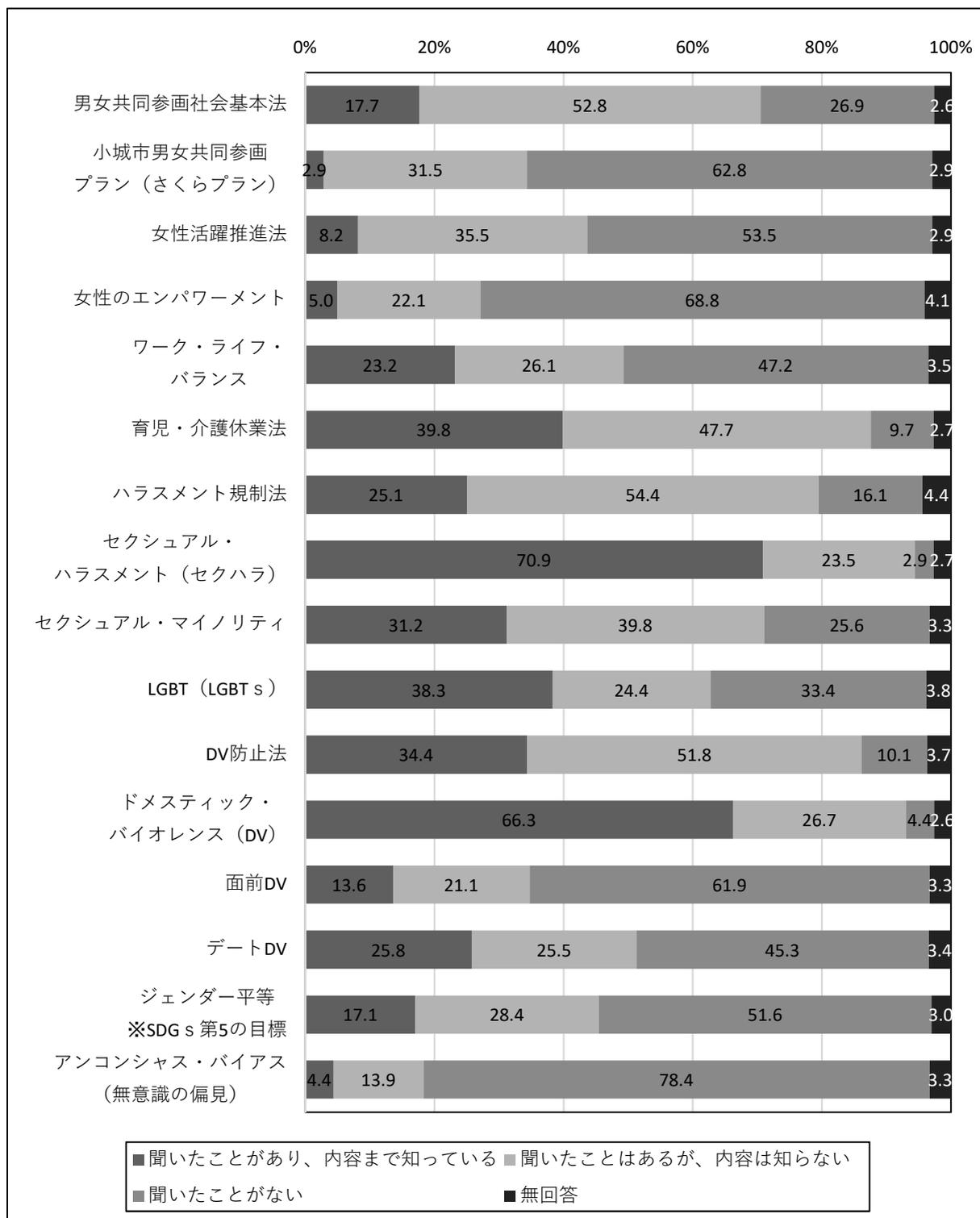
性別による大きな差異は見られません。

性別・年代別で見ると、「聞いたことがあり、内容まで知っている」と回答した割合は、男性の「30歳代」と「50歳代」で若干高くなっています。



男女共同参画に関する言葉の周知度では、「小城市男女共同参画プラン（さくらプラン）」「女性のエンパワーメント」「面前DV」「アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）」については、「聞いたことがない」と回答した割合が、60%を超えています。

一方、「セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）」「ドメスティック・バイオレンス（DV）」については、『聞いたことがある』（「聞いたことがあり、内容まで知っている」+「聞いたことはあるが、内容は知らない」）と回答した割合が、90%を超えています。



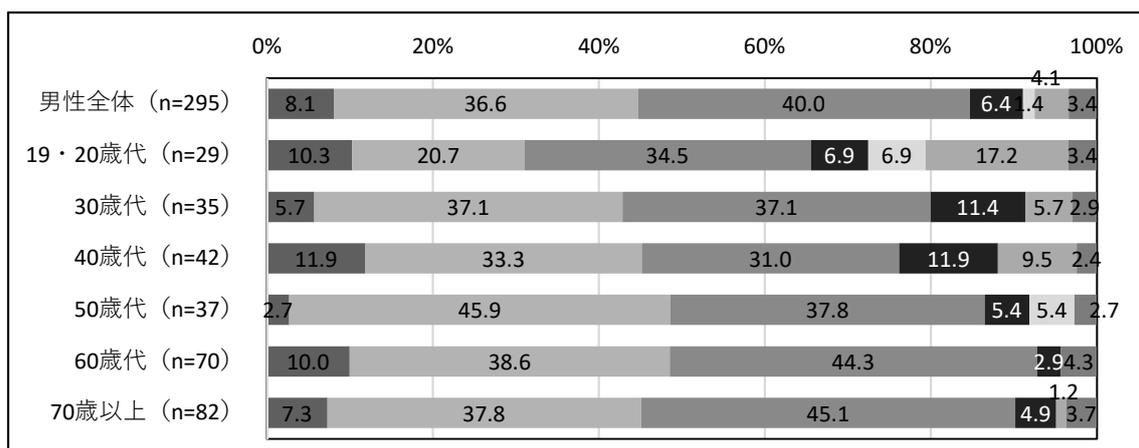
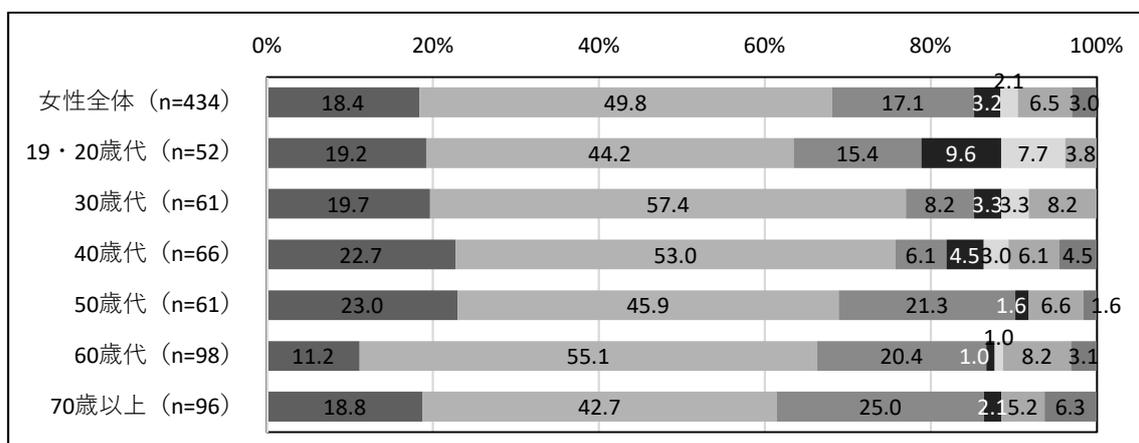
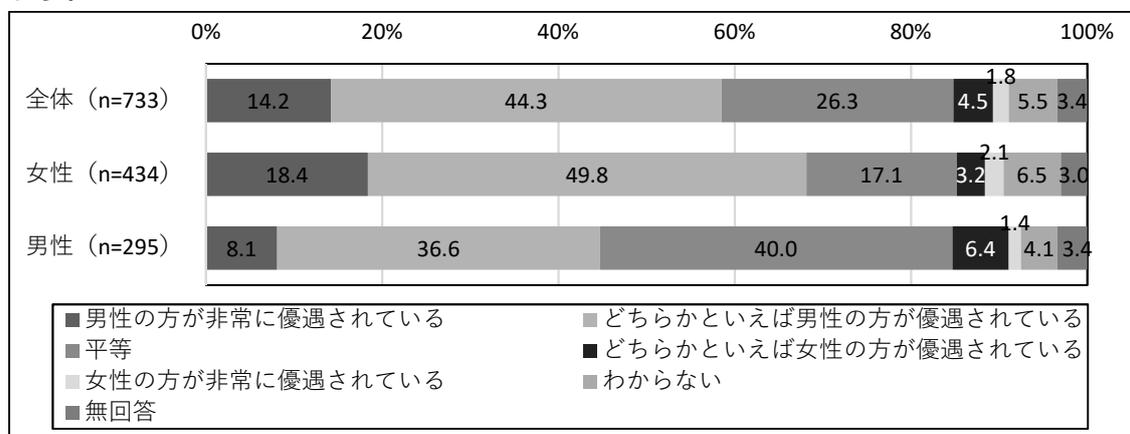
(22) 次にあげる分野で、男女は平等だと思いますか。

① 家庭生活

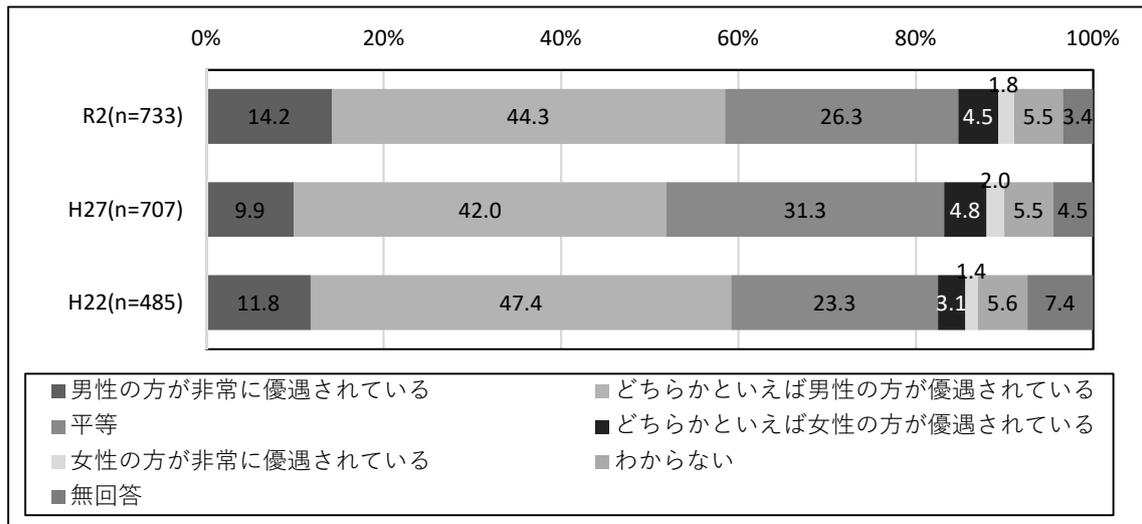
『男性の方が優遇されている』（「男性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）58.5%、「平等」26.3%、『女性の方が優遇されている』（「女性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば女性の方が優遇されている」）6.3%となっています。

性別で見ると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、女性(68.2%)が男性(44.7%)より23.5%高く、「平等」と回答した割合は、男性(40.0%)が女性(17.1%)より22.9%高くなっています。

性別・年代別で見ると、『男性が優遇されている』と回答した割合は、女性・男性ともに「19・20歳代」が他の年代に比べて低くなっています。「平等」と回答した割合は、女性の「40歳代」(6.1%)が、男性の「40歳代」(31.0%)より24.9%低く、平等感に対する開きがあります。



H27とR2の調査を比較すると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、R2(58.5%)がH27(51.9%)より6.6%高くなり、「平等」と回答した割合は、R2(26.3%)がH27(31.3%)より5.0%低くなっています。

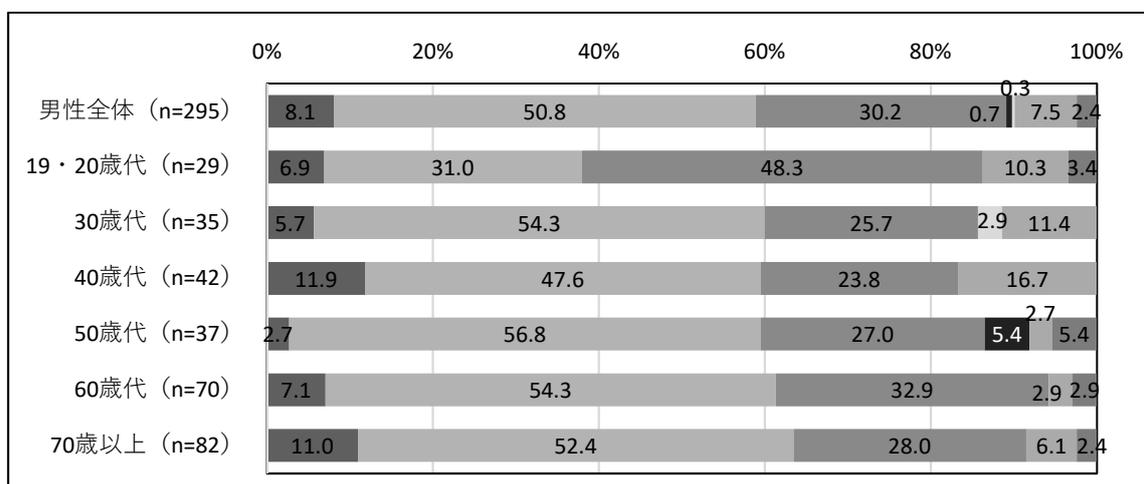
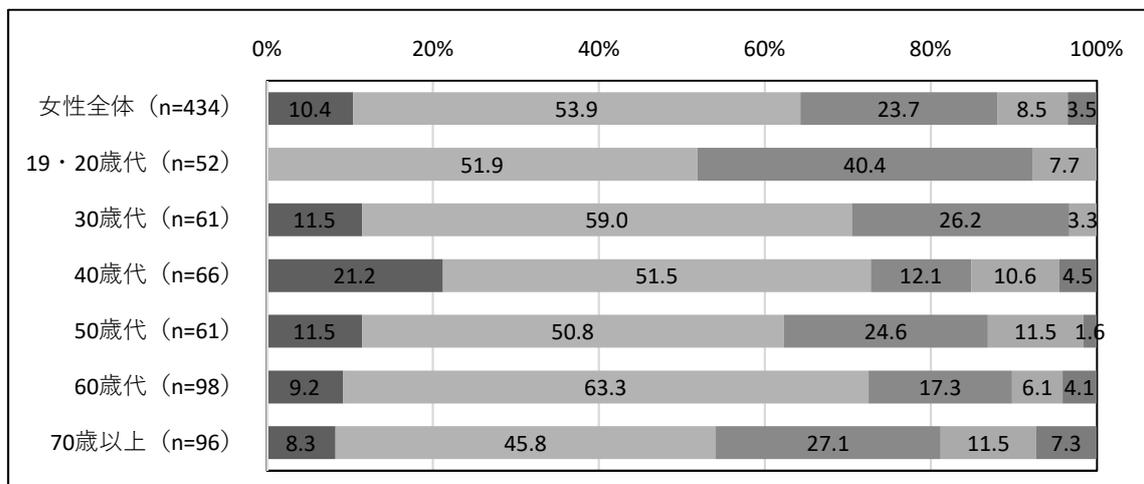
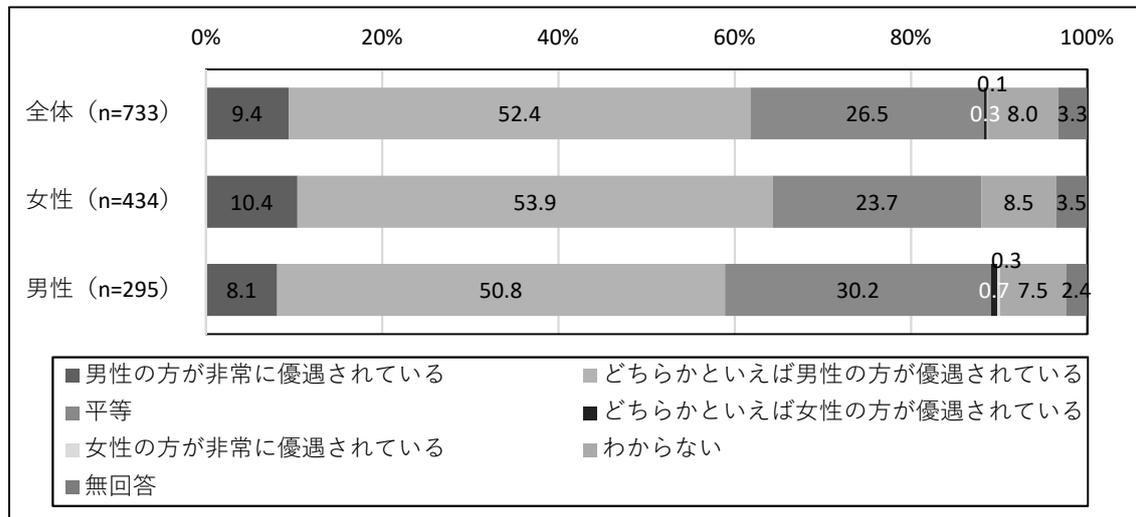


②就職・採用

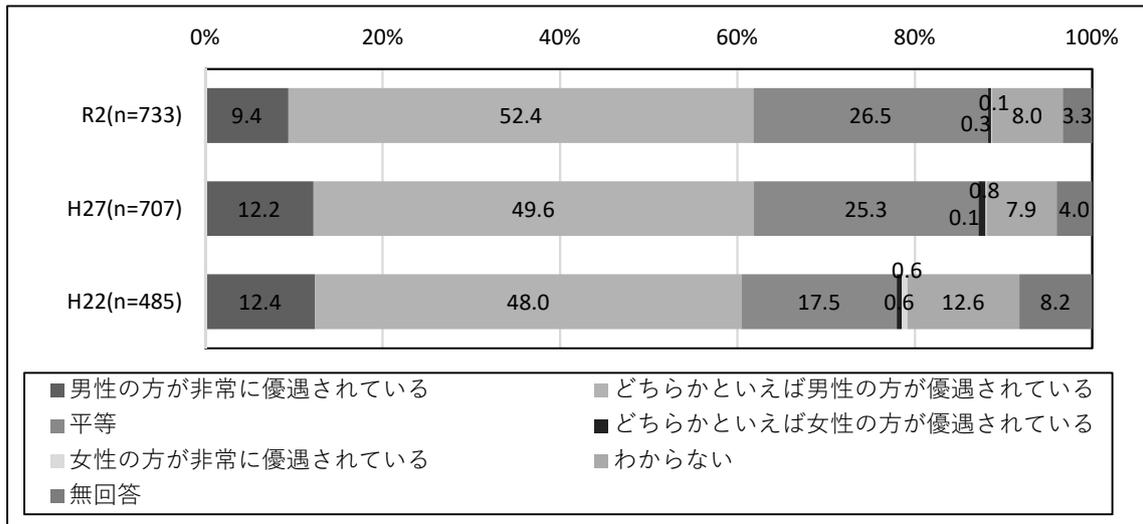
『男性の方が優遇されている』61.8%、「平等」26.5%、『女性の方が優遇されている』0.4%となっています。

性別で見ると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、女性(64.3%)が男性(58.9%)より5.4%高く、「平等」と回答した割合は、男性(30.2%)が女性(23.7%)より6.5%高くなっています。

性別・年代別で見ると、「平等」と回答した割合は、女性・男性ともに「19・20歳代」で他の年代に比べて高くなっています。また、「平等」と回答した割合は、女性の「60歳代」(17.3%)が男性の「60歳代」(32.9%)より15.6%低く、平等感に対する開きがあります。



H27 と R2 の調査を比較すると、『男性の方が優遇されている』、『平等』と回答した割合に大差はありません。

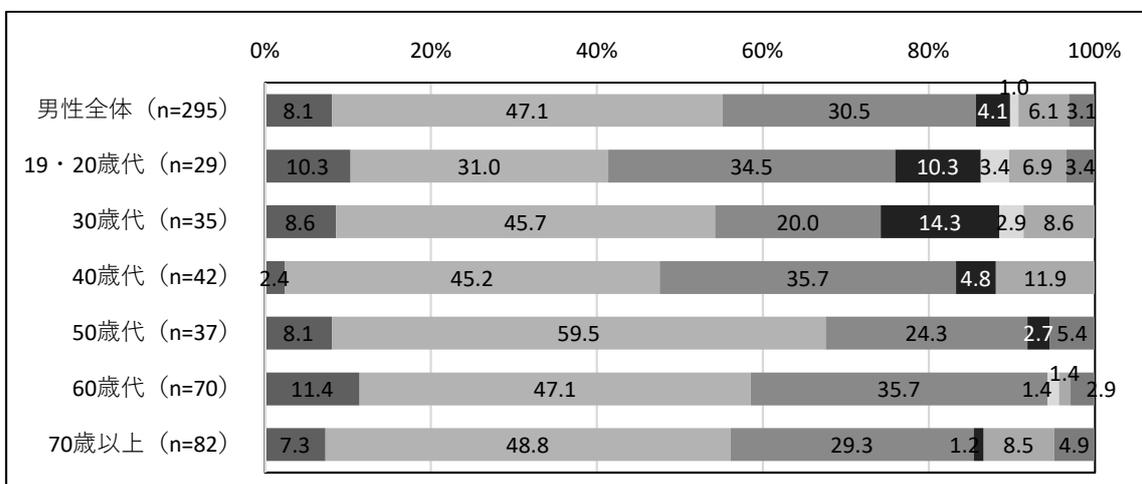
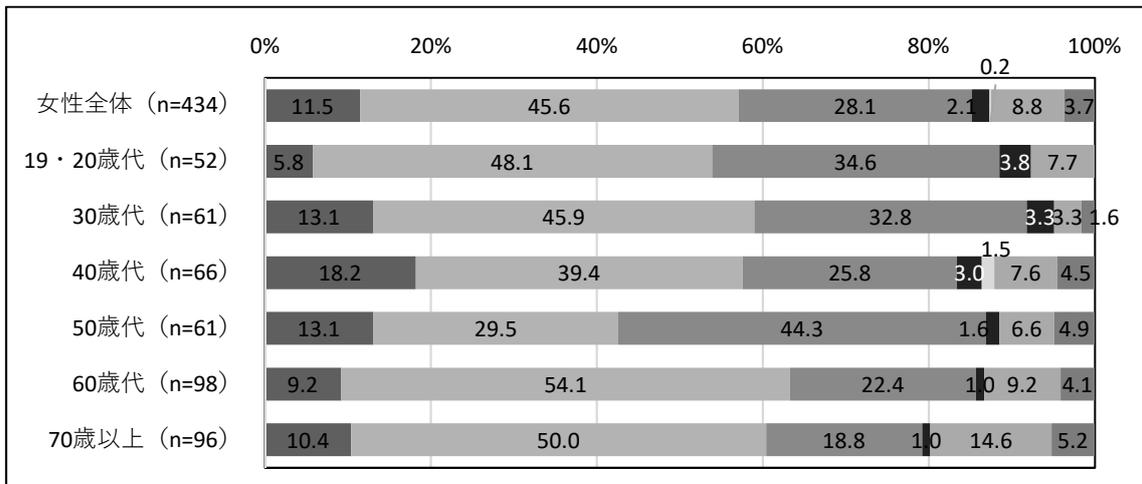
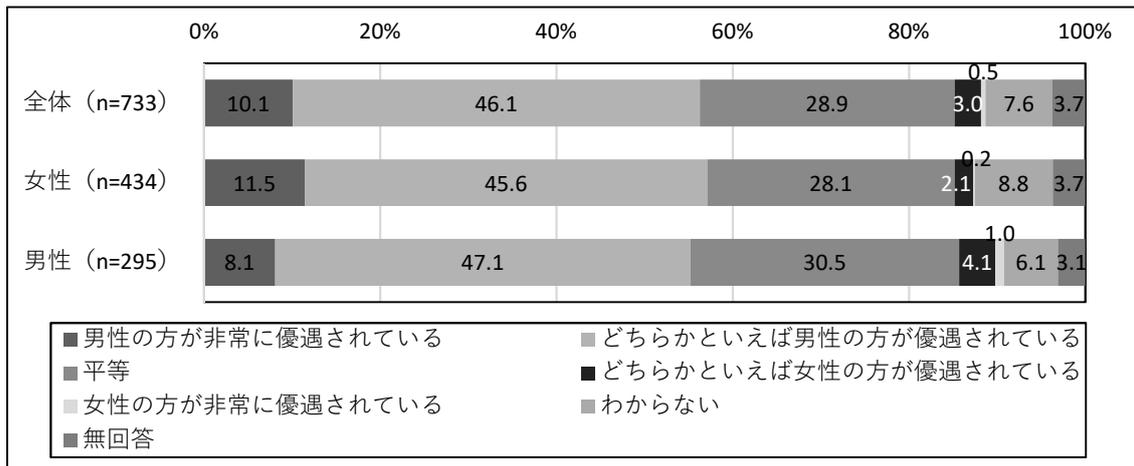


③職場

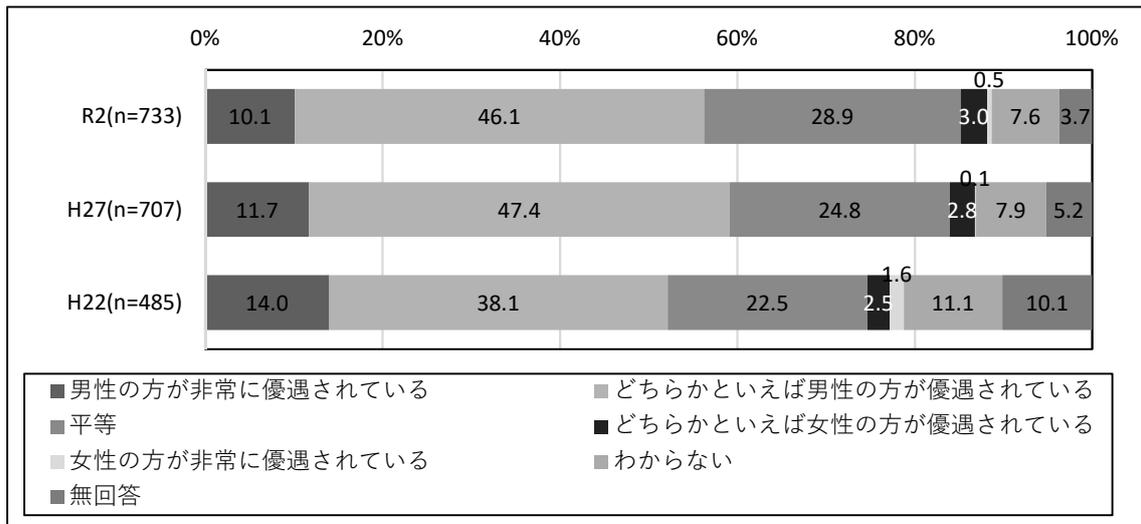
『男性の方が優遇されている』56.2%、「平等」28.9%、『女性の方が優遇されている』3.5%となっています。

性別で見ると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、女性(57.1%)が男性(55.2%)より1.9%高く、「平等」と回答した割合は、男性(30.5%)が女性(28.1%)より2.4%高くなっています。

性別・年代別で見ると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、女性の「60歳代」、男性の「50歳代」で高くなっています。また、「平等」と回答した割合は、女性の「50歳代」で44.3%と高くなっています。



H27とR2の調査を比較すると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、R2(56.2%)よりH27(59.1%)が2.9%低くなっており、「平等」と回答した割合は、R2(28.9%)がH27(24.8%)より4.1%高くなっています。

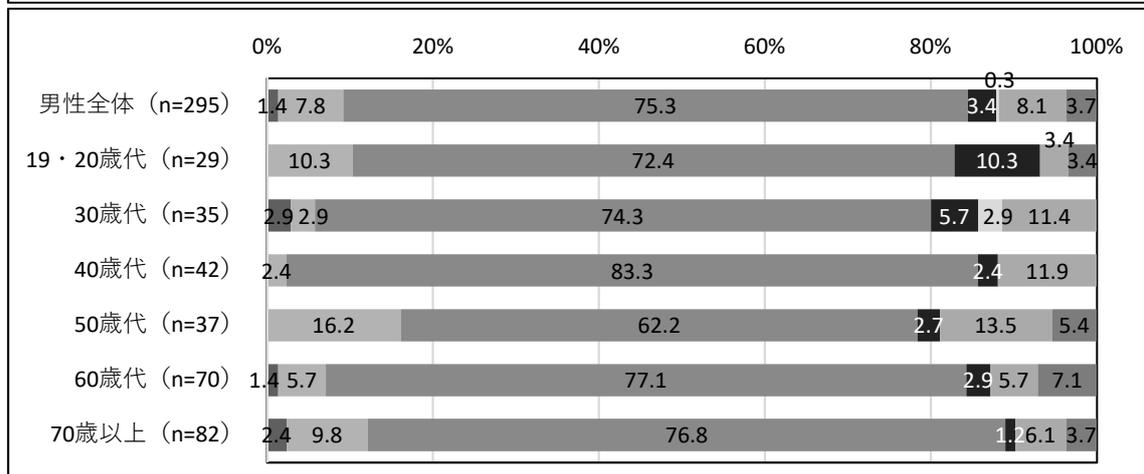
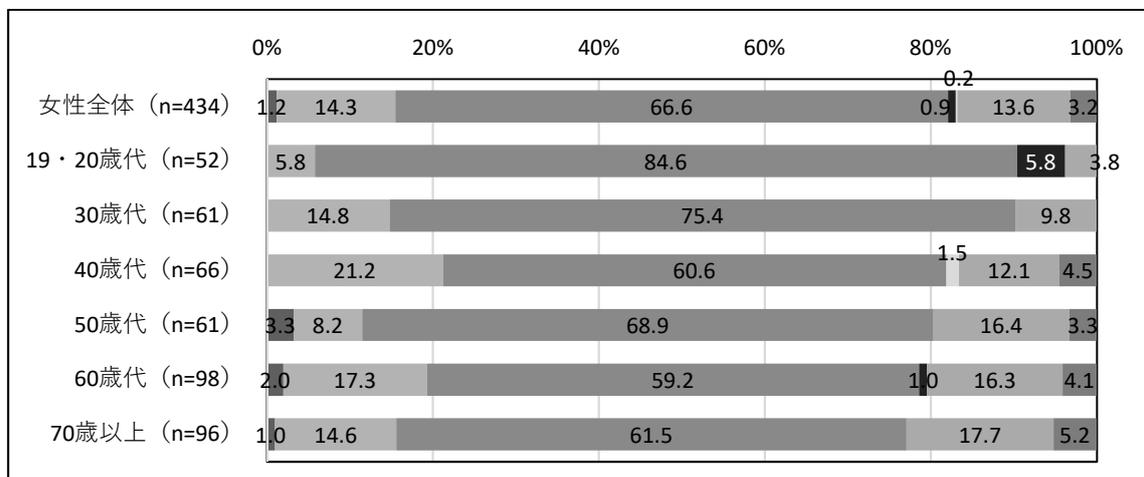
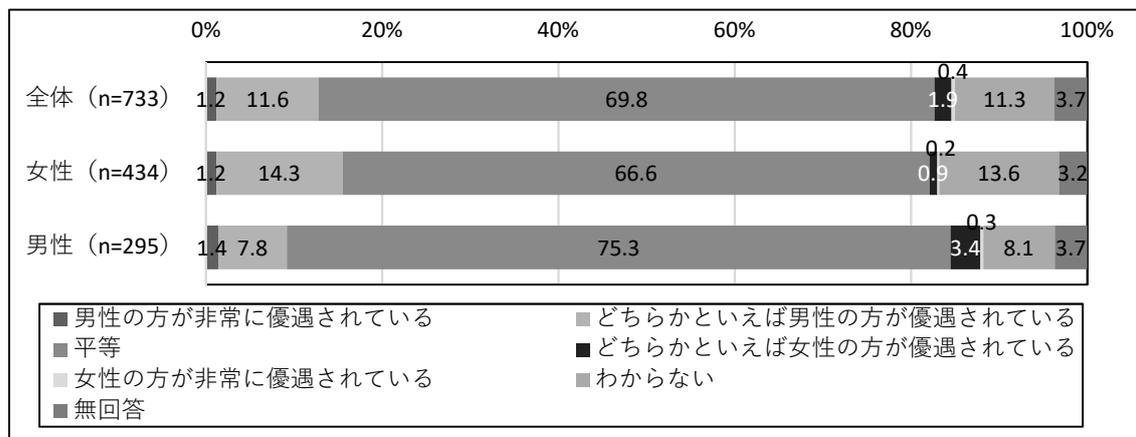


④学校教育の場

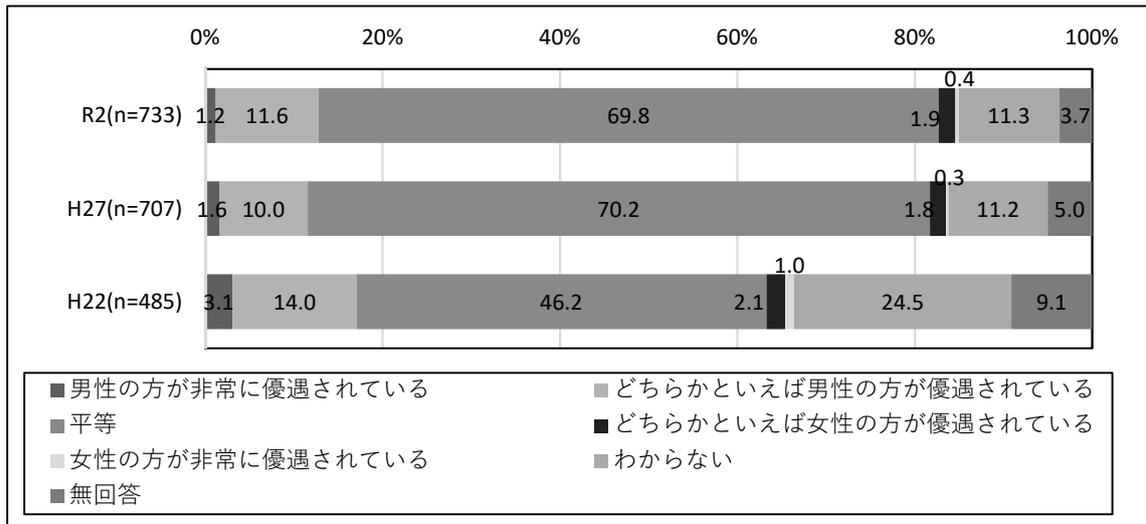
「平等」69.8%、『男性の方が優遇されている』12.8%、『女性の方が優遇されている』2.3%となっています。

性別で見ると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、女性（15.5%）が男性（9.2%）より6.3%高く、「平等」と回答した割合は、男性（75.3%）が女性（66.6%）より8.7%高くなっています。

性別・年代別で見ると、ほとんどの年代・性別で『男性の方が優遇されている』と回答した割合が、『女性が優遇されている』と回答した割合より高くなっていますが、女性・男性ともに「19・20歳代」では、『男性の方が優遇されている』と『女性の方が優遇されている』の回答した割合が同じになっています。また、男性の「30歳代」では、『男性の方が優遇されている』と回答した割合より『女性の方が優遇されている』と回答した割合の方が2.8%高くなっています。



H27 と R2 の調査を比較すると、『男性の方が優遇されている』、『平等』と回答した割合に大差はありません。

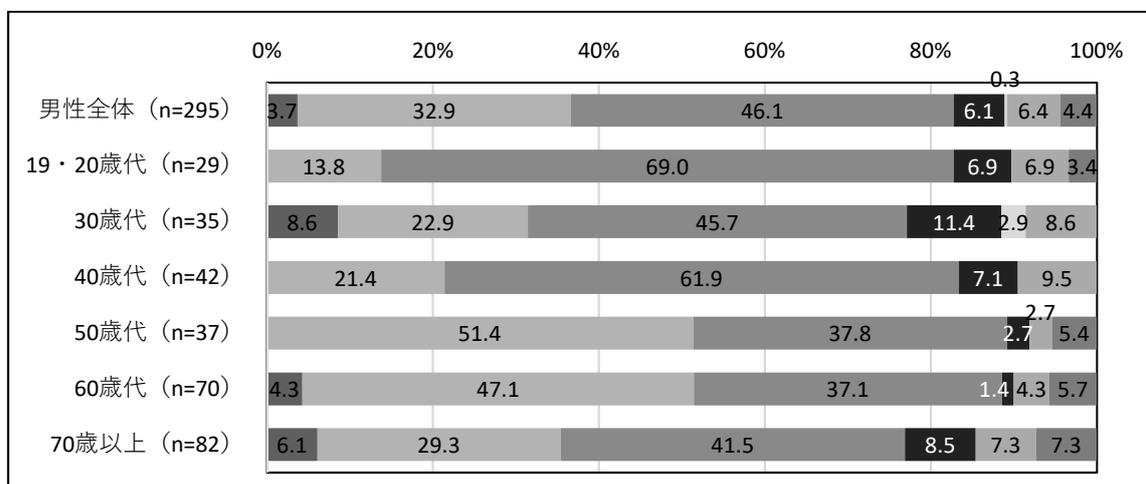
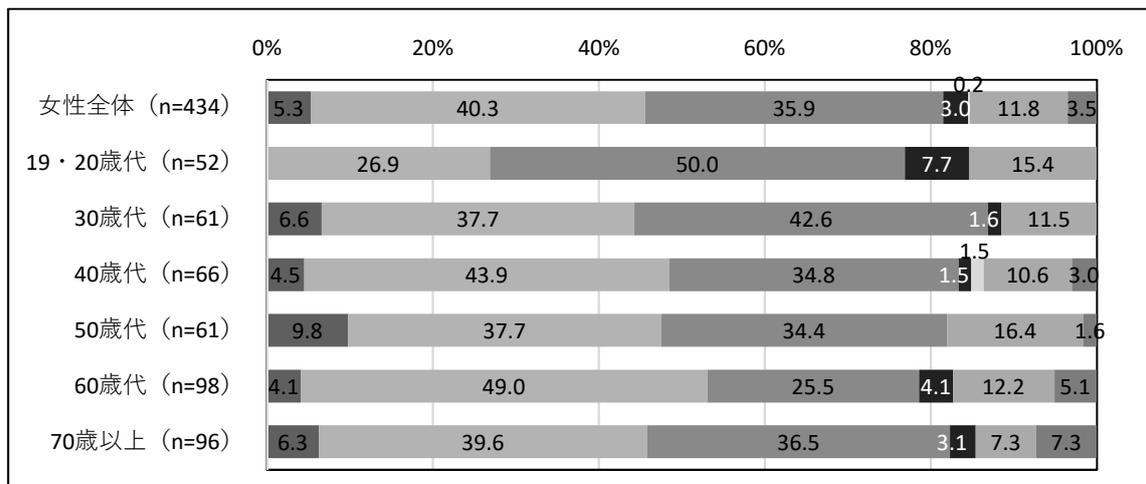
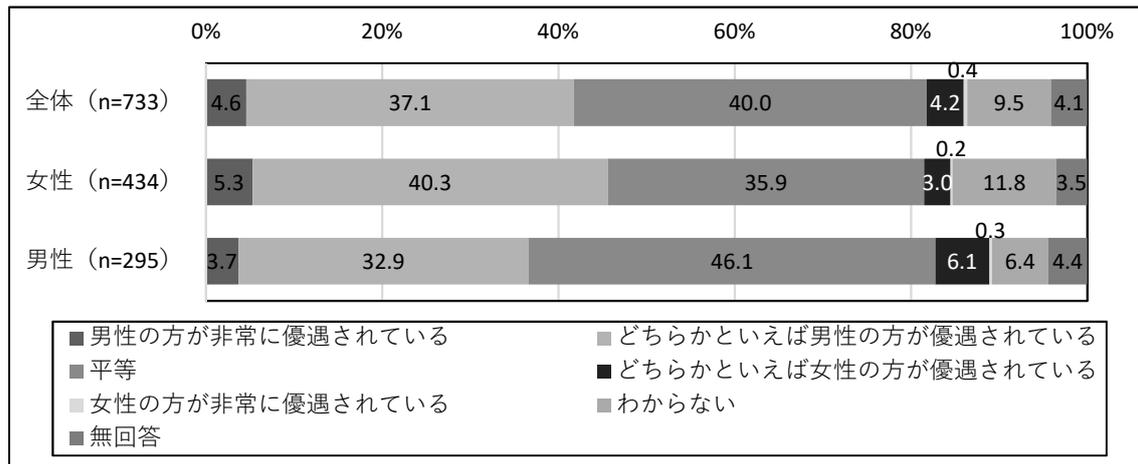


⑤地域や社会活動の場

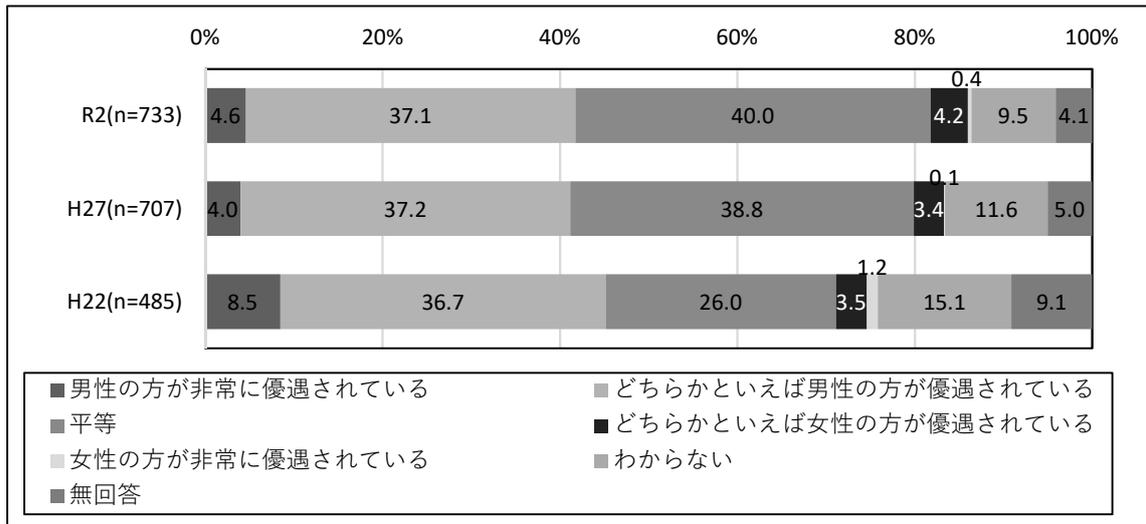
『男性の方が優遇されている』41.7%、「平等」40.0%、『女性の方が優遇されている』4.6%となっています。

性別で見ると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、女性(45.6%)が男性(36.6%)より9.0%高く、「平等」と回答した割合は、男性(46.1%)が女性(35.9%)より10.2%高くなっています。

性別・年代別で見ると、「平等」と回答した割合は、女性・男性ともに「19・20歳代」で高くなっています。また、『女性の方が優遇されている』と回答した割合は、男性の「30歳代」、女性の「19・20歳代」で高くなっています。



H27 と R2 の調査を比較すると、『男性の方が優遇されている』、『平等』と回答した割合に大差はありません。

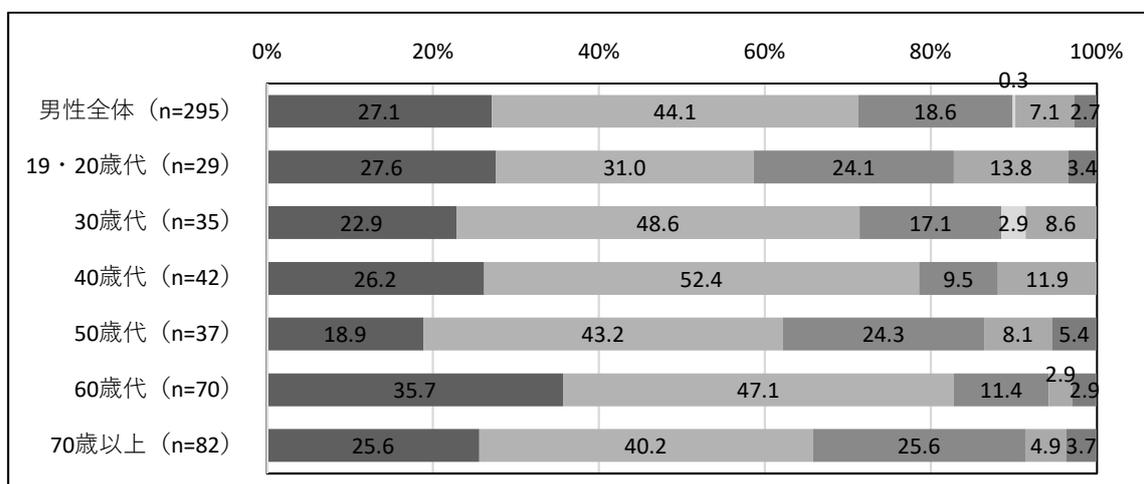
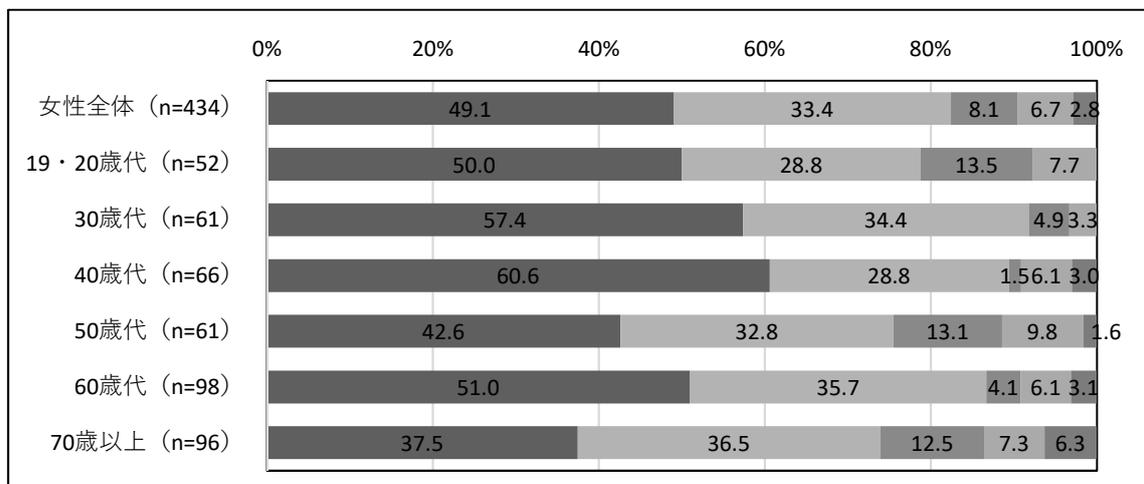
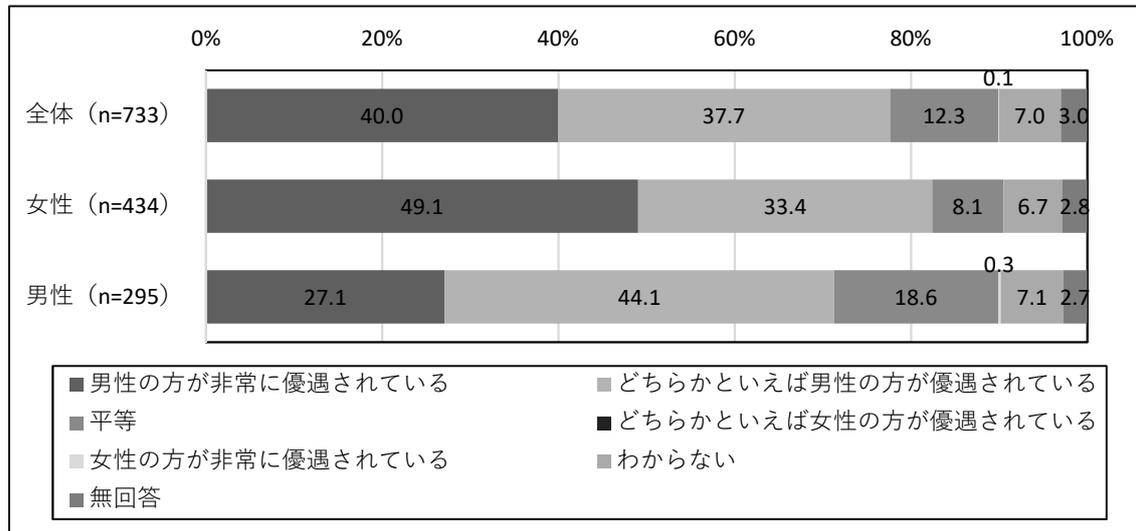


⑥政治の場

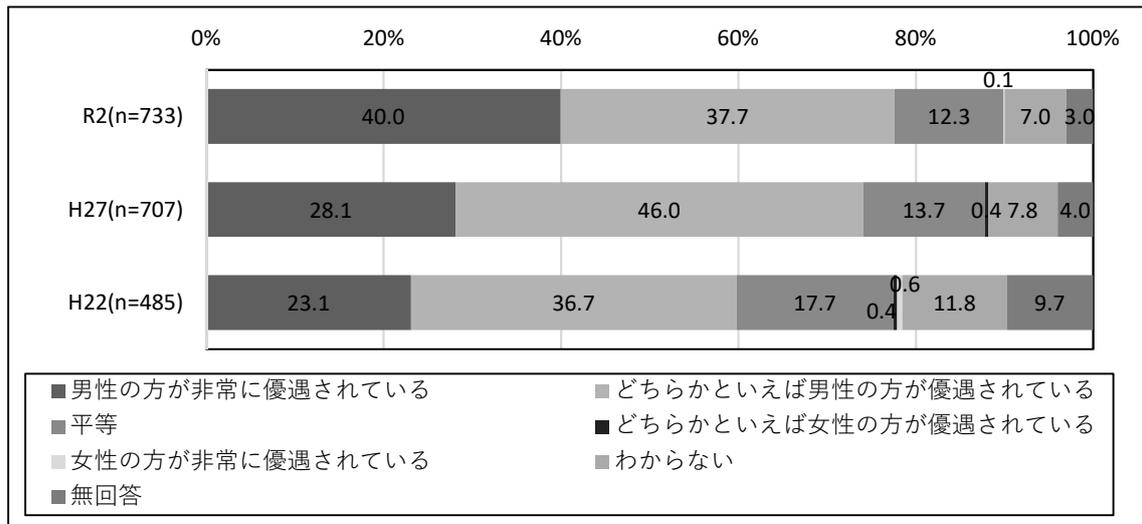
『男性の方が優遇されている』77.7%、「平等」12.3%、『女性の方が優遇されている』0.1%となっています。

性別で見ると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、女性(82.5%)が男性(71.2%)より11.3%高く、「平等」と回答した割合は、男性(18.6%)が女性(8.1%)より10.5%高くなっています。

性別・年代別で見ると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、女性・男性ともに「30歳～40歳代」「60歳代」で高くなっています。



H27 と R2 の調査を比較すると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、大差ないが
 その中でも「男性の方が非常に優遇されている」と回答した割合は、R2(40.0%)がH27(28.1%)
 より 11.9%高くなっています。

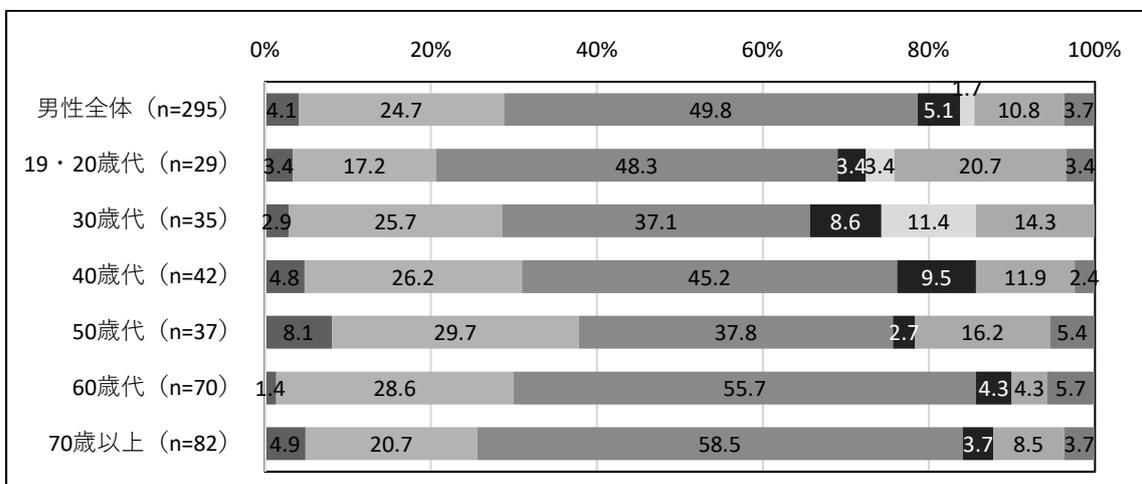
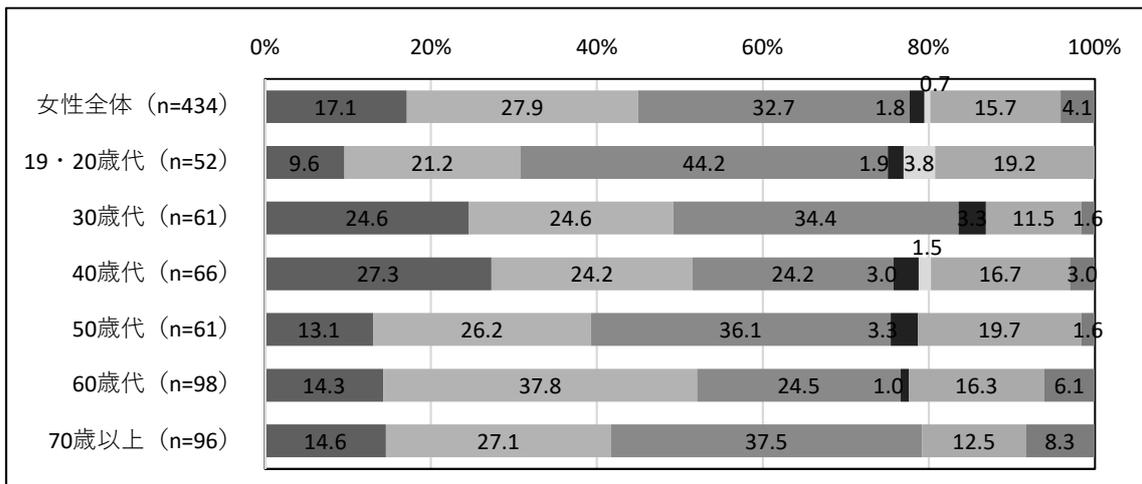
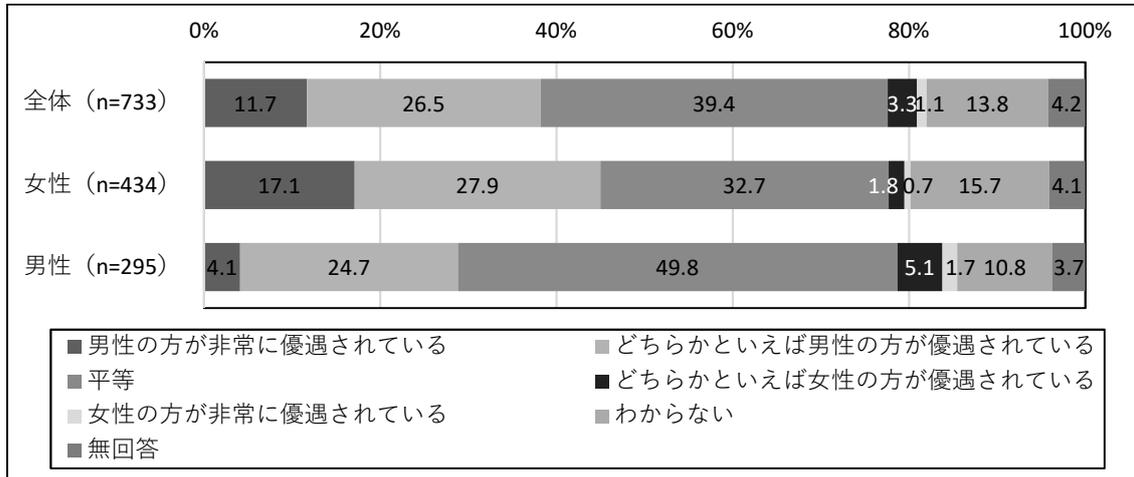


⑦法律・制度上

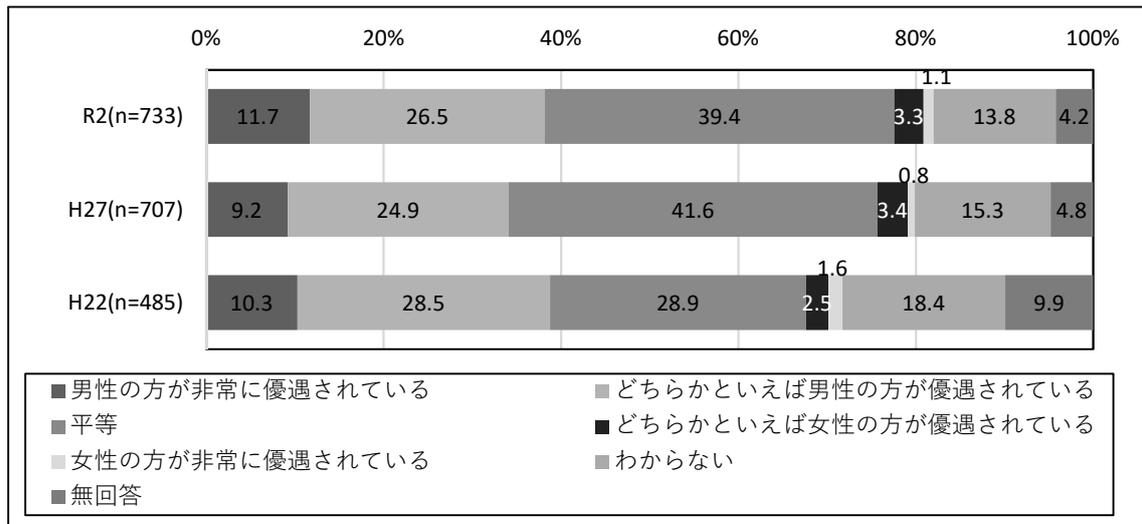
「平等」39.4%、『男性の方が優遇されている』38.2%、『女性の方が優遇されている』4.4%となっています。

性別で見ると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、女性(45.0%)が男性(28.8%)より16.2%高く、「平等」と回答した割合は、男性(49.8%)が女性(32.7%)より17.1%高くなっています。

性別・年代別で見ると、「平等」と回答した割合は、男性の「70歳以上」、女性の「19・20歳代」で高くなっています。



H27とR2の調査を比較すると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、R2(38.2%)がH27(34.1%)より4.1%高くなっており、「平等」と回答した割合は、R2(39.4%)がH27(41.6%)より2.2%低くなっています。

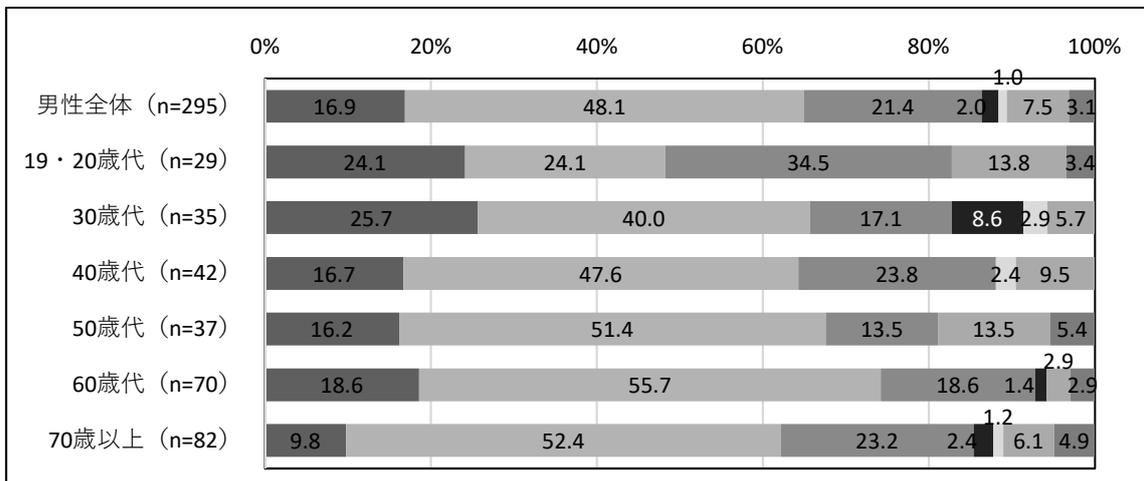
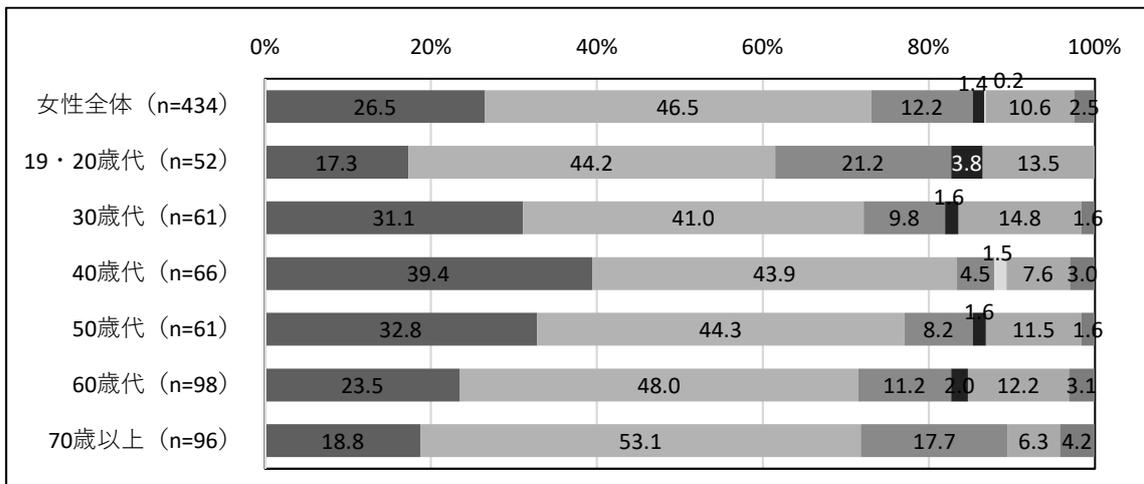
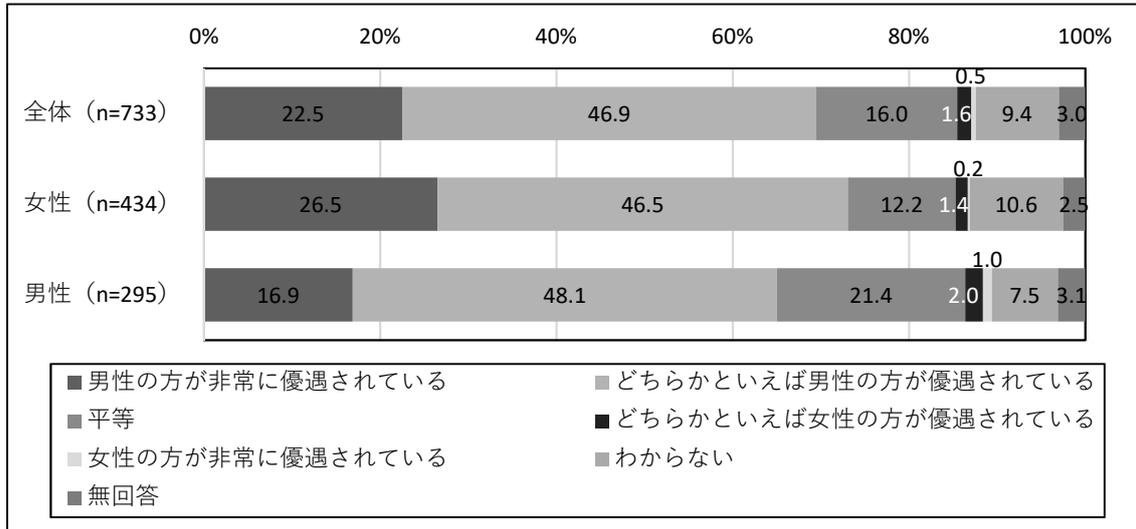


⑧慣習・しきたり

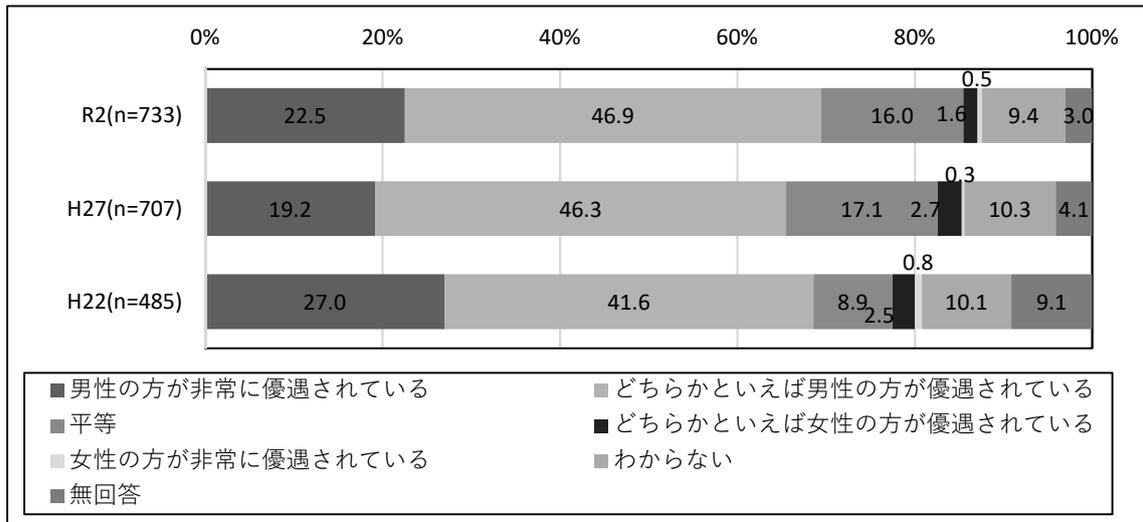
『男性の方が優遇されている』69.4%、「平等」16.0%、『女性の方が優遇されている』2.1%となっています。

性別で見ると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、女性(73.0%)が男性(65.0%)より8.0%高く、「平等」と回答した割合は、男性(21.4%)が女性(12.2%)より9.2%高くなっています。

性別・年代別で見ると、「平等」と回答した割合は、女性・男性ともに「19・20歳代」で最も高くなっており、女性の「40歳代」、男性の「50歳代」で低くなっています。



H27とR2の調査を比較すると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、R2(69.4%)がH27(65.5%)より3.9%高くなっています。

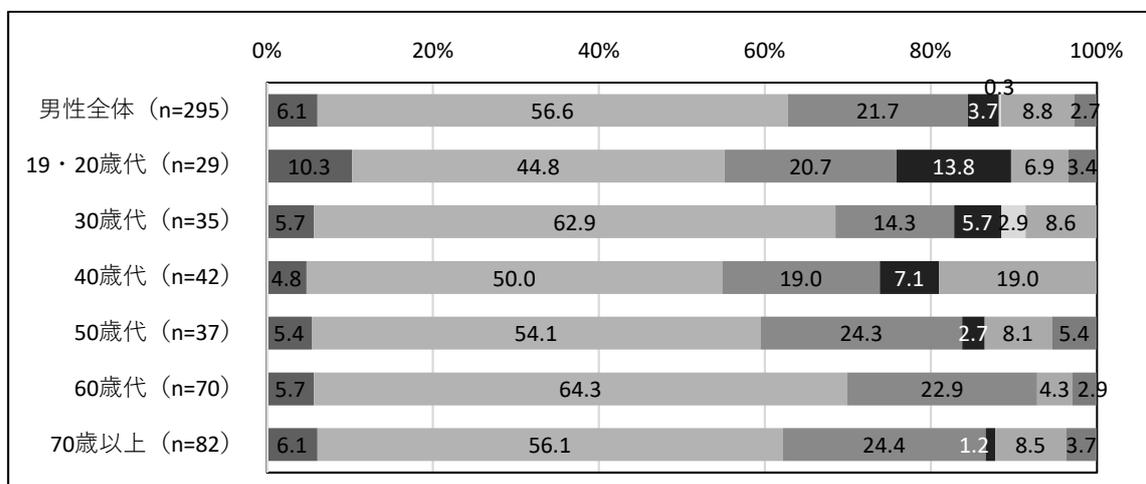
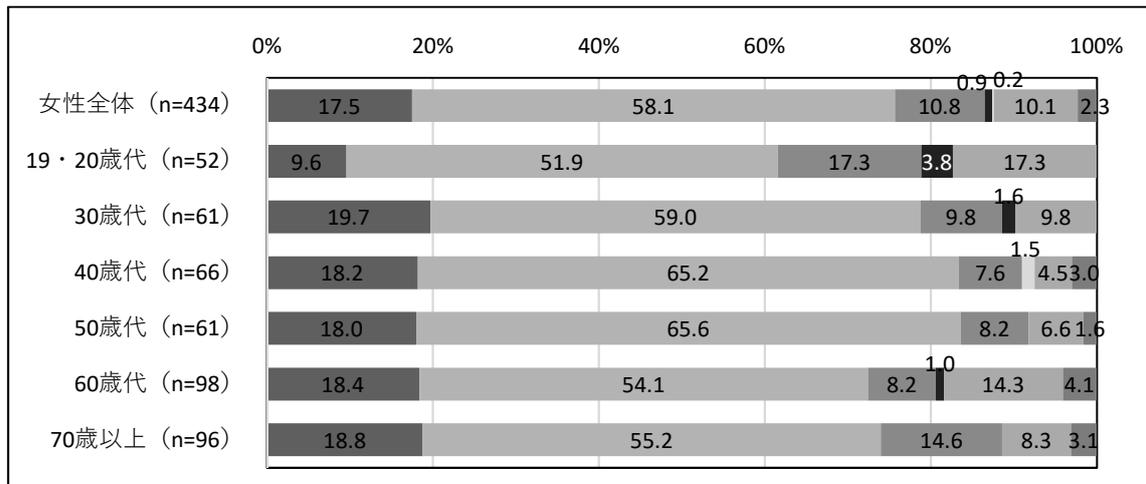
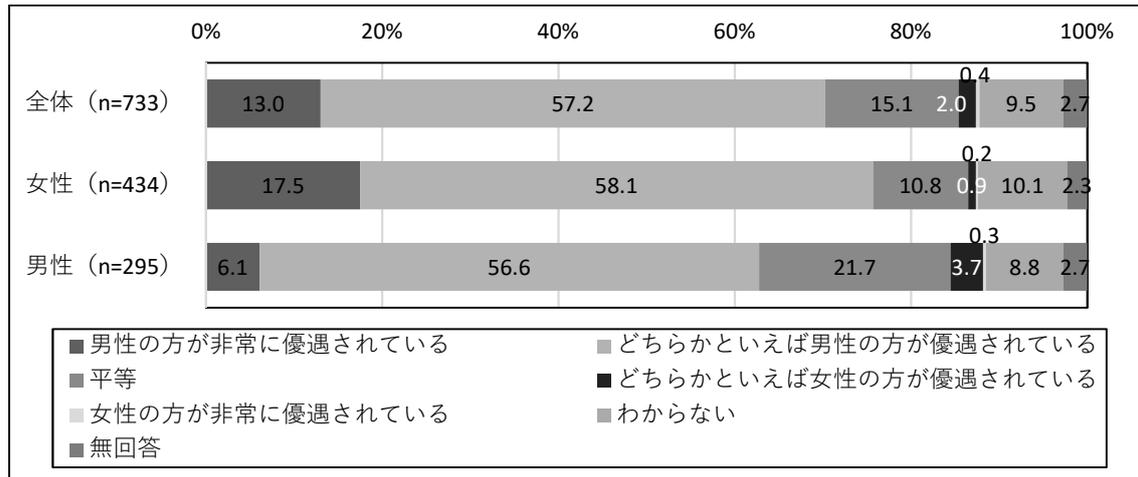


⑨社会全体

『男性の方が優遇されている』70.2%、「平等」15.1%、『女性の方が優遇されている』2.4%となっています。

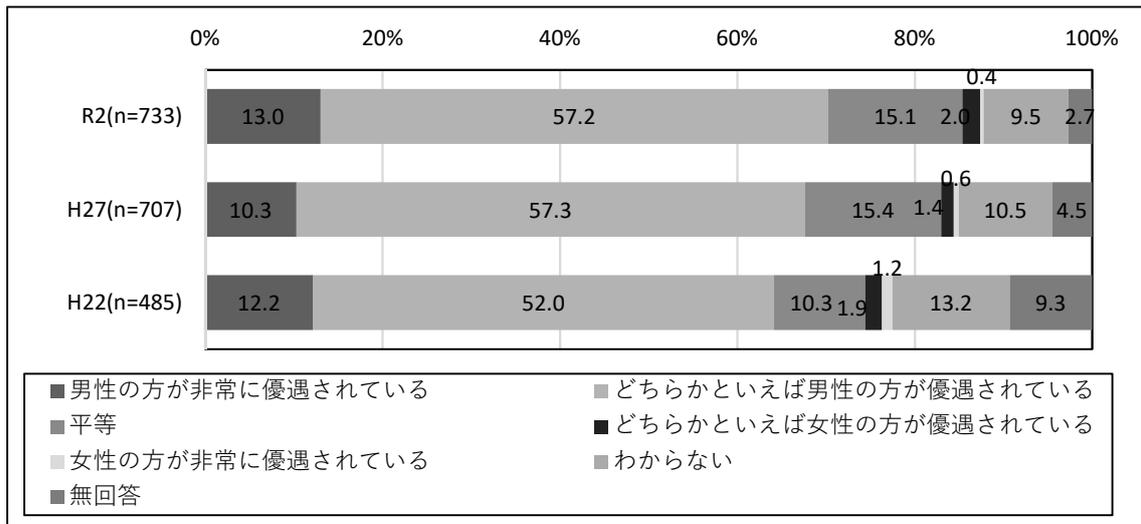
性別で見ると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、女性(75.6%)が男性(62.7%)より12.9%高く、「平等」と回答した割合は、男性(21.7%)が女性(10.8%)より10.9%高くなっています。

性別・年代別で見ると、「平等」と回答した割合は、女性の「19・20歳代」、男性の「50歳～70歳以上」で高くなっています。また、女性の「50歳代」「70歳以上」、男性の「60歳代」では、『女性の方が優遇されている』と回答した人はいません。



H22 と H27、R2 の調査を比較すると、『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、H22 (64.2%)、H27 (67.6%)、R2 (70.2%) と少しずつ高くなってきています。

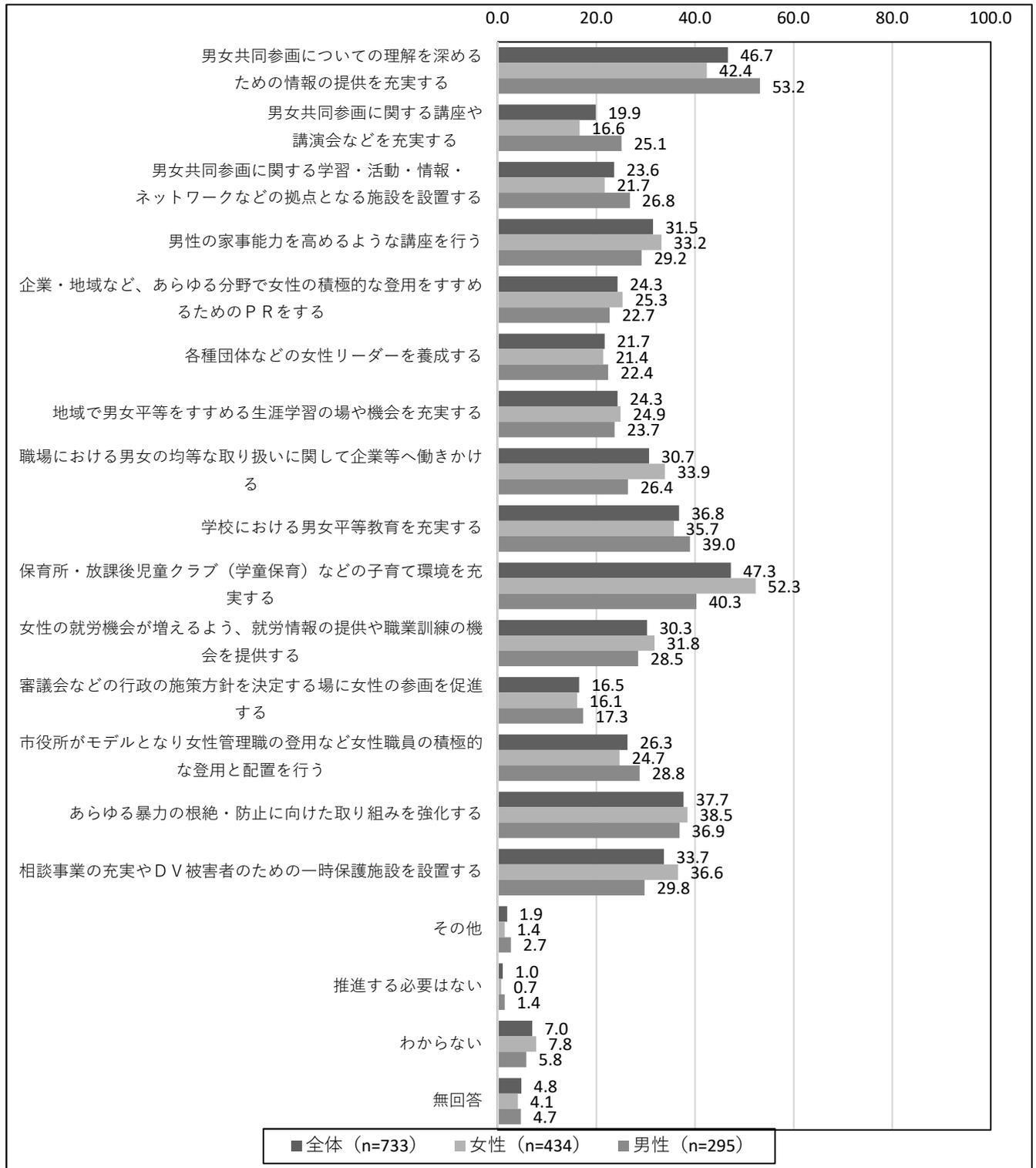
H27 と R2 の調査を比較すると、「平等」と回答した割合に大差はありません。



(23) 男女共同参画社会を進めるために、小城市では、今後どのようなことを推進した方がよいと思いますか。(複数回答)

「保育所・放課後児童クラブ（学童保育）などの子育て環境を充実する」が47.3%で最も高く、次いで「男女共同参画についての理解を深めるための情報の提供を充実する」46.7%、「あらゆる暴力の根絶・防止に向けた取り組みを強化する」37.7%の順となっています。

性別で見ると、女性では、「保育所・放課後児童クラブ（学童保育）などの子育て環境を充実する」、次いで「男女共同参画についての理解を深めるための情報の提供を充実する」の順となっていますが、男性では「男女共同参画についての理解を深めるための情報の提供を充実する」に次いで、「保育所・放課後児童クラブ（学童保育）などの子育て環境を充実する」の順となっています。



性別	年代	その他
女性	30 歳代	ワンオペ育児の減少のためになるようななにか…
女性	40 歳代	男女と言っていること自体に違和感覚えますが…やりたい人その能力がある人がするといいのではと思う
女性	40 歳代	講座や講演会に参加するのがハードルとなっている人もいると思うので参加型だけでなく全市民に向けた発信があるとよいと思う
女性	70 歳以上	一般的に世に出る事が少ない
男性	30 歳代	男女平等活動ではなく、女性優遇活動はしなくて良い。男性の声も耳を傾けて欲しい。
男性	30 歳代	高齢者に対する意識改革
男性	60 歳代	男女共同参画に関する問題の前に小城市に住んで良かったと思われる事案を充実する。(例：道路の整備、運動施設の整備、市内の施設利用の他の市町との差別化・市民の優遇等)
男性	60 歳代	政治の場で、まず女性の活躍してもらおう。
男性	60 歳代	市の単位ではなく、日本全体が男女共同参画を本気で推進しないと日本は変わらない。森本さんの発言が一部で問題視されているが、行政が問題視していないのが日本の問題。
男性	60 歳代	男女共同参画を意識する事自体、潜在的差別意識
男性	70 歳以上	個人個人の違いがある為、結局は考えを変えられない
男性	70 歳以上	個別家庭指導、問題家庭の把握、弱者の声の届く体制

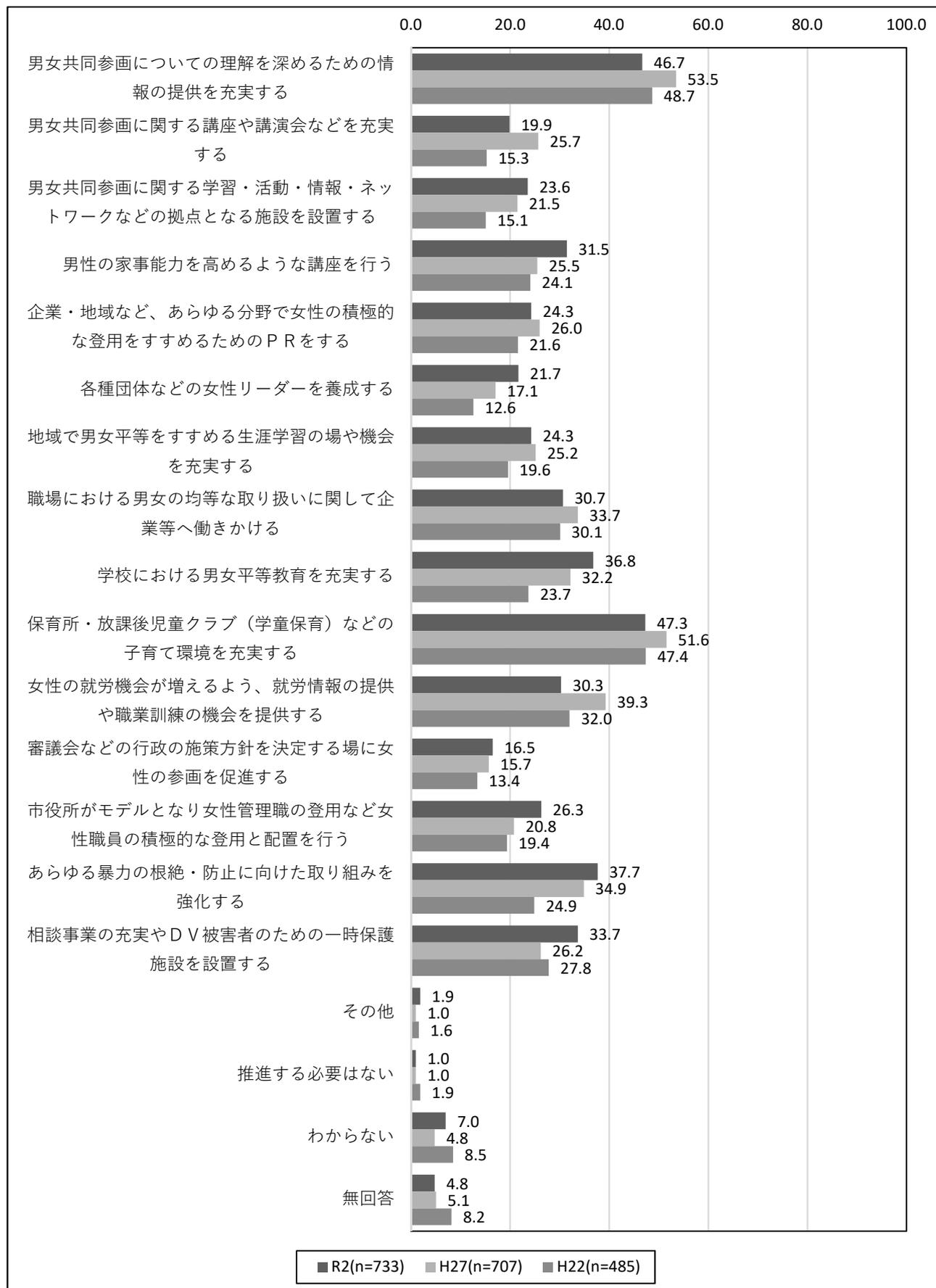
性別・年代別でみると、女性では、「保育所・放課後児童クラブ（学童保育）などの子育て環境を充実する」と回答した割合は、「19・20 歳～30 歳代」で高く、「男女共同参画についての理解を深めるための情報の提供を充実する」と回答した割合は、「40 歳～50 歳代」で高くなっています。

男性では、「男女共同参画についての理解を深めるための情報の提供を充実する」と回答した割合は、すべての年代で高くなっています。また、「学校における男女平等教育を充実する」と回答した割合は、男性の「50 歳以上」で高く、「あらゆる暴力の根絶・防止に向けた取り組みを強化する」と回答した割合は、「19・20 歳～50 歳代」で高くなっています。

選択項目	女性全体 (n=434)	19・20歳代 (n=52)	30歳代 (n=61)	40歳代 (n=66)	50歳代 (n=61)	60歳代 (n=98)	70歳以上 (n=96)
男女共同参画についての理解を深めるための情報の提供を充実する	42.4	25.9	15.6	29.6	30.6	25.0	24.6
男女共同参画に関する講座や講演会などを充実する	16.6	8.6	2.1	9.3	10.2	14.9	10.1
男女共同参画に関する学習・活動・情報・ネットワークなどの拠点となる施設を設置する	21.7	14.8	11.5	12.0	11.2	15.5	11.7
男性の家事能力を高めるような講座を行う	33.2	22.2	20.8	16.7	21.4	23.8	15.1
企業・地域など、あらゆる分野で女性の積極的な登用をすすめるためのPRをする	25.3	13.6	17.7	20.4	16.3	11.3	14.0
各種団体などの女性リーダーを養成する	21.4	8.6	16.7	16.7	9.2	13.7	11.2
地域で男女平等をすすめる生涯学習の場や機会を充実する	24.9	14.8	10.4	16.7	17.3	17.9	11.7
職場における男女の均等な取り扱いに関して企業等へ働きかける	33.9	24.7	24.0	28.7	26.5	13.1	14.0
学校における男女平等教育を充実する	35.7	24.7	21.9	23.1	21.4	20.8	18.4
保育所・放課後児童クラブ（学童保育）などの子育て環境を充実する	52.3	37.0	41.7	31.5	26.5	31.5	24.6
女性の就労機会が増えるよう、就労情報の提供や職業訓練の機会を提供する	31.8	9.9	19.8	24.1	22.4	20.8	15.6
審議会などの行政の施策方針を決定する場に女性の参画を促進する	16.1	8.6	4.2	13.9	11.2	8.3	10.6
市役所がモデルとなり女性管理職の登用など女性職員の積極的な登用と配置を行う	24.7	13.6	20.8	19.4	9.2	14.3	12.3
あらゆる暴力の根絶・防止に向けた取り組みを強化する	38.5	24.7	28.1	26.9	19.4	22.0	19.6
相談事業の充実やDV被害者のための一時保護施設を設置する	36.6	24.7	33.3	27.8	18.4	17.9	16.2
その他	1.4	0.0	1.0	1.9	0.0	0.6	1.1
推進する必要はない	0.7	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.6
わからない	7.8	2.5	5.2	1.9	3.1	6.0	6.7
無回答	4.1	1.2	0.0	1.9	4.1	2.4	3.9

選択項目	男性全体 (n=295)	19・20歳代 (n=29)	30歳代 (n=35)	40歳代 (n=42)	50歳代 (n=37)	60歳代 (n=70)	70歳以上 (n=82)
男女共同参画についての理解を深めるための情報の提供を充実する	53.2	41.4	37.1	47.6	67.6	52.9	61.0
男女共同参画に関する講座や講演会などを充実する	25.1	10.3	5.7	14.3	21.6	28.6	42.7
男女共同参画に関する学習・活動・情報・ネットワークなどの拠点となる施設を設置する	26.8	17.2	14.3	28.6	40.5	32.9	23.2
男性の家事能力を高めるような講座を行う	29.2	24.1	34.3	42.9	27.0	27.1	24.4
企業・地域など、あらゆる分野で女性の積極的な登用をすすめるためのPRをする	22.7	17.2	17.1	33.3	18.9	17.1	28.0
各種団体などの女性リーダーを養成する	22.4	6.9	25.7	23.8	24.3	18.6	28.0
地域で男女平等をすすめる生涯学習の場や機会を充実する	23.7	17.2	14.3	19.0	37.8	22.9	26.8
職場における男女の均等な取り扱いに関して企業等へ働きかける	26.4	27.6	25.7	28.6	43.2	22.9	20.7
学校における男女平等教育を充実する	39.0	27.6	34.3	23.8	48.6	41.4	46.3
保育所・放課後児童クラブ（学童保育）などの子育て環境を充実する	40.3	31.0	51.4	35.7	45.9	34.3	43.9
女性の就労機会が増えるよう、就労情報の提供や職業訓練の機会を提供する	28.5	20.7	20.0	28.6	29.7	30.0	32.9
審議会などの行政の施策方針を決定する場に女性の参画を促進する	17.3	10.3	8.6	14.3	13.5	18.6	25.6
市役所がモデルとなり女性管理職の登用など女性職員の積極的な登用と配置を行う	28.8	20.7	28.6	33.3	24.3	37.1	24.4
あらゆる暴力の根絶・防止に向けた取り組みを強化する	36.9	31.0	40.0	42.9	45.9	30.0	36.6
相談事業の充実やDV被害者のための一時保護施設を設置する	29.8	20.7	31.4	33.3	43.2	24.3	29.3
その他	2.7	0.0	5.7	2.4	0.0	4.3	2.4
推進する必要はない	1.4	0.0	2.9	0.0	2.7	1.4	1.2
わからない	5.8	13.8	8.6	4.8	2.7	1.4	7.3
無回答	4.7	6.9	0.0	0.0	5.4	8.6	4.9

H27とR2の調査を比較すると、8つの項目でH27と比べてR2の割合が高くなっており、特に「男性の家事能力を高めるような講座を行う」「市役所がモデルとなり女性管理職の登用など女性職員の積極的な登用と配置を行う」「相談事業の充実やDV被害者のための一時保護施設を設置する」と回答した割合は、5.0%以上高くなっています。



7. 自由意見

(24) 男女共同参画に関してご意見・ご要望がございましたら、どのようなことでも結構ですのでお書きください。

性別	年代	意見や要望
女性	19・20 歳代	目先の解決より 50 年後の変革、やはり幼少期からの教育が基本ではないかと思えます
女性	19・20 歳代	女性は身体的機能で負担があるため、男性と平等に負担が軽減するように取り組みがあればうれしい
女性	19・20 歳代	DV が原因で亡くなった方はたくさんいると思えます。防げたものだってあるのに、適当にしたせいで犠牲になった。このような犠牲者が出ないためにもっと本格的にやってほしいです。
女性	19・20 歳代	家庭・子育ては今でも女性が行うものという認識があるように思います。もっと子育て・出産・家事について男性や社会の理解が得られるといいと思えます。
女性	19・20 歳代	昨年も意識調査について回答しましたが、今年もしました。私はそこまで男女での差を感じることはなく生活させてもらっていますが、職場によっては昇進に差があったという話は聞いたことはあります。外国のようにもっとどの職場においても同等に接せられ、男女共に育休や介護の為に休みがとれるようになるといいと思えます。*小城市はとて住みやすく子育てもしやすそうな環境だと思います。
女性	19・20 歳代	このような意識調査を行うことも、男女共同参画について学ぶ・教える・知る・知ろうとする・行動するきっかけになると思えました。このような調査を通して伝えていくことも大切だと感じ、今後行ってほしいと思えました。学ぶ機会を作ってください、ありがとうございました。
女性	19・20 歳代	少し今更感があるかなと思う。今の 50 才以上の方はあまり聞く耳を持たないようなイメージがある。私たちのような若い世代が意識できれば子を持つ教育、職場であれば部下の教育とこれから変えていくことは可能だと思う。若い世代が変えたいと思っても、上の世代の理解がないから、話題になってもいつまでも中途半端で変わってこなかったと思う。
女性	19・20 歳代	職場での男女の格差？的なものは、まだまだ多い気がします。妊娠や妊婦さんへの理解も少ないですし、嫌な顔をされている光景も目にしてきました。 現に今の職場では、妊娠したら産休制度もないので長く続けることが難しいです。さらに、男の上司からは、妊娠の時期は考えてほしい等と言われていています。(子どもなんて、作ろうと思った時に出来るものでもないのに。) もう少し、職場での理解が増えるような講座や、動きをおこしてもらえたらと思えます。
女性	19・20 歳代	子育て支援をもっと充実させてほしいです！預かり保育等。育休中で保育園に上の子(2才)を預けることができません。0才の子がいて、毎日の育児がとてとても大変で体力的にも精神的にもきついです。2才とはいえまだ1人で何もできないし、日中は「ママママ」です。最近佐賀市から引っ越してきたのですが、佐賀市の方が子育てしやすかったです。
女性	30 歳代	自分が無知という事は、思い込みや偏見をより生み出すと思えます。市が広報活動などをどんどん行ってきて、知る機会を増やして行けたら、正しい認識を身に着ける事が出来るのではないかなーと思えました。 調査や統計など、多忙と思いますが、市民の為にありがとうございます。
女性	30 歳代	共働き家庭、独り親家庭、ワンオペ育児になりやすく、もっと男性も家事・育児に協力ではないですけど、男性が積極的になってくれる社会になってくれたら、一人で悩まず今よりも楽しく生活ができるのではないかと。 独り親家庭も少し休めてリフレッシュできるような児童を預けられる施設などが増えてくれたら…
女性	30 歳代	仕事と家庭の両立を図る上で、保育園の施設が不十分すぎると思う
女性	30 歳代	子育て中の女性をもっと働きやすい環境が増えますように

性別	年代	意見や要望
女性	30 歳代	理想はわかる。でも身体的な性差はあるわけで、それはどうしようもない。平等にできることできないことを見極めるべき。また、アクションを起こさないと変わらないと思う。あとは、女性自身の意識の変化も大事。みんながやろう！ってならないと変わらない！！
女性	30 歳代	”男女平等”と言われていているが、生活のどこかでそれが叶っていないところが多々ある。色んな場面で”男女平等”な考え方が取り入れられるともっとよりよい地域になると思う。
女性	30 歳代	最近、共働き・核家族が増えています。このコロナ禍で子供を預けれる保育園・こども園・幼稚園での時間外の料金が高いと思います。平等にと言っているけれど、休園・休校の際は必ず女性がまず休みます。体調不良時もまずは女性が職場に相談します。ただでさえ行事などで有休を使っているのに、結局は欠勤になり給与よりカットされます。コロナもあり休みも増えました。自宅で過ごすことが増え、光熱費が増えています。もう少し補償関係を充実させて頂きたいです。
女性	30 歳代	PR や呼びかけ運動をしても、ほとんどが男性メインになる考えが現実。中小企業においては人事不足で男性が育児休暇をとれないという理由で女性が休むしかない。めんどくさいという男性の考え、まかせようと言う女性の考えがまとまらないと言っている人が変わり者扱いになる。
女性	30 歳代	男女共に理解する事が大事だと思うが、男女共に 20 代より 30 代以降の方への理解が進むような取り組みが必要だと思う
女性	30 歳代	30 代子育て世代です。新しい施設だと男性トイレにおムツ交換台がありますが、そうでない施設だと設置されていない所が多いです。小規模レストランとなると女性の方にしかなかったり。私の主人も「おムツ換えは女がするもの」と思っているの、外出時は「うんこしてるよー」と言って私に子供を預けます。「おムツ交換台は男子トイレにない」という認識が根底にあるので(恐らく多くの男性は思っているのでは?)その概念を払拭して欲しいな…とと思っています。佐賀の男性は全国一のイクメンとか言われていますが、我が家がそうでないのが実感できません…パパ、もっと育児に協力して！と思いますが、そもそも「協力」という言葉もおかしいなとも思います。社会全体で子育てするという認識を持つために足がかり的なものを何かキャンペーン?とかでして欲しいなあ…と日々思っております。
女性	40 歳代	家庭内の DV、会社や社会でのハラスメント、子どもへの虐待など…法律や社会での対応はだんだんできていると思いますが、まずは、その実態を見つけることが大事だと思います。見つけるための方法を小城町でも考えてほしいと思います。(相談窓口があっても、誰に見られ、聞かれているか…と心配し、表面には出さない人が多いと聞きました)
女性	40 歳代	女性は仕事が休みの日でも家事は休めない、休日もフルに家で働いています。男性は家で休みの日はゆっくりできるのに…。女性は 365 日休めない。男性よりも女性は働きすぎだと思う。(掃除、洗濯、料理、子供の世話、買物 etc)女性もゆっくりできる日があってもいいと思う。ストレスをためない日常がくるといいと思う。
女性	40 歳代	男女共同参画の制度を作っていくのも重要だが、人々の意識を変えていく事はとても難しい事だと思う。まずは行政の立場の人やメディアなどから変わる事を絶えず発信してもらえれば一般の方々にも進んでいくのではないかなと思う。
女性	40 歳代	私の職場は女性の職員が多く、人数が多い分男性よりも女性の意見が通りやすいように思います。バランス的には良くないですが、雰囲気は悪くなく男性の職員さんも押されてばかりでなく、仕事をしやすい環境を作ってくれているようで私は悪くないと思っています。官公庁に勤めているので、民間の職場の雰囲気などわからないので、男女共同参画を推進するためにどのような取り組みを行っているのか公表するような場を設けるのもいいかなと思います。
女性	40 歳代	家事や育児は夫婦であれば夫も行うべきこと。ですが、残念ながら「参加する」や「手伝う」などの表現が使われること自体が変だと思います。北欧の国の良い制度を参考にもっと日本社会全体が変わらないといけないと思っています。ぜひ小城市で先駆的な取り組みが実施されることを期待します。
女性	40 歳代	異性の理解がないのは想像が付きやすいが同性の理解を得られないことも多く、よりショックが大きい。年代の差があってもなくても考えに差が大きいこともある。全員が同じ考えにならなくても他人の考えを批判したり、自分の考えを押し付けることの無い様、多様性を認めるような教育が全年代に必要なではないかなと思う。

性別	年代	意見や要望
女性	40 歳代	男性の育児休業の取得で、男性が休業中に本当に育児に参加してくれる保障はない。それをいい事に休みを満喫するのでは？女性の負担が育児と夫の世話と増えてしまうのではないだろうか？
女性	40 歳代	・性別は 1 つではないから性差が生活の中ででてしまうのは仕方がない部分もあると思う。ただ、全て平等ということよりもそれぞれの”性”を理解しながら尊重し合いながら、力をあわせるべきところ、平等に扱うべきところ、違いを認めるべきところ、このようなことが社会全体で認められるようになってこそ前進していくものではないかと思う。また、幼児期・小・中・高・学生、成人してから～生涯を通して家庭でも社会でも教育していくことが大切なのではないか。 ・女性が仕事をしていること＝社会貢献・復帰・活躍という考えに違和感がある。仕事をしたい・活躍したいということはもちろん認められるべきであると思うが、仕事をやめて又は育児休暇を取って子育てすることも立派な社会貢献・活躍だと思う。
女性	40 歳代	市議会議員の女性の比率目標を 50%にする。一般企業でも公務員並の保障があれば産休・育休・介護を男女共に行いやすくなると思う。
女性	40 歳代	学生時代、男女共同参画という言葉・内容など、まったく教えてもらっていないので、このアンケートは答えるのが難しかったです。
女性	40 歳代	家事・育児について我が家では分担ができていて不満はないが、それはお互いにきちんと話して少しずつ折り合いをつけた結果だったと思う。それぞれの家庭状況やとりまく環境が違うので決めつけることはできないが、性差によってどちらかが苦しまないような社会になってほしい。
女性	40 歳代	・子育ての時に、子供たちにしっかり伝えた方がいいと思う。成人した大人は、どうしても理解しにくいと思う。 ・面前DVは公園や病院やお店で見かける事が増えてきていると思う。声をかけたりするのはなかなかむずかしい。
女性	40 歳代	男女平等とは言っても、力の差や子供が産める産めないなど個々で違います。社会の「こうあるべき」という決めつけはもう古い考えだということをや若い世代に伝えていくことが素晴らしい未来につながっていくと思います。やりたいことをやる、自由に、相手を見とめ合う世の中になってほしいです。そこに暴力や暴言は1つも必要ないと思います。子どもたちはそのような世界を作ってくれればいいと思います。
女性	50 歳代	国がやるべき事であり、市がお金を使ってまでやるべきことではない。ムダ。
女性	50 歳代	核家族が進む中、出産をして仕事をしながら、家事・育児の両立は大変なものです。保育所や病児保育、学童保育等の環境の充実をやっていって頂きたい。又、小学校低学年までの子供をもつ母親の仕事の仕方では企業も柔軟な対応をお願いしたい。(就業時間、休み等) 最近、男性も積極的に育児に参加される方も見受けられ、そういう方が増えると子供の成長にもとても良いと思います。子供は女性しか産めません。今は共働きではないと収入的にやっていけないので女性も働かざるを得ないと思います。
女性	50 歳代	家庭での親の考えは子どもに大きな影響があると思います。つれあいの両親は共働きで、母は先進的な考えを持った人だったので、私が仕事をするにつれあいが協力するようによく話をしてくれていました。つれあいも家事や育児にも協力的で仕事を続けることができました。子育て世代への支援や意識改革を進めることも大切ではないかと思えます。
女性	50 歳代	男性の家事能力が低い。家庭内での家事分担は遠い
女性	50 歳代	・カタカナ用語をへらし分かりやすくする ・男性が家事を全部やってみる ・年長者との同居をさげ、男女で家事・育児をする
女性	50 歳代	私は、ある専門資格ありますが、主人は仕事優先で子育てに関してはほぼ私が行うことが多く、子育て中は単発バイトしかしていませんでした。現在子育てが終わり、いざ自分のための仕事をしようとしても今までの生活パターンがありとてもフルタイムで働くことへの不安が大きい。実際これから残りの人生資格があるにも関わらず身の振り方に悩んでいます。周りは経済的に安定していれば仕事しなくてもよいでしょと言われるが、それだけではないと思う。

性別	年代	意見や要望
女性	50 歳代	小城市で働いているのですが、給料が安いのがどうしても気になります。佐賀市内と比べると、どうもかなり違います。
女性	50 歳代	前月まで働いていた小城市内の会社にて、責任者・上司の方が個人に対して（男性：40代）いじめ、差別を行い退職を促していく行動をされる。私も4か月間いじめ、差別をされて（雪の中ひとりでの仕事など）体調を悪くして退職に追い込まれた。「今月いっぱいまで」とその人に行ったが、『明日から来なくていい』と言われた。このような行動をとられると人間不信になります。仕事は続けたいのですが…このような会社があると不安になります（再就職に）。このような会社を減らす、いやなくして欲しいです。
女性	50 歳代	不貞・浮気で不本意な離婚（調停）になっても最終的に不貞した男性側は何一つ苦労していない。元夫の本籍地での書類受け取りや手続きくらいは親権者とは関係なく元夫が働いても良いと思う。
女性	60 歳代	男女共同参画自体まったく知識がなかったのですが、今回、意識調査に回答させて頂いてまだまだ知識に興味湧いていきたいと思いました。
女性	60 歳代	法の整備とともに地域社会の中で、意識改革をするために施設の整備や研修の場を増やす。コロナで困っている人が増えていると思うので、急いで対策をとってもらいたい。
女性	60 歳代	今まであまり意識していなかったが、これからは男女協力し合っていく社会であってほしい
女性	60 歳代	男女共同参画の言葉がマイナーではないかと思います。高齢の女性でも社会に影響を与える人が沢山いらっしゃる事がTVや雑誌で知る事が出来、頑張っていると思えます。私達は女だから…と育てられた方なのですが、これからの家庭の中での教育が大切になってくると思います。今の若い人達は案外家事も分担してうらやましい限りですが、これからはそうなくなっていかなくてははいけないと思います。だけど、出産をするのは女性…女性だけにしか出来ない事を大切にしつつ女性の活躍が平等に出来る世の中になって欲しいです。
女性	60 歳代	私たちが子育ての時代は旦那さんはほとんど子育ての手伝いはしてくれなかった。でも今はイクメンが多くうらやましい限りである。小城市役所は男性の人の役職が多いですが、女性役職も多く、調和がとられていると思います。
女性	60 歳代	森オリンピック大臣の発言にあるように、ある一定の年齢の方々の根底にあるもの、教育が時代背景がいなめない。これからの世代を担う子供達への教育をしっかりと学校教育か社員教育の場でやっていくべきだと感じます。
女性	60 歳代	このような調査を定期的実施してもらえば、ジェンダーの平等意識が高められる気がする
女性	60 歳代	男女共同参画の講演等を一度参加してみましたが、そこではやはり理解されていない男性が役員として壇上におられました。これで男女共同参画なのかと少々落胆しました。地域のリーダー的存在を選出する時は厳選してほしい。何か役員をしていたなどの事で選出してほしくありません。正しい意見等をはっきり言える方を選出してほしい。又その為にも講演や教育の場が必要と思われれます。
女性	60 歳代	ワークライフバランス、実現、とりくみ
女性	60 歳代	子どものころからの教育が大切ではないかと思う。父母、祖父母からの話や社会からの影響も大きいのではないかと。それによって大人や子ども達もよく考え、話し合うことで社会がよくなることを期待したい。
女性	60 歳代	男は食事をした後 食器を片付けるのは女だと思っている。食事を作るのも女だと思っている。
女性	60 歳代	男女平等教育の充実が大切だと思います。小さい頃から自分を大切にする「気持ち」や相手を思いやる「心」を育てて、お互いの違いを理解していくのが大事だと思います。お互いの違いを知り、受け入れることで共同の取り組みが進むのではないのでしょうか。
女性	70 歳以上	男女共同参画に関する用語 横文字が多くて私にはむずかしかったです。

性別	年代	意見や要望
女性	70歳以上	<ul style="list-style-type: none"> ・女性を優遇しようとするあまり、能力がないのに登用されることもあり、目的だけを求め、プロセスが間違っていると感じることもある。 ・議会に女性を増やすことで忸度ない社会を目指さないとよくならない。 ・働き方がまず問題！行政から早く帰り、子育てなど係る仕組み作りを ・地域の大人・子どもがもっと学ぶ場づくりの必要性
女性	70歳以上	お互いの性を理解し、らしく在れの精神を持ち、それぞれの特徴を生かす様にしたらどうかしらと思います。
女性	70歳以上	男女が共に歩んでいける、社会環境をめざしてください。
女性	70歳以上	コロナの収束が進まない今日 また、ニュースで東京五輪会長の男女差別が批判され国全体の問題でもあります。残念です。
女性	70歳以上	誰でもがわかりやすく、相談できる場所があって欲しいです
男性	19・20歳代	(23)の4、是非やってほしい。参加したい。
男性	19・20歳代	生活する上で、男性と女性の体のしくみの違いがあり、ある程度気を使いながら行動することは仕方ないと思います。ただ、「女性限定」等の表示を見ると、モヤっとすることは多々あることだと思います。
男性	19・20歳代	男女共同参画を推進した結果、どういう場でここが良くなったというような実例を周知することで市民の意識向上がはかれるのではないかと思います。(メリットを示す)
男性	19・20歳代	女性の社会進出にこだわる余り「女性は社会進出すべき」「男女は平等に家事、育児に関わるべき」といった逆方向の「べき論」が成長しているように感じます。重要なのは男女それぞれの意思と合意が尊重され、快適な生活を送ることができる社会を目指すことであり、社会全体の均一化が目標ではないことに気を付けて頂きたいと考えます。
男性	19・20歳代	いくら窓口や施設を増やしても、認知が追いつかなければ意味がない。初期コストのかかるハードを増やすのではなく、既にあるものの質を上げていくことの方がいいと思う。
男性	19・20歳代	<p>男女共同参画を推し進める中で、</p> <p>①育児に対する積極的な施策（子育て世帯に対する補助金交付もしくは税免除等の金銭面の支援、効率に加え民間の保育所・児童クラブの設営支援及び条例制定 等）</p> <p>②学校教育（特に義務教育）における男女も含め、「あらゆる性についての」教育の実践・制度化（1年・学期に1回、もしくは学級活動のコマを使ってといった部分の義務化、あるいはそれに準ずる）そして実際のがっこうせいかつへの取り入れ（記名における「男女」項目の見直しなど、「男女」の二項目のみでより分けている部分の見直し）→教員に対する勉強会も必要</p> <p>③労働年齢においても比較的年長（50～60歳代）の方々に対する男女共同・性の問題の宣伝活動（テレビ・ラジオ・新聞）</p> <p>といったあたりが重要であると思う。おそらくどれも考えておられることだとは思いますが、私自身の意見として書き留めておく。</p>
男性	19・20歳代	頭かたい人が作った内容なのではないでしょうか。(23)の内容がとてもわかりにくかったです。
男性	30歳代	小城市のみならず、佐賀県全体で男女共に生活しやすい風紀・風潮を作ってもらいたいです。差別や偏見を根絶して欲しい！！
男性	30歳代	誰もが住みやすい街になると良いですね
男性	30歳代	「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という言葉が考えられません。そんな古い考えは今の時代に必要ないと思っています。そのような考えをお持ちの方が世の中にまだいらっしゃるほうが不思議です。
男性	30歳代	こういう事をする事がおかしい気がする
男性	30歳代	働き方や生活での男女格差とDVや性犯罪は別の事だと思う。風呂敷が大きくて何がしたいのか分からない。難しい問題なので優先順位を付けて一つずつしっかり解決した方が良い。DVや性犯罪は肉体的にも精神的にもダメージが大きいと思うので早急に解決した方が良いと思う。刑罰を重くし、抑止力の強化、再発防止をすればこういった事件も減る。上記に繋がるような活動に重きを置いて欲しい。
男性	30歳代	家庭内は特に男性優位という状況は変わることはないと思う。
男性	30歳代	アンケートはQRコードなどネット回答も考えてはどうか

性別	年代	意見や要望
男性	40 歳代	・女性を優遇しようとするあまり、能力がないのに登用されることもあり、目的だけを求め、プロセスが間違っていると感ずることもある。 ・育児、産前産後休暇を女性が取りやすいようにすることは大切だが、そのためには新たな雇用が必要であったり職場にとっては負担があるのも事実。男性の育児休業取得が少ないのにはこれも理由にあると思う。
男性	40 歳代	生活困窮世帯や障害・疾患を抱える世帯に課題が内在している場合もある。(特にこれから増加しそう…) 小城市に足りてないサービスをつくっていく。(福祉拠点、生活介護、相談支援、不登校支援、子ども食堂…)
男性	40 歳代	男女の性別だけでなく、人はみな平等であるとの意識を自然ともっていることが基礎ではないでしょうか。幼少期からの「教育」また「家庭教育」「地域における教育」をもって養っていくことが大切だと考えます。
男性	40 歳代	小城市役所にお見合い課の設置をお願いします。武雄市もお見合い課がありますし、基山町も婚活関係のイベントとかされています。小城市役所にお見合い課を設置することでプラスになるし小城市の人口増加が見込まれます。ご検討よろしくをお願いします。
男性	40 歳代	男女共同参画の推進は、必要かもしれないが、そもそも男、女と区別して考えてくこと自体問題があるようにも思う。身体的な違いはあるが、どんな場面においても、男・女の違いではなく、一個人として、その人の能力や性質を評価する社会であって欲しいと思います。LGBTの考えも浸透してきている中、男・女の性別に拘りすぎるのはもう古い考え方なのでは…と感じます。
男性	50 歳代	私は日本国は平等(男女平等)な国だと思っています。世論では、男女平等ではない事などを報じられていますが、一部の社会でその様な事がまかり通っている事がある様で改めていく必要があるものと思っています。
男性	50 歳代	男女共同参画が進まない一因に「女性のため」を強調して施策等を進めることに偏っていることが挙げられると思います。これでは、男性の積極的な協力や理解が得られにくいと思います。男女共同参画の推進は、男性の責務を緩和し、男性のワークライフバランスの向上につながる等の「男性のため」という視点を盛り込んだ方が、男性の理解や協力が得られると思います。
男性	50 歳代	男性、女性共に権利を主張するのではなく、お互いに”歩み寄る”気持ちも特に大切だと思います。
男性	50 歳代	学校教育の場に任せて、長期的に考えるしかない。
男性	50 歳代	アバンセで男女共同参画の取り組みをされていることは知っていたが、具体的な内容については理解していないことを知った。また、小城市でも取り組まれていることはあまり分かっていなかったが、さくらプランという言葉だけは聞いた(見た)ことがあった。どの様な取り組みをされているか、分かる(広く市民が理解できる)ようになれば良いと思います。受け手側の問題もあるかもしれませんが。
男性	50 歳代	国のリーダーや会社、組織のリーダー等に女性が少ないと思います。社会の雰囲気は外国よりもずいぶん遅れていると思います。長年の雰囲気は簡単には変えられないと思うので、若い人達(幼・小・中・高・大)に男女共同についての知識を教えていくのも大切だと思います。時間はかかりますが、長い目で進める必要があると思います。身近なところでは、地域の区長さんに女性が一人もいません。昭和に生まれた世代の意識はなかなか変えられないと思います。そちらに労力を使うのは時間とお金のムダのような気がします。小城市の子どもたちに対する事業の充実を期待しています。
男性	60 歳代	男女共同参画の前に行行政でする事を考えて暮らしやすい小城市にして欲しいです
男性	60 歳代	特に思いがある訳ではありませんので、女性の社会的立場が向上した社会が良いとは思っています。ただ、男女が対立するような事は望みませんが、互いに尊重する関係性を望みます。
男性	60 歳代	子供を産めるのは女性である時点で平等には扱えない問題だと思います。少子化問題と相反する事項でもあり、全てにおいて平等にするのは女性の方としても迷惑だと思います。
男性	60 歳代	小城市も他市に負けない様にインフラの充実と BCP 対応の更なる充実を求む。

性別	年代	意見や要望
男性	60 歳代	能力で判断すればよいと思う。「何が何でも男女平等という考え方はおかしいし、職場 etc で職位を同数とする必要はない。男性は子を産めない」これから、共同参画は当然なことだと思うが、ことさらに共同参画などと声高に言う必要もないと思う。
男性	60 歳代	男女共同参画は今後の日本では重要な問題ですが、私が思うに昭和以前生まれの人間が社会の中核にいる間は実現できないと思います。なぜなら、差別社会に生きてきたから、根本を変えるのは難しい。頭では理解や納得ができていても、無意識で差別の意識なく差別するからです。 教育の現場から高德意識を変えていかないと無理と思います。平成生まれの方々が中心に活動してください。
男性	60 歳代	親子、夫婦、恋人、友人間や家庭・職場、地域等で女性の目線・視点での配慮や権利（言動・行動・生活様式）を守ってもらって幸せを実感した事例のPRと女性から男性への感謝状の贈呈式、記念日の設定 2/2 or 11/22 ベストパートナーシップの日
男性	60 歳代	男女共に人間であり、平等と思っているので、このアンケート自体、差別を前提としているように思う。
男性	60 歳代	コロナで収入が減り生活がなっていない。税金ばかり役所はとって市民は生活に困っている。今男女共同参画という事はいい。市民に生活資金を渡すべき。スマートインタチェン（スマートインターチェンジ？）でなっておかしい
男性	70 歳以上	男性・女性の身体的、精神的特徴を十分に理解した上での男女共同参画であって、何もかも男女平等であるという考えが前面に出るのは間違っていると思う。互いに補完しあうという考えを持っていれば良いと思う。
男性	70 歳以上	市民の意見を聞く前に市の方針計画を作成した上、その方針計画について調査したが良い。市の主体性がすべての市の方針計画に乏しい。
男性	70 歳以上	男女共同参画に関しての問題点はほとんどが個人の考え方の相違に由来しているので、子供の時からの教育が大切になってくると思う。子供の時からの男女平等の心を育てなければと思う。
男性	70 歳以上	特にはありませんが、男女は平等である事を推進して欲しい。
男性	70 歳以上	男女共同参画の文字や言葉は知っているが、具体的内容、事例が分かりづらい。市民一人ひとりに理解できるような積極的な広報啓発活動が必要かと思えます。
男性	70 歳以上	専門家を入れて討論会をしては
男性	70 歳以上	女性のする仕事が少ない
男性	70 歳以上	世の中、男・女以外に無い、特別な人（男→女）も存在する。現実、戦後生まれの人たちからすると時代が変わったからでは理解できず納得できない面が大です。幼少期の教育・学校・及び家庭においても頭の中（芯）で現在の環境に対応できる迄には、本人の努力と実行の繰り返しの日々と思われます。世の中男・女が力を合わせ協力し目的（目標）に向かい成果（結果）を出すために、その中には自己啓発、相互啓発があり改善策が二人の間で出来る。お互いの主張ばかり出しても改善策が出ずで結果は望めないと思いますが、しつこい様ですが男と女、（ここで記述終わり）
男性	70 歳以上	このようにアンケート調査をされていますが、小城市が「男女共同参加」について具体的な施策を行っていないように思います。又、何か施策を行っているとしても一般市民には伝わってこない。 ※このアンケート用紙について、「この用紙は機械で処理します。解答欄以外に書き込みをしたり、用紙を汚したり、折り目を付けないように注意してください」とありますが、返信用封筒には折ってしか封入できません。したがって折り目がつきます。このように小城市役所方は民間企業の方とは違いやり方が矛盾してます。男女共同参加についても何をしているのかわからない。これは江里口市長が悪いのでしょうか？

參考資料

男女共同参画に関する市民意識調査

調査の目的とご協力をお願い

平素から、小城市政の推進につきまして、ご理解とご協力をいただきありがとうございます。

小城市では、男女共同参画を推進するために「小城市男女共同参画プラン」を策定しています。この度、その基礎資料として「男女共同参画に関する意識調査」を行い、市民のみなさまのお考えを伺うことになりました。

本調査は、小城市にお住まいの19歳以上の方2,000人を対象とし、無作為に選ばせていただいております。調査の結果につきましては、すべて統計的に処理した上で分析し、他の目的に使用することはありません。

つきましては、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

令和3年2月

小城市長 江里口 秀次

◆ ご記入にあたって ◆

- 1 この調査は、あなた（あて名の方）ご自身のお考えで回答してください。
- 2 ご回答は、特に説明のない限り、あてはまる項目を選び、マークをしてください。
- 3 回答が「その他（ ）」にあてはまる場合は、お手数ですが（ ）内になるべく具体的にその内容をご記入ください。
- 4 一部の方だけにお答えいただく設問もあります。
- 5 ご回答いただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手は不要）に封入をし、**令和3年2月22日（月）**までにポストへ投函してください。

【調査主体・お問い合わせ】

小城市 総務部 企画政策課
協働推進係（担当） 挽地・古賀
TEL：0952-37-6115



選択式の回答は、該当箇所のマークを塗りつぶしてご回答ください。

○: 空白マーク ●: 正しいぬりつぶし /: 不十分なぬりつぶし

記述式の回答は、回答欄からはみ出さないように記入してください。

この用紙は機械で処理します。回答欄以外に書き込みをしたり、用紙を汚したり、折り目を付けたりしないように注意してください。

あなたご自身（ご回答者）についてお伺いします。

(1) あなたの性別をお答えください。

- 1.女性 2.男性 3.その他

(2) あなたの年代をお答えください。（令和3年1月1日現在）

- 1.19・20歳代 2.30歳代 3.40歳代
 4.50歳代 5.60歳代 6.70歳以上

(3) あなたは結婚されていますか。

- 1.結婚している
（事実婚を含む） 2.結婚したが離別・死別 3.結婚していない

(4) 【(3)で「1.結婚している（事実婚を含む）」と回答された方】

共働きをいらっしゃいますか。（パートや内職を含む）

- 1.共働きしている 2.共働きしていない

(5) お子さんはいらっしゃいますか。

- 1.いる 2.いない

(6) あなたの家族構成をお答えください。

- 1.ひとり暮らし 2.夫婦のみ 3.親と子
（二世世代家族）
 4.親と子と孫
（三世世代家族） 5.その他

(7) あなたの主な職業はどれですか。1つ選んでマークしてください。

- 1.会社員・団体職員 2.自由業・自営業・家業
 3.パート・アルバイト 4.公務員・教員
 5.主婦・主夫 6.学生
 7.無職 8.その他



家庭生活についてお伺いします。

(8) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、あなたの考えに近いものを1つ選んでマークしてください。

(ここでの家庭生活とは、仕事以外の全ての生活をいいます)

- 1.賛成
- 2.どちらかといえば賛成
- 3.どちらともいえない
- 4.どちらかといえば反対
- 5.反対

(9) 仕事と生活について、あなたの考えに近いものを1つ選んでマークしてください。

(ここでの家庭生活とは、仕事以外の全ての生活をいいます)

- 1.「仕事」を優先したい
- 2.「家庭生活」を優先したい
- 3.「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
- 4.わからない

(10) 仕事と生活について、あなたの現実（現状）に近いものを1つ選んでマークしてください。

(ここでの家庭生活とは、仕事以外の全ての生活をいいます)

- 1.「仕事」を優先している
- 2.「家庭生活」を優先している
- 3.「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- 4.わからない

(11) あなたは、1日に平均してどれくらいの時間を家事（育児・介護を含む）にかけていますか。それぞれ1つずつ選んでマークしてください。

		1.全くしていない	2.30分未満	3.30分以上1時間未満	4.1時間以上2時間未満	5.2時間以上3時間未満	6.3時間以上
1	平日	<input type="radio"/>					
2	休日	<input type="radio"/>					

※「家事（育児・介護を含む）」とは、育児、介護、食事の支度・片付け、掃除、洗濯、買い物、ゴミ出し、地域活動、子どもの行事とします。



教育・子育て・介護についてお伺いします。

(12)あなたは、子どもの育て方について、どのように考えますか。あなたの考えに近いものをそれぞれ1つずつ選んでマークしてください。

	1.賛成	2.どちらか といえば賛成	3.どちらとも いえない	4.どちらか といえば反対	5.反対
1 男女を問わず、経済的に自立できるように育てた方がよい	<input type="radio"/>				
2 男性はたくましく、女性は家庭的であると好まれる傾向もあるので、そのように育てた方がよい	<input type="radio"/>				
3 男女を問わず、生まれ持った個性・才能を可能な限り活かして育てた方がよい	<input type="radio"/>				

(13)令和元年度の厚生労働省の調査によると、育児休業の取得割合は女性83.0%、男性7.48%でした。あなたは、男性の育児休業の取得が進まない理由は何だと思えますか。あてはまるものから3つまで選んでマークしてください。

(育児休業とは、子ども2歳になるまでに取得できる育児休暇のことをいいます。)

- 1. 自分の仕事の代わりをしてくれる人がいないから
- 2. 同僚の理解が得られないから
- 3. 上司の理解が得られないから
- 4. 収入が減るから
- 5. 人事評価や昇給に影響があると思うから
- 6. 休む必要がないから
- 7. 育児に自信がないから
- 8. 育児休業の取得の前例がないから
- 9. 男性が育児休業を取得するのは恥ずかしいから
- 10. わからない
- 11. その他 ()



夫婦や恋人同士などの暴力についてお伺いします。

(17)夫婦や恋人同士などの親しい間で、身体的・心理的な暴力を受けること（ドメスティック・バイオレンス＝DV）が問題となっていますが、あなたは、5年以内に次のようなことをしたりされたりしたことがありますか。それぞれ1つずつ選んでマークしてください。

	1.されたことがある	2.したことがある	3.どちらもある	4.どちらもない
1 殴る、蹴る、髪を引っ張る、首をしめる、物を投げつけるなど身体的な暴力	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2 性行為の強要	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3 大声でどなったり、暴言を吐く	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4 「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別する	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性なし」とののしる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6 交友関係や電話、SNS、お金の使い道などを細かく監視する	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7 社会活動や就職を許さない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8 デート費用等を全く払わない、生活費を渡さないなどの経済的な暴力	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9 病気などで身体が動かせない時なども食事の支度をさせる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
10 何を言っても、無視し続ける	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
11 その他（ ）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

★マークのしかた



(20)あなたは、DVや性犯罪などをなくすためには、どうしたらよいと思いますか。あてはまるものすべてにマークしてください。

- 1. 法律・制度の制定や見直しを行う
- 2. DV防止法やストーカー規制法など法律・制度の周知を図る
- 3. 法律に盛り込まれた施策を十分に展開する
- 4. 犯罪の取り締まりを強化する
- 5. 捜査や裁判での担当者に女性を増やし、被害者が届けやすいようにする
- 6. 被害者を支援し、暴力に反対する市民運動を盛り上げる
- 7. 被害者が安心して相談できる窓口を確保する
- 8. 被害者を保護するための施設を整備する
- 9. 家庭における男女平等や性についての教育を充実させる
- 10. テレビや新聞などのメディアが自主的な規制をする
- 11. その他 ()

★マークのしかた



男女共同参画についてお伺いします。

(21)これらの言葉や内容を知っていますか。それぞれ1つずつ選んでマークしてください。

	1.聞いたことがあり、 内容まで知っている	2.聞いたことはある が、内容は知らない	3.聞いたことがない
1 男女共同参画社会基本 法	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2 小城市男女共同参画プ ラン（さくらプラン）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3 女性活躍推進法	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4 女性のエンパワーメン ト	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5 ワーク・ライフ・バラ ンス	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6 育児・介護休業法	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7 ハラスメント規制法	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8 セクシュアル・ハラス メント（セクハラ）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9 セクシュアル・マイノ リティ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
10 LGBT（LGBT s）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
11 DV防止法	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
12 ドメスティック・バイ オレンス（DV）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
13 面前DV	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
14 デートDV	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
15 ジェンダー平等 ※SDG s 第5の目標	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
16 アンコンシャス・バイ アス（無意識の偏見）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

★マークのしかた



(24)【自由意見】

男女共同参画に関してご意見・ご要望がありましたら、どのようなことでも結構ですでお書きください。

意識調査にご協力いただき、ありがとうございました。

同封の返信用封筒に入れて、令和3年2月22日（月）までに郵便ポストへ投函してください。

問（21）の男女共同参画に係る用語の解説を次のページに記載しておりますので、ご覧ください。



※男女共同参画に関する用語解説

【女性のエンパワーメント】

…女性が自分自身の生活と人生を決定する権利と能力をもち、様々なレベルの意思決定過程に参画し、社会的・経済的・政治的な状況を変えていく力をもつこと。

【ハラスメント規制法】

…2020年6月（中小企業は2022年4月から適用）に施行された改正法の総称。パワハラ防止対策関連法、パワハラ防止法。労働環境のハラスメント防止対応と対策を義務付けている。

【セクシュアル・マイノリティ】

…性的少数者。身体的性・性自認・性的指向・性表現の在り方が多数派と異なる人のこと。

【LGBT（LGBTs）】

…性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）のうち、代表的とされるタイプの人たちで、レズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシュアル（両性愛者）、トランスジェンダー（性別違和者：身体や戸籍の性別に対して違和感を覚える人）の頭文字をつなげた用語。なお、性的少数者は、LGBT以外のタイプの人たちもいることから、その多様性を示すため「LGBTs」と複数形で表記することもある。

【面前DV】

…近年の増加率が高い児童虐待（心的虐待）のひとつ。家の中など子どもの前で、配偶者等に対する暴力や暴言などの行為のこと。

【デートDV】

…交際中の恋人への暴力行為。殴る、蹴るといった身体的な暴力のほか、罵倒（ばとう）する、金銭を要求する、性行為を強要するなどの行為も含まれる。

【ジェンダー平等】

…だれもが、自分の性別（ジェンダー）にとらわれることなく、個々人の対等性と多様性を尊重されながら生活できる社会を目指すこと。

SDGs：2015年に国連で採択された持続可能な開発のための世界目標

【アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）】

…人が無意識に持っている、偏見や思い込み。経験則によって、気づかないうちに身につけたもので、本人が意識しないところで、行動や意思決定に影響を与える。